



令和5年度ACC 実習シラバス

(第6学年)

獨協医科大学

目 次

ACC (Advanced Clinical Clerkship) について	1
各科 ACC 実行委員及び初日の集合場所・時間	4
獨協医科大学医学部における災害等発生時の授業等の取り扱い要領	6
<大学病院>	
内科学 (心臓・血管)	9
内科学 (消化器)	14
内科学 (血液・腫瘍)	18
内科学 (腎臓・高血圧)	23
内科学 (神 経)	28
内科学 (内分泌代謝)	32
内科学 (呼吸器・アレルギー)	36
内科学 (リウマチ・膠原病)	40
精神神経医学	45
皮膚科学	51
放射線医学	55
ゲノム診断・臨床検査医学	61
小児科学・小児外科	65
外科学 (上部消化管)	70
外科学 (肝・胆・膵)	76
心臓・血管外科学	82
呼吸器外科学	87
脳神経外科学	92
整形外科学	100
泌尿器科学	104
眼科学	109
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	114
産科婦人科学	117
形成外科学	121
麻酔科学	125
救急医学	130
口腔外科学	134
リハビリテーション科学	139
病理診断学	144
総合診療医学	147

<埼玉医療センター>

糖尿病内分泌・血液内科	155
呼吸器・アレルギー内科	158
消化器内科	162
循環器内科	166
腎臓内科	169
脳神経内科	173
小児科	176
こころの診療科	180
皮膚科	183
放射線科	186
総合診療科	189
外科	193
整形外科	196
心臓血管外科	200
呼吸器外科	203
小児疾患外科治療センター	207
産科婦人科	210
眼科	214
耳鼻咽喉・頭頸部外科	217
脳神経外科	220
泌尿器科	227
形成外科	231
救急医療科	234
麻酔科	237
総合がん診療センター	240
乳腺科	244
臨床検査部	247
病理診断科	251
リハビリテーション科	255
血管内治療センター	259
移植センター	266
子どものこころ診療センター	271
集中治療科	274
超音波センター	277
<日光医療センター>	281

科目名：ACC（Advanced Clinical Clerkship）

医学部各科実習担当教員

1. 目的

信頼される医師になるための問題解決能力、診療技能、態度を身に付ける。

ACC では、CC で培った知識や技術を基に、更にステップアップし、医療チームの一員として実習することになる。

その他、診療科ごとの目的を参照。

2. 実習内容

- 1) 期間は2023年4月3日（月）より2023年6月30日（金）までの12週間とする。
- 2) 実習先は希望アンケート及び総合試験の成績を加味して決定する予定であるが、別の方法とする場合もある。詳細は別途連絡する。
- 3) 基本的な実習時間は月～金の9:00～17:00までとし、担当科によっては時間外及び土曜日にも実施することがある。
- 4) 各診療科の週間予定表のとおり行動すること。なお、週間予定表の実習時間以外も病棟実習、外来実習等があるので指導医の指示に従い行動すること。
- 5) その他、診療科ごとの実習内容及び実習方法を参照すること。

3. 準備学修（予習・復習等）

実習開始前までに各診療科の実習内容等をよく確認し、関連する教科書や参考書等の情報を得たうえで、その教材について十分に目を通しておくこと。

また、実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。診療科によっては、予習・復習の方法およびそれに必要な時間を定めているところもあるので各診療科の内容を参照すること。

CC中に記入した臨床実習の到達目標などにより、CCで培った知識を再確認してACCに臨むこと。

4. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 各診療科において試問等を実施し、フィードバックを行う。
- 2) 診療科によっては、ルーブリック、miniCEXなどの方法によりフィードバックを行う。

- 3) レポートを課す診療科では、レポート返却時のコメントや添削によりフィードバックする場合がある。

5. 学修の到達目標

- 1) 患者の診察が的確にできる。
- 2) 病歴、診察所見、検査結果より問題点をピックアップし、問題解決への方策が立てられる。
- 3) 患者・家族と良好な関係を樹立し、医療従事者と協調できる。
- 4) 医療チームの一員として診療に参加することで、卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。
- 5) その他、診療科ごとの到達目標を参照すること。

6. 成績評価の方法・基準

- 1) ACC は、第6学年の卒業要件の1つであることから、不合格の場合は卒業することができない。実習成績が不合格となった場合は、速やかに当該科の教授や先生と打ち合わせた上で、再実習を行うこと。
- 2) 実習評価は、各診療科の特殊性等を考慮し、各診療科独自の評価基準を以て総合的に評価する。
- 3) 第6学年において、Post-CC OSCE を実施する。この成績は第6学年の卒業判定の対象となる。詳細は改めて連絡する。

7. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学が定めるディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）において、ACC (Advanced Clinical Clerkship) では主に下記を身につけるための科目である。

臨床能力

- 1) 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。
- 2) 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。

プロフェッショナリズム

- 1) 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。
- 2) 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。

人間性

- 1) 医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
- 2) 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。

8. 教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

医学教育モデル・コア・カリキュラムが示す、G-1-1)-(1)「医師として求められる基本的な資質・能力」を常に意識しながら Advanced Clinical Clerkship (ACC) を行う。

その他、診療科ごとの教育課程内の位置づけや水準を参照すること。

9. その他

- 1) 実習希望先アンケートで宿泊を希望した学生は、埼玉医療センター日光医療センターでの実習時に、宿泊することができる。
- 2) 埼玉医療センターでの実習は、CC 同様、自家用車の使用は禁止とする。公共の交通機関を利用すること。
- 3) 地域医療実習として大学が指定する他施設での実習が可能である。
- 4) ACC 期間中に一部の学生が選択できる海外研修は、ACC の一環として認定される。なお、成績は実習先の評価に基づき本学において総合的に判定する。

* 指導教員名について

指導教員名は4月以降変更になる場合がある。

各科 ACC 実行委員及び初日の集合場所・時間

<大学病院>

担当科	実行委員	集合場所	時間
内科学（心臓・血管）	有川 拓男	5階西病棟カンファレンスルーム3	8:20
内科学（消化器）	飯島 誠	6階西病棟多目的室	8:30
内科学（血液・腫瘍）	半田 智幸	新棟8階ナースステーション	9:00
内科学（腎臓・高血圧）	頼 建光	臨床医学棟8階腎臓高血圧内科医局	9:30
内科学（神経）	大沼 広樹	臨床医学棟8階脳神経内科医局	9:00
内科学（内分泌代謝）	相良 匡昭	教育医療棟8階カンファレンスルーム	9:00
内科学（呼吸器・アレルギー）	曾田 紗世	本館4階北病棟ダイルーム	9:00
内科学（リウマチ・膠原病）	有馬 雅史	臨床医学棟2階医局	8:50
精神神経医学	佐藤 由英	臨床医学棟8階医局	9:30
皮膚科学	野老 翔雲	皮膚科外来	8:50
放射線医学	鈴木 淳志	臨床医学棟7階放射線医学医局	9:00
ゲノム診断・臨床検査医学	小飼 貴彦	臨床検査センター前	9:00
小児科学	加納 優治 渡部 功之	新棟3階（3C病棟）第1カンファレンスルーム	9:00
外科学（上部消化管）	室井 大人	臨床医学棟5階503医局	7:45
外科学（肝・胆・膵）	白木 孝之	7階南病棟カンファレンスルーム	7:30
心臓・血管外科学	小西 泰介	臨床医学棟7階カンファレンスルーム	7:30
呼吸器外科学	中島 崇裕	4階東病棟 ※初日が火曜日になる場合は8:00集合	8:30
脳神経外科学	阿久津 善光	病棟9Dカンファレンスルーム	7:30
整形外科	山口 雄史	臨床医学棟5階整形外科医局	8:00
泌尿器科学	国分 英利	4階南病棟	8:30
眼科学	岡安 彬彦	眼科病棟（新棟7階）カンファレンスルーム	9:30
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	今野 渉	新棟6階処置室	7:45
産科婦人科学	河原井 麗正	センター棟4階バースセンター前	7:55
形成外科学	梅川 浩平	臨床医学棟9階形成外科スタッフルーム	8:00
麻酔科学	小松崎 誠	病院本館2階手術室内麻酔医員室	8:00
救急医学	林 健太郎	ICUカンファレンスルーム	8:25
口腔外科学	和久井 崇大	口腔外科外来	9:00
リハビリテーション科学	入澤 寛	リハビリテーション科外来	9:00
病理診断学	金子 有子	基礎医学棟3階病理診断学医局	9:00
総合診療医学	志水 太郎 鈴木 有大	臨床医学棟5階医局	7:30

各科 ACC 実行委員及び初日の集合場所・時間

< 埼玉医療センター >

担当科	実行委員	集合場所	時間
埼玉医療センター実習オリエンテーション		1 階事務室	8:50
糖尿病内分泌・血液内科	原 健二	糖尿病内分泌・血液内科医局	8:30
呼吸器・アレルギー内科	佐藤 英幸	呼吸器・アレルギー内科医局	9:30
消化器内科	片山 裕視	病院 3 階超音波センター	9:00
循環器内科	久内 格	循環器内科医局	8:30
腎臓内科	竹田 徹朗	1 号館 5 階 B5 病棟腎臓内科カンファレンス室	8:30
脳神経内科	沼畑 恭子	脳神経内科医局 (スタッフ棟)	9:00
小児科	大戸 佑二	A4 病棟	9:00
こころの診療科	井原 裕	こころの診療科医局	8:30
皮膚科	須山 孝雪	皮膚科外来	9:00
放射線科	中田 学	放射線科読影室	9:00
総合診療科	齋藤 登	総合診療科外来	8:40
外科	齋藤 一幸	4 号館 E5 病棟ナースステーション	8:40
整形外科	片桐 洋樹	整形外科医局	9:00
心臓血管外科	齋藤 政仁	F3 病棟スタッフルーム	8:00
呼吸器外科	西平 守道	F3 病棟ナースステーション	8:00
小児疾患外科治療センター	長谷川 真理子	1 号館 4 階 (小児病棟)	9:00
産科婦人科	濱田 佳伸	1 号館 3 階産科婦人科医局	8:00
眼科	井上 晋	眼科医局	8:30
耳鼻咽喉・頭頸部外科	穉吉 亮平	耳鼻咽喉・頭頸部外科医局	8:50
脳神経外科	滝川 知司	(月)水：第 1 もしくは第 2 会議室 (火)木(金)：SCU 医師室	8:00 (火)のみ 8:15
泌尿器科	瀬戸口 誠	泌尿器科医局	8:00
形成外科	鈴木 康俊	E6 病棟ステーションカウンター前 (E603 側)	8:45
救急医療科	鈴木 光洋	救命救急センターカンファレンスルーム (初期治療室横)	9:00
麻酔科	橋本 雄一	4 号館 2 階カンファレンスルーム	8:00
総合がん診療センター	新井 学	総診がん診療センター事務室	9:00
乳腺科	辻 英一	乳腺科医局	9:00
臨床検査部	党 雅子	臨床検査部医局	9:30
病理診断科	佐藤 泰樹	病理診断科	9:00
リハビリテーション科	上条 義一郎	リハビリテーション室 (B2 階)	8:50
血管内治療センター	滝川 知司	第 2 会議室	8:00
移植センター	瀬戸口 誠	泌尿器科医局	8:00
子どものこころ診療センター	井上 建	子どものこころ診療センター医局	8:30
集中治療科	長谷川 隆一	埼玉医療センター4 号館 3 階 ICU	8:30
超音波センター	小林 さゆき	超音波センター	9:00

< 日光医療センター >

担当科	実行委員	集合場所	時間
日光医療センター実習オリエンテーション	川本 進也	管理課	8:45

獨協医科大学医学部における災害等発生時の授業等の取り扱い要領

令和2年 8月 1日

制定

(目的)

第1条 この要領は、獨協医科大学（以下「本学」という。）学生の安全確保のため、大雨、洪水、暴風、大雪及び地震等の自然災害の発生時又は不測の事態の発生時における医学部の授業等の取り扱いに関し必要な事項を定めることを目的とする。

(用語の定義)

第2条 この要領において用いる用語の定義は次のとおりとする。

(1)「警報・特別警報」とは、大雨、大雪、洪水、暴風、暴風雪等により気象庁が発令する気象警報をいう。

(2)「授業」とは、講義及び実習を総称していう。

(3)「定期試験」とは、学期末試験及び総合試験を総称していう。

(「警報・特別警報」又は交通機関の運休による臨時休講等の措置)

第3条 医学部キャンパスにおいて、栃木県全域、栃木県央又は栃木県南部地域に、「警報・特別警報」が発表された場合、授業は休講とする。

なお、「警報・特別警報」が解除された場合の授業及び定期試験の取り扱いについては、次のとおりとする。

区分	授業及び定期試験の取り扱い
午前7時までに解除された場合	全日実施
午前7時から午前9時の間に解除された場合	午後実施
午前9時を超過しても解除されない場合	終日休講
授業及び定期試験の時間中に「警報・特別警報」が発表された場合	医学部教務部長が実施の有無を判断する。

2 自然災害及びその他の理由により、交通機関が運休した場合の授業及び定期試験の取り扱いについては、次のとおりとする。

区分	授業及び定期試験の取り扱い
午前7時から午前9時の間に東武宇都宮線及びJR宇都宮線の双方が運休しているとき	午前休講
午前9時を超過しても東武宇都宮線及びJR宇都宮線の双方が運休しているとき	終日休講

ただし、事故等による一時的な運転見合わせは休講としない。

(埼玉医療センター及び日光医療センターへの準用)

第4条 本学埼玉医療センターにおける「警報・特別警報」発表時又は交通機関運休時の授業の取り扱いについては、前条の取り扱いを準用し、条文中「栃木県全域、栃木県央地域又は栃木県南部地域」を「埼玉県全域又は埼玉県東部地域」と読み替え、「東武宇都宮線及びJR宇都宮線の双方」を「埼玉県内の東武スカイツリーライン及びJR武蔵野線の双方」と読み替えて対応するほか、同センター病院長の指示に従う。

2 本学日光医療センターにおける「警報・特別警報」発表時又は交通機関運休時の授業の取り扱いについては、前条の取り扱いを準用し、条文中「栃木県全域、栃木県央地域又は栃木県南部地域」を「栃木県全域、栃木県央地域又は栃木県北部地域」と読み替え、「東武宇都宮線及びJR宇都宮線の双方」を「東武鬼怒川線及びJR日光線の双方」と読み替えて対応するほか、同センター病院長の指示に従う。

(地震及びその他の非常事態)

第5条 前2条の規定にかかわらず、地震及びその他の非常事態により、授業又は定期試験の実施が困難と認められる場合、医学部教務部長はその都度、臨時休講の措置をとることができる。

(学外施設における実習の取扱い)

第6条 医学部学生が学外の施設において実習等を行っているときに、当該施設の地域において本規定で定める自然災害や非常事態が発生したときは、原則として当該施設の指導者の指示に従うものとする。

2 前項の事態が発生したとき、医学部教務部長は必要に応じて当該学外施設と連携をとり、学生の安全確保に努める。

(緊急の情報伝達及び連絡)

第7条 自然災害や非常事態等が発生したときの医学部における授業又は定期試験の取り扱いについては前4条の定めるところによるが、必要に応じて、医学部教務部長はホームページ、緊急連絡網及び大学が備える学生向け学習管理システム(LMS)等を使用して、学生及び関係教職員に情報の伝達及び緊急連絡を行うものとする。

(臨時休講等の措置への対応)

第8条 自然災害や非常事態等により臨時休講となった授業は、原則として補講を行うものとする。ただし、当該授業担当教員は、科目の特性に応じ対応を判断することができる。

2 前項と同様の理由により延期となった定期試験は、日程調整を行った上で実施する。

(救済措置)

第9条 第3条、第4条、第5条及び第6条の規定にかかわらず、自然災害又は非常事態の程度によって臨時休講又は定期試験延期の措置が講じられなかった場合において、学生が利用した交通機関が発行する「運休証明書」、「遅刻証明書」等を提示した場合は、当該学生が不利益を被らないよう配慮するものとする。

附 則

この要領は、令和2年 8月 1日から施行する。

内科学（心臓・血管）

1. 目 的

ACCの目的は、定期CCに引き続き直接患者に接することによる臨床医学ならびに診療技術の習得である。当講座では心臓疾患、血管系（動脈系、静脈系）疾患を中心とした内科領域の診断、診療手技を習得する。学生は各自が内科医の立場に立って、診断、治療について一連の研修を行う。この間指導医の下で、病歴作成、各種検査の進め方と実施、検査結果の整理とその評価、診断、治療方針の立案、問題点の把握などについて研修する。

2. 指導教員名

教 授	： 豊田 茂	中島 敏明	阿部 七郎	菊地 研
准 教 授	： 八木 博	有川 拓男(CC 実行委員)	金谷 智明	
講 師	： 伊波 秀	西野 節	戸倉 通彰	南 健太郎
		北川 善之	越路 暢生	
助 教	： 正和 泰斗	古藪 陽太	齋藤 史哉	渡邊 諒

3. 実習内容及び実習方法

- ◇学生は教授回診に参加し、教授から直接指導を受ける。
- ◇特殊な検査や治療法が実施される際には積極的に参加してもらい、技術の習得や診断方法について指導を受ける。
- ◇症例検討会、各種カンファレンスにも積極的に参加してもらう。
- ◇第1日目は各自のロッカーで白衣に着替え、午前8：20に全員5F西病棟カンファレンスルーム3に集合し、指導医から注意事項を聞き、担当医、受持の患者紹介を受ける。
- ◇第2日目以降も午前8：20に全員5F西病棟カンファレンスルーム3に集合し、担当医の指導を受ける。
- ◇課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ループリック・miniCEX等の方法によりフィードバックを行う。
 - ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

4. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

◇診療に重点がおかれているので, 時間外まで在院が必要となることがある。

◇毎日指導医に出席表を提出し, 確認のサインをもらう。

◇事前学習 (最低 1 時間) : 実習前に心臓・血管疾患について授業内容を中心に予習しておくこと。

◇事後学習 (最低 1 時間) : 実習中に体験した内容について整理し復習しておくこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1, G-2-5)~G-2-7), G-2-11), G-2-15)~G-2-18), G-2-35)

G-3-2) ⑦, ⑩~⑫, G-3-4)

5. 到達目標

■問診

・主に心臓・血管疾患が疑われる患者から, 主訴, 現病歴, 既往歴, 家族歴を聴取し, 問題点を抽出し, 整理する。

■現病症所見

・視診・触診・打診・聴診の診察所見から患者の病態を把握する。

■検査計画の立案

・問題点を解決するための手段として, 検査計画を立てる。

■診断

・得られた病歴・検査所見情報を総合し, 診断する。

■治療計画の立案

・診断結果に基づき問題点を解決するための適切な治療計画を立てる。

■胸部エックス線写真

・正常と異常の区別ができ, かつ異常陰影の部位と性状についての的確に表現できる。さらに異常所見から背景基礎疾患・病態について指導を受ける。

■心電図

・心電図所見を専門医より指導を受け, 心電図所見から背景病態について考察出来るようにする。

■心臓超音波検査

- ・超音波像（B-mode, M-mode, カラードップラー像）での正常解剖を理解し，さらに異常所見から背景基礎疾患・病態について指導を受ける。

■心臓カテーテル検査

- ・検査の意義と施行法を学ぶ。さらに，カテーテルを用いた治療法（PCI）の適応とその利点・欠点を指導医に学ぶ。

■血液ガス検査

- ・血液ガス所見のデータ解析の指導を受ける。

■胸部CT像

- ・CT像での正常解剖を理解し，血管・心臓などの病的変化を指摘でき，背景基礎疾患・病態について学ぶ。

■ペースメーカーについて

- ・ペースメーカー治療の基本を学ぶ。

■ACLSについて

——当科で学ぶ主な疾患と病態——

□虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）

- ・症状，リスクファクター，心筋逸脱酵素などの血液学的所見，心電図変化，不整脈，運動負荷心電図，心エコーや左室造影による壁運動，冠動脈造影所見，心臓核医学検査所見などから得られる情報をもとに，患者の病態および本疾患の治療法を学ぶ。

□弁膜症

- ・理学所見，心エコー所見，心電図所見，胸部エックス線写真所見から得られる情報をもとに，患者の病態および治療法を学ぶ。

□不整脈

- ・心電図所見から心臓内で起こっている電気的变化を理解し，致死的不整脈や徐脈や頻脈性不整脈に対する適切な治療法を学ぶ。

□肺高血圧症・肺性心

- ・原因疾患，肺機能検査，胸部エックス線写真，CT像，核医学所見から得られる情報から，患者の病態および治療法を学ぶ。

□肺血栓・塞栓症

- ・症状，心エコー，肺血管撮影，核医学，胸部エックス線写真，CT像，心電図所見から本症の診断，治療法につき学ぶ。

□肺水腫

- ・血行動態性および血管透過性肺水腫の病態，診断および治療につき学ぶ。

□救命救急治療

- ・急性心不全や急性冠症候群の病態と治療法，さらに致死的不整脈の診断と治療法につき学ぶ。

6. 評価基準

出席日数、実習に対する積極性、態度などにより総合的に判断する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:20～ 9:00 カンファレンス 9:00～ 9:30 オリエンテーション 9:00～12:00 病棟実習	有川 拓男 有川 拓男 南 健太郎 齋藤 史哉	13:00～17:00 病棟実習	戸倉 通彰 北川 善之
火	8:20～ 9:00 カンファレンス 9:00～12:00 病棟実習	金谷 智明 齋藤 史哉 渡邊 諒	13:00～17:00 病棟実習	渡邊 諒 古藪 陽太
水	8:20～ 9:00 カンファレンス 9:00～12:00 病棟実習	戸倉 通彰 戸倉 通彰 北川 善之	13:00～17:00 病棟実習	渡邊 諒 古藪 陽太
木	8:20～ 9:00 カンファレンス 9:00～12:00 病棟実習	西野 節 正和 泰斗 齋藤 史哉	13:00～17:00 病棟実習	戸倉 通彰 正和 泰斗
金	9:00～12:00 教授回診	豊田 茂	13:00～17:00 病棟実習	北川 善之 古藪 陽太

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

内科学（消化器）

1. 目 的

これまで学習してきた医学の知識を臨床の場で活用し、内科診療システムの習得をベッドサイドにおいて行うことを目的とする。この実習を通して内科診断学（内科診断の思考過程）、疾患の病態の把握、治療について実際に経験し、さらに患者を全人的に把握することを学ぶ。

2. 指導教員名

主任教授：入澤 篤志

教 授：郷田 憲一

准教授：飯島 誠 渡邊菜穂美 富永 圭一

講 師：知花 洋子 菅谷 武史 有阪 高洋

非常勤講師：小熊 資男

3. 実習内容及び実習方法

病棟診療グループの一員として以下の事を行う。

問診、身体診察、カルテの記載、診断の思考過程および各種検査の進め方、検査成績（画像診断等も含む）の評価。病態の把握および治療の計画。

回診、検査手技および治療手技の見学（一部は参加）、症例検討会、内視鏡検討会、各グループのカンファレンスへの参加。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 提出されたレポートを添削し、返却する。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

4. 到達目標

- (a) 患者への問診、身体診察の実施および所見の把握とそれに基づくカルテの記載（POMR）ができること。
- (b) 問診および身体診察から診断へのアプローチの計画が立てられること。
- (c) 病態を把握し、治療の計画を立てること。
- (d) 主として消化器疾患診断の検査の方法、適応および意義について理解し、検査の結果を評価すること。（消化管内視鏡検査、腹部超音波、CT、MRI、血管造影、膵・胆道内視鏡検査）

- (e) 血液，尿，便の検査の評価ができること。
- (f) 消化器疾患の治療，特に内科領域で用いられる治療法について理解すること。
- (g) 症例について問題点の把握のできること。

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- (a) 担当となった患者には毎日必ず1回は接すること。また担当の患者の検査には必ず立ち会うこと。
- (b) 各自のカルテに毎日の記録（POMR システム）を記載する。とくに，評価，考え方などを十分に記載する。
- (c) 医療行為は単独では絶対に行わないこと。（必ず指導医あるいは他の医師の立会いのもとで行うこと）
- (d) 医師としての守秘義務を守ること。
- (e) 指導医とは密にコンタクトすること。
- (f) 原則として病棟実習の出席確認のサインは指導医からもらうが，指導医不在のときは同じ病棟グループの医師よりもらうこと。
- (g) やむを得ず欠席するときは指導医あるいは他の責任者（病棟医長，実習責任者等）に届けでること。原則として本人より届出のない場合はすべて無断欠席とする。
- (h) 実習前までに消化器の各疾患のコアカリキュラムとルーブリック評価表内容について事前に予習しておくこと（最低1時間）。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1), G-2-1)～G-2-7), G-2-10), G-2-11), G-2-18)～G-2-28),
G-2-31), G-2-34), G-2-35), G-3-1)①～⑧, ⑩～⑭, ⑯, ⑰,
G-3-2)⑩～⑫, G-3-3), G-3-4), G-4-1)

6. 評価基準

指導医による実習の評価，教授試問，評価表提出，出席状態により評価を行う。

7. 週間予定表

第1週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:30～ オリエンテーション 患者紹介 (6W病棟多目的室) 9:00～12:00 ・内視鏡 (内視鏡室) ・超音波検査 (超音波室)	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 菅谷武史	13:00～17:00 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室) ・血管造影 (IVR-CT室)	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 菅谷武史
火	8:30～12:00 病室実習 (6W病棟) ・超音波検査 (超音波室) ・内視鏡 (内視鏡室)	小熊資男 郷田憲一 富永圭一 有阪高洋	13:00～16:00 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室) ・血管造影 (IVR-CT室) 16:00～17:00 腹部画像クルズス	郷田憲一 飯島 誠 富永圭一 有阪高洋
水	8:30～12:00 病室・外来実習	富永圭一 知花洋子	13:00～17:00 病室・外来実習	富永圭一 知花洋子 有阪高洋
木	8:00～グループプレゼンテーション (教育医療棟 6F 講義室) 8:30～教授回診 10:00～教授試問	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 有阪高洋 菅谷武史	13:00～ 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室) ・血管造影 (IVR-CT室) 16:30～17:30 消化管クルズス	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 有阪高洋 菅谷武史
金	8:30～12:00 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室)	入澤篤志 郷田憲一 富永圭一 菅谷武史	13:00～17:00 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室)	入澤篤志 郷田憲一 富永圭一 菅谷武史

第2週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:30～ 病室実習 (6W病棟) 9:00～12:00 内視鏡 (内視鏡室) 超音波検査 (超音波室)	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 菅谷武史	13:00～ 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室) ・血管造影 (IVR-CT室)	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 菅谷武史
火	8:30～12:00 病室実習 (6W病棟) ・超音波検査 (超音波室) ・内視鏡 (内視鏡室)	小熊資男 富永圭一 郷田憲一 有阪高洋	13:00～病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室) ・血管造影 (IVR-CT室) 16:00～17:00 腹部画像クルズス	富永圭一 郷田憲一 飯島 誠 有阪高洋
水	8:30～12:00 外来実習 病室実習 (6W病棟)	富永圭一 知花洋子	13:00～ 外来・病室 (6W病棟) 実習	富永圭一 知花洋子 有阪高洋
木	8:00～グループプレゼンテーション (教育医療棟 6F 講義室) 8:30～教授回診 ・超音波検査 (超音波室)	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 有阪高洋 菅谷武史	13:00～ 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室) ・血管造影 (IVR-CT室)	入澤篤志 飯島 誠 郷田憲一 有阪高洋 菅谷武史
金	8:30～ 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室)	入澤篤志 郷田憲一 富永圭一 菅谷武史	13:00～17:00 病室実習 (6W病棟) ・内視鏡 (内視鏡室)	入澤篤志 郷田憲一 富永圭一 菅谷武史

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

内科学（血液・腫瘍）

1. 目的

内科学ACCの目的は、診療現場において、患者を対象に、医療チームの準一員として診療の実際を自ら学ぶことにある。血液内科においては、血液・造血器疾患の診断と治療の実際を、担当症例を中心にできるだけ幅広く学習する。各クルズスでは基本的な知識を補充する。さらに、悪性腫瘍を中心とした重篤な疾患をかかえた患者に対する医師としての適切な対応についても学ぶ。血液疾患は重篤な症例が多いが、近年治療法の進歩により、適切な治療が行われれば、かなりの確率で治癒可能となっており、興味深い分野であることを理解してほしい。

2. 指導教員名

教授：三谷 絹子

学内教授：今井 陽一

学内准教授：佐々木 光 瀬尾 幸子

学内講師：仲村 祐子 中村 由香

半田 智幸(CC 実行委員) 新井ほのか

助教：鶴見 茂治 磯 桐子 高橋 渉 中村 文美

湯浅 博美 五十嵐美咲 他医局員全員

3. 実習内容及び実習方法

- ・期間中の実際的指導は、各学生付きの主治医のほか、指導医、週間スケジュールに記載したACC担当医があたり、ACC実行委員（半田）が監督する。
- ・初日から1例の患者を受け持ち、その症例を中心にして、関連疾患についてできるだけ幅広く学習する。
- ・各自ベッドサイドで主訴、病歴、現症をとった後、入院時現症及び検査所見等はカルテを参照して、カルテの記載をする。確定診断の根拠及び鑑別診断・治療を重点的にまとめる。
- ・金曜日の試問ではこれらを簡潔に発表する。
- ・クルズスにおいては、主な血液疾患およびその合併症の診療のポイントを学習する。
- ・実習期間中には参考書を十分に読むこと。

- ・フィードバックの方法

日々カルテを記載していただき、それをコメント、添削する事でフィードバックする。

- ・卒業・学位授与においては、高く正確な医学知識と自己研鑽が必要である。これは CC・ACC でも同様であり、ベッドサイドでの血液疾患（主に血液悪性腫瘍）の患者との触れ合いや医師・看護師などの姿勢から肌で感じ身につけていただければと考える。

4. 到達目標

1) 一般内科的診療の習得

- ・問診，現症のとり方およびその記載法
- ・主な医学用語の意味の理解と適切な使用（日本語と英語）
- ・採血，注射，I V Hカテーテル挿入，腰椎穿刺などの施行上の注意点。

2) 主な血液・造血器疾患およびその周辺疾患の診断の進め方および治療法の習得

- ・症状および徴候からの血液疾患へのアプローチ。
- ・末梢血液検査所見からの血液疾患へのアプローチ。
- ・骨髄穿刺の適応および施行法。
- ・正常血球像および主な血液疾患の血液・骨髄像の見方。
- ・貧血の鑑別診断と治療法。
- ・急性および慢性白血病の診断（F A B・WHO分類を含む）と治療法。
- ・悪性リンパ腫の診断，病期分類および治療法。
- ・M蛋白血症の診断と治療法。
- ・主な出血傾向の鑑別診断（凝固系検査の読み方）と治療法。
- ・血液疾患における化学療法と副作用。
- ・発熱時の対応，抗生物質療法。
- ・輸血療法，造血幹細胞移植の実際：適応と副作用。
- ・血液疾患患者に対する精神的ケア。

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ・毎日AM9：00に新棟8階ナースステーションに集合。
- ・病棟内では清潔な白衣と上ばきを着用のこと。
- ・患者に接する際には常識ある行動（言葉づかい，態度，服装など）をとること。

- ・患者から知り得た個人情報には絶対に他に漏らさないという医師の義務を遵守する。
- ・できるだけ積極的に患者との接触に務め、必ず毎日最低1回は診察を行うこと。
- ・予定されている検査・治療は率先して見学すること。
- ・月曜日、木曜日の回診時には受け持ち症例の病状説明を行う。
- ・易感染性の患者が多いため、体を清潔にし（ことに頭髮）、感染症罹患の疑いのある学生は早めに申し出ること。
- ・患者との間にコミュニケーションがとりにくいなどの問題がある場合は、遠慮なく主治医に申し出る。
- ・毎日午前・午後、出席表に当日のCCの指導医のサインをもらう。
- ・事前学習：講義プリントや、CCで実習した内容を復習する。（4h）
- ・事後学習：経験症例の疾患について教科書で復習する。（4h）
- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-2-26), G-2-27)

6. 評価基準

- ・実習に対する態度および口頭試問の成績により評価する。
- ・遅刻および欠席は減点の対象とする。ことに無断欠席は再実習の対象とする。

7. 週間予定表

	時 間		担当者	場 所
月	9:00～10:30 オリエンテーション		半田智幸	新棟8階病棟カンファレンスルーム
	10:30～12:00 病棟実習		半田智幸	病棟
	13:00～16:00 教授回診		三谷絹子	新棟8階病棟カンファレンスルーム
	16:30～17:30 検鏡会		佐々木光	新棟8階病棟カンファレンスルーム
火	9:00～ 外来実習	前半G	仲村祐子	外来
	9:00～ 病棟実習	後半G	半田智幸	病棟
	13:30～17:00 病棟実習		中村由香	病棟
水	9:00～12:00 病棟実習		半田智幸	病棟
	13:30～17:00 病棟実習		瀬尾幸子	病棟
木	9:00～15:00 病棟実習		新井ほのか	病棟
	15:00～17:00 教授回診		三谷絹子	新棟8階病棟カンファレンスルーム
金	10:00～12:00 外来実習	後半G	田所治朗	外来
	9:00～15:00 病棟実習	前半G	半田智幸	病棟
	15:00～16:00 教授回診		今井陽一	病棟

- 1) 毎週異なる患者を1名ずつ担当してもらう。
- 2) 担当になった患者の診察を行い、画像検査、治療について十分に理解を深めることとする。毎日の診察内容をカルテに記載する。
- 3) 評価は担当患者のカルテ記載、クルズス、回診でのプレゼン、出席等で行う。
- 4) 教授回診において受け持ちの患者のプレゼンを行う。（午前中のうちに患者診察は済ませておく）
- 5) 時間の変更があった場合には当日連絡する。
- 6) 医局会について：学生自己紹介（将来の希望や血液・腫瘍内科で学びたい事を1人3分程度で発表する）
- 7) 処置（点滴や皮下注射）を希望の学生は半田へ連絡する。
（木曜と金曜に行う→担当：高橋）
- 8) リサーチカンファレンス希望の学生は半田へ連絡する。

教授回診・口頭試問

教授回診	三谷	1・2・3・4	月 13:00~16:00
			8D 病棟

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

内科学（腎臓・高血圧）

1. 目 的

腎疾患（腎炎，ネフローゼ，腎不全など）および腎疾患高血圧を中心に内科全般に関する日常診療を体験することにより，基本的な医師としての心構え，患者への接し方，内科疾患に関する診断，治療の知識，技術を習得することを目的とする。

4 学年までに習得した医学知識と 5 学年の CC で学んだ臨床の経験に加え，さらに医療チームの一員として患者の現地診療に携わることにより内科疾患の診断能力と治療方針を考察する能力を伸ばす。

ACC の特徴は医療チームの準構成員として診療に参加し，実際に患者を受け持ち，基本的な医療行為である病歴聴取（主訴，現病歴，既往歴，家族歴，生活歴など）と身体診察法（視診・触診・打診・聴診）の他に，点滴の針穿刺・採血，心電図，心臓・腎臓超音波の検査法の習得，あるいは補助として血管造影検査などにおけるカテーテル挿入・針穿刺，腹膜透析カテーテル挿入手術における縫合，腎生検，血液透析，緊急処置などを主治医および指導医の監督，指導のもとに体験し，基本的な医師としての心構え，患者への接し方，内科疾患に関する診断・治療の知識，臨床医としての技術を習得することを目的とする。

2. 指導教員名

教 授：頼 建光（ACC 実行委員） 藤乗 嗣泰

准 教 授：本多 勇晴

非常勤講師：中野 信行

3. 実習内容及び実習方法

- 1) 月曜日午前 9 時に臨床医学棟 8 階医局に集合し（以後実習期間中は毎朝 9 時には集合），1～2 名の腎疾患（腎炎，ネフローゼ，腎不全など）および高血圧の入院患者を担当し，担当患者の病歴の聴取（医療面接）の仕方，身体所見の取り方，一般検査の進め方および一般検査所見の読み方を理解し，疾患に関する知識について主治医，指導医の指導のもとでこれらを習得する。
- 2) bed side で患者を診察するとともに，症例に関する討論，講義に参加するほか，特殊検査や治療（血管造影，腎生検，血液透析，腹膜透析，血漿交換，血液吸着療法など）を見学する。

- 3) 血管造影，心臓・腎臓超音波，心電図，腎疾患，腎組織，高血圧などに関するクルズスに出席し，腎疾患・腎臓高血圧全般について理解を深める。
- 4) 実際に受け持った患者の諸検査および治療に直接携わる。また，病棟のカルテに直接入力をする。担当患者の主治医あるいは指導医とその日一日の担当患者の診察について打ち合わせを行い，1日行動を共にする。
- 5) 基本的な医療行為をもとに，指導医の指導・監視のもとに実施できるものとして，血管造影検査助手，血液透析カテーテル挿入手術助手，腹膜透析カテーテル設置手術助手，腎生検助手などを行なう。
- 6) 症例・状況によって指導医の指導・監視のもとに実施できるものとして，点滴の針穿刺・採血などを行なう。
- 7) 腎臓・高血圧内科外来において，指導医の指導のもとで，新患の患者の医療面接，診察を行い，診断に必要な検査の進め方について習得する。
- 8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

4. 到達目標

- 1) 入院患者が入院に至った主訴と現病歴，患者の既往歴と家族歴を中心に詳細な病歴聴取が出来るようになる。
- 2) 受け持ちの患者の病歴の聴取と身体所見（心尖拍動や動脈の触診，心雑音や血管雑音の聴取，血圧測定，下腿浮腫など）を取り，一般検査所見の意味と読み方を理解し，カルテに入力する。
- 3) 一般検査所見（尿，血算，血液生化学，胸部X線，心電図）の意味を理解し，読み方を習得する。
- 4) 腎疾患・高血圧診断のための特殊検査（24時間自由行動下血圧(ABPM)，腹部CT，心臓・腎臓超音波検査，腎生検組織病理所見など）の意味を理解し，読み方を習得する。
- 5) 他の特殊検査（血管造影，腎静脈採血，副腎静脈採血，腎生検など）の意味を理解し，実際の医療行為を体験する。
- 6) 受け持った患者の治療方針，問題点などについて十分な考察ができるような力を養うようにする。

5. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

- 1) 実習前までに循環器および腎・泌尿器の系統講義 (内科領域) で学んだ内容を通覧し、知識を整理しておく (3時間)。G-1-1)-(1)-2
- 2) 月曜日午前9時に臨床医学棟8階医局に集合すること。以後実習期間中は毎朝9時には集合し、担当患者の主治医あるいは指導医とその日一日の打ち合わせを行う。G-1-1)-(1)-1, 4, 5
- 3) 診療に際しては言動に充分注意し、患者に無用の不安や不快感を与えないような配慮が必要である。また、患者から得られた情報は他に漏らさないという医師としての義務を守る必要がある。G-1-1)-(1)-3
- 4) 実習期間中は少なくとも1日2回 (朝, 夕) は患者のところに行き診察する。G-1-1)-(1)
- 5) 受け持ちの患者の特殊検査 (心臓・腎臓超音波, 血管造影, 腎生検など) に参加し、それらの検査の意義を理解する。G-3-2)-①⑦⑩⑫
- 6) 診察に際しては患者の特殊性も考慮し、例えば透析患者のシャント側では血圧測定は行わないなどの配慮が必要である。G-4-1)-(1)⑤
- 7) 点滴の針穿刺, 血管造影検査などにおけるカテーテル挿入・針穿刺, 腹膜透析カテーテル挿入手術における縫合などの医療行為は必ず指導医の監督, 指導のもとに行う。G-3-1)-⑤⑥⑦⑧, G-3-2)-⑫, G-4-1)-(1)-③
- 8) 腎臓・高血圧内科の週間行事には原則として全て参加する。G-1-1)-(1)-1, 2, 5, G-4-1)-(1)-②③④⑥

6. 評価基準

- 1) 前掲到達目標1)～6)で示した各項目に対する到達度を評価する。
- 2) 患者およびコメディカルスタッフに対する態度・マナーなども評価の対象とする。
- 3) 上記1), 2)に出席状況を加えてBSLの評価とする。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00-10:00 オリエンテーション (臨床医学棟 8F 医局) 10:00-12:00 病棟実習	頼 建光	13:00-17:00 病棟実習 17:30-19:00 カンファランス (臨床医学棟 8F 医局)	本多勇晴
火	9:00-12:00 病棟実習	藤乗嗣泰	13:00-17:00 病棟実習	藤乗嗣泰
水	9:00-12:00 病棟実習	村山慶樹	13:00-17:00 病棟実習	村山慶樹
木	9:00-12:00 病棟実習	頼 建光	13:00-17:00 病棟実習	頼 建光
金	9:00-12:00 病棟実習	頼 建光	13:00-15:30 教授回診 (教育医療棟 9 階病棟) 15:30-17:00 まとめ	頼 建光

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

内科学（神 経）

1. 目 的

神経内科学は、診断に至るまでのプロセスを重視している。これまでの4年間は疾患について多くの時間を割いてきている。一方、患者の症状から診断を導くプロセスについては十分な時間の教育がなされていない。当科では、患者の主訴から問診をはじめ、詳細な病歴を聴取し、診断の仮説（解剖学的診断部位、病因学的診断、臨床診断）、鑑別診断を行い、治療に至る「臨床推論」を学んでもらいたい。適切な臨床診断を下すためには、神経解剖や神経診察を理解しており、神経疾患に対する基礎的な知識が必要となるため、実習前にこれらの予習をしてから実習に臨んでいただきたい。また、とても重要なことであるが、患者さんと少しでも表面的でなく心が通じ合うコミュニケーションを構築できるように努力してもらいたい。

2. 指導教員名

教 授：平田 幸一（副学長）、鈴木 圭輔

宮本 雅之*

（*看護学部看護医科学領域、大学病院睡眠医療センター）

学 内 教 授：竹川 英宏**（**脳卒中センター長、超音波センター長）

国分 則人

講 師：舩越 慶

学 内 講 師：藤田 裕明、西平 崇人、渡邊 悠児、

岡村 稔

学 内 助 教：大沼 広樹

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- (1) 患者に接する時は常識ある行動をとり、患者に関して知りえた情報は他に漏らさないこと。服装は清潔なものとし、身だしなみには十分に注意すること。
- (2) 集合時間を厳守すること、欠席をする際は担当教員に必ず連絡すること。
（無断欠席は再実習とする。）
- (3) 実習前までに神経疾患の発症様式（病因学的診断）について教科書等で事前に予習・確認をしておくこと。

(4) 自分の受け持った症例について病因学的診断と解剖学的診断から臨床診断を導きだし、治療について議論・復習をすること。(10分)

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(2), G-1-1)-(3), G-2-1), G-2-2), G-2-4)~G-2-12),

G-2-15)~G-2-17), G-2-19), G-2-21), G-2-23), G-2-27),

G-2-30)~G-2-37), G-3-1)~G-3-4), G-4-1)-(2)~(7), G-4-2)~G-4-4)

4. 実習内容及び実習方法

- (1) 外来実習（新患の病歴聴取，神経学的所見，再診患者の見学など）
- (2) 病棟実習（担当患者の臨床推論，検査，治療の理解，新患カンファレンスおよび教授回診でのプレゼンテーション，グループカンファレンスの参加）
- (3) クルズス（解剖復習，神経所見の取り方など スケジュール表参照）
- (4) 睡眠医療センターでの実習
- (5) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- (1) 問診，神経学的所見から診断の仮説および鑑別診断ができること。
- (2) 神経内科において多い主訴（頭痛，めまい，麻痺，しびれ，失神，意識障害）から，詳細な病歴を聴取し，診断の仮説を立てることができる。
- (3) 外来で頻度の多い疾患（片頭痛，緊張型頭痛，脳梗塞，末梢性めまい，神経調節性失神，ベル麻痺，てんかん，パーキンソン病，頸椎症）の診断ができる。
- (4) 入院で頻度の多い疾患（脳梗塞，一過性脳虚血発作，脳出血，髄膜炎，パーキンソン病，筋萎縮性側索硬化症，多発性硬化症，重症筋無力症，ギラン・バレー症候群，脊髄小脳変性症，多系統萎縮症）について，診断（解剖学的診断部位，病因学的診断，臨床診断），鑑別診断，治療を理解する。
- (5) 睡眠医療センターでは，睡眠医学全般の知識と睡眠時無呼吸症候群を含む睡眠関連疾患の診療と睡眠ポリグラフ検査について理解する。
- (6) 担当患者のプレゼンテーションを簡潔かつ正確にできること。

6. 評価基準

出席状況、実習態度により総合的に評価する。基準点を満たさない場合は再実習を課す。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 担当医割り当て E 基本的態度 (医局) 9:30-11:30 外来実習	岡村 穂 鈴木圭輔 船越 慶	13:00-15:30 病棟実習 16:00-17:00 神経所見の取り方 (医局) 18:00-19:00 睡眠医学・医療総論 (医局)	鈴木圭輔 宮本雅之
火	9:00-10:00 病因学的・解剖学的診断 (医局) 10:00-11:30 D 症例プレゼンテーション (医局)	渡邊悠児 鈴木圭輔	13:00-14:30 病棟実習 15:00-16:00 B 臨床推論 (医局)	渡邊悠児
水	8:40 新患紹介 +画像カンファ (教育棟 6階) 10:00-11:30 教授回診	鈴木圭輔 藤田裕明	13:00-13:30 脱髄疾患 (医局) 14:30-15:30 PD 関連疾患 (医局) 17:00- 医局会 (臨床棟 9 階カンファレンスルーム)	船越 慶 鈴木圭輔 鈴木圭輔
木	10:00-11:30 クルズス (医局)	国分則人	13:00-14:00 C 医療面接 (医局) 15:00-16:00 A 診察 (医局) 16:00-17:00 症候学 (医局)	大沼広樹 国分則人 国分則人
金	9:30-11:30 外来	平田幸一 船越 慶	13:00-13:30 脳卒中 (医局) 16:00- E 基本的態度 (再評価) ルーブリック提出	竹川英宏 岡村 穂

① 担当医から担当患者さんを紹介してもらうこと。

はじめに担当患者さんの病名は聞かずに主訴だけ聞いて (電子カルテも見ないで) 問診、診察をして疾患を推論すること。

② 新患紹介でプレゼンテーションをしてください。

③ 無断欠席は再実習とする。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

内科学（内分泌代謝）

1. 目的

臨床実習は日常診療を身をもって体験することである。患者さんを診ることで、医師としての人間性を高め、患者さんとの望ましい人間関係を確立する能力と態度・習慣を身につける。そして将来の医師として基本的な知識、技術を学ぶことが目的である。

2. 指導教員名

教授：麻生 好正

学内教授：薄井 勲

学内准教授：城島 輝雄

学内講師：登丸 琢也 飯嶋 寿江 櫻井慎太郎

学内助教：相良 匡昭（CC 実行委員）

加藤嘉奈子 井上有威子 若松 翔 岸 遼

二井谷隆文 倉井 英卓 篠原 安武 田沼 大

神賀 雄介

レジデント 齋藤 千明

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ① 服装は清潔かつ節度あるものとし、Gパン等は認めない。
- ② 患者さんに接する際には常識ある言動・行動を取ること。
- ③ 守秘義務を理解し、患者さんのプライバシーに配慮すること。
- ④ 特に高齢者には、その特性をふまえた診察を行う。
- ⑤ やむを得ず出席できない時は必ず届け出ること。届け出のない場合は無断欠席とみなし、当科臨床実習の単位を与えない。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)～(3),

G-2-2)内分泌・代謝：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、更年期障害

G-2-4)慢性：甲状腺機能低下症、内分泌：糖尿病、甲状腺機能亢進症

G-2-10) 内分泌・代謝

G-2-11) 全身性：甲状腺機能低下症

G-2-17) 二次性：甲状腺機能亢進症

G-2-23) 機能性：甲状腺機能低下症，腸管運動異常：甲状腺機能亢進症

G-2-28) 浸透圧利尿：糖尿病

G-2-29) 糖尿病腎症

G-2-31) 二次性（不安障害）：甲状腺機能亢進症

二次性（うつ病）：甲状腺機能低下症

G-2-34) 末梢神経病変：糖尿病，筋病変：甲状腺機能亢進症

G-2-36) 単関節炎：痛風

G-3-1)，G-3-2)，G-4-1)

4. 実習内容及び実習方法

- ① 学生1名が内分泌代謝内科入院患者1名を受け持つ。
- ② 受け持ち患者さんの病歴を聴き取り，全身の診察（視・打・聴・触）を行う。
- ③ 実習期間中は毎日診察所見を記録用紙に適切に記載する。
- ④ 病棟および外来で行われる処置・治療手技を見学し，指導教員のもと可能なものについては自ら実践する。
- ⑤ 症例検討会（毎週月曜日午後4時45分より研究棟7階カンファレンスルームにて），チームカンファレンスには出席する。
- ⑥ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- ① 問診：内分泌・代謝疾患の疑われる患者さんに適切な問診が行える。その際，傾聴的な態度でスムーズに患者さんの病歴を聴き取ることができる。
- ② 診察：全身の診察（視・打・聴・触）を適切に行い，診察所見を診療録に適切に記載できる。さらに異常所見を指摘することができる。
- ③ 検査：内分泌・代謝疾患の疑われる患者さんに必要かつ適切な検査計画が立てられる。得られた検査結果について説明できる。
- ④ 診断：①，②，③で得られた所見・結果に基づき診断を下し，鑑別すべき疾患が挙げられる。

⑤ 治療：適切な治療法と副作用についての説明ができる。

6. 評価基準

- ① 出席状況，実習態度を評価対象に含む。
- ② 受け持ち症例のプレゼンテーションを，カンファレンス時に行う。
- ③ 症例報告形式のレポートをまとめ，提出する。（レポートの書き方についてはオリエンテーションの際，説明する。）

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	09:00～10:30 オリエンテーション 病棟担当医へ紹介	相良 7342	13:30～15:00 教授回診 16:45～18:00 症例検討会・医局会	麻生 7047 櫻井 7549
火	09:00～12:00 病棟実習	田沼 7734	14:30～16:30 外来甲状腺エコー ※1 17:00～19:00 Aカンファレンス	岸 7727 飯嶋・櫻井
水	09:00～12:00 病棟実習	櫻井 7549	17:00～19:00 Bカンファレンス	城島・登丸
木	09:00～12:00 病棟実習	加瀬 7356	15:00～16:00 (要時間確認) 臨床推論	飯嶋 7358 or 登丸 7204
金	09:00～12:00 病棟実習	岸 7727	14:00～16:00 教授諮問 ※2	薄井 7182

★原則：マスクとフェイスシールドは院内常時着用★

- ※1. エコー見学の実習。時間までに教育棟3F 内分泌代謝内科外来に集合。受付に声をかけて下さい。
- ※2. 集合場所：臨床医学棟7階カンファレンスルーム。5分前には集合して下さい。
- ※3. 表記の時間は大まかな目安です。担当医へ事前に連絡して日時と集合場所の確認をして下さい。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

内科学（呼吸器・アレルギー）

1. 目的

当科における臨床実習の目的は、呼吸器、アレルギーの各領域の疾患を有する患者から病歴、現症を自らとり、画像や検査結果から評価し実際の臨床を体験することにある。ACCでは、スタッフの一員として可能な範囲で関わり、担当した患者に関連する疾患を深く学んでいただく。また、実際に働く臨床医の姿勢をみて学んでほしい。

2. 指導教員名

教	授	：仁保 誠治	清水 泰生				
准	教	授	：武政 聡活				
講	師	：新井 良					
助	教	：池田 直哉	曾田 紗世（CC 実行委員）	奥富 泰明			
		九嶋 祥友	中村 祐介	正和 明哲	内田 信彦		
		吉田 亘輝	佐藤 悠	塚田 梓	塚田 伸彦		
		國延 拓也	後藤 優斗	鈴木 智成	西村 哲明		
		原 昇平					(R4.10.21 現在)

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 臨床実習は実際の患者から学ぶことを基本としている。患者に接する時には失礼とならない服装、行動をとること。（聴診器を忘れないように）
- 2) 時間の厳守、挨拶等、社会人としての基本を守る。
- 3) 個人情報を決して他に漏らさないこと。（書類の取り扱いに注意）
- 4) 実習までに呼吸器の聴診について予習をしておくこと（最低1時間）。

医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応

当科では G-1 診療の基本、G-3 基本的診療手技に加え、当科に特化した G-2-1) 発熱、G-2-5) ショック、G-2-13) 咳・痰、G-2-14) 血痰・喀血、G-2-15) 呼吸困難、G-2-16) 胸痛、G-2-18) 胸水などに対応している

4. 実習内容及び実習方法

呼吸器疾患、アレルギー疾患など、助教（卒後5～10年）＋レジデント（卒後3～4年）の2人で構成される医療チームの一員になって、診断、治療に参加する。希望があれば当直による救急診療にも参加できる。当科における実習は卒業認定の案件となる。

注意事項、事前、事後学習。

CCで実習した内容を復習してからACCに望むこと。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 呼吸器疾患，アレルギー疾患患者の病歴を取る。
- 2) 呼吸器疾患，アレルギー疾患患者の現症を取る。
- 3) 胸部X線写真，CTの正常所見を理解し，異常所見を指摘する。
- 4) 肺機能、血液ガス分析所見の解釈をする。
- 5) 肺癌症例の診療を通して臨床腫瘍学の基礎を理解する。
- 6) 患者の病歴，現症，検査結果，画像所見等を照合して，可能性のある疾患を列挙，鑑別する。
- 7) 疾患の基本的治療方針を把握し，理解する。
- 8) 各種内視鏡検査，超音波検査等の検査の意義を理解する。

6. 評価基準

以下の6つの点から評価する。

- 1) 出席，実習態度。
- 2) 受け持ち患者の疾患に関する知識。
- 3) 病歴聴取，現症の採取が十分にできているか。
- 4) 問題点を正しく列挙できているか。
- 5) 各問題点に対して評価を行い，鑑別診断を挙げられるか。

7. 週間予定表

〔第1週目〕

曜日	午前	担当者	午後	担当者
月	8:30～9:00 オリエンテーション (4N)	曾田	13:00～17:00 病棟実習・内視鏡見学 17:00～21:00 カンファレンス	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
火	9:00～12:00 呼吸器内視鏡見学・病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 呼吸器内視鏡見学・病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
水	9:00～12:00 病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
木	9:00～12:00 カンファレンス・教授回診 (4N)	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 病棟実習・内視鏡見学	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
金	9:00～12:00 病棟実習・内視鏡見学	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 病棟実習・内視鏡見学	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら

〔第2-4週目〕

曜日	午前	担当者	午後	担当者
月	9:00～12:00 呼吸器内視鏡見学・病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 病棟実習・内視鏡見学 17:00～21:00 カンファレンス	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
火	9:00～12:00 呼吸器内視鏡見学・病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 呼吸器内視鏡見学・病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
水	9:00～12:00 病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 病棟実習	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
木	9:00～12:00 カンファレンス・教授回診 (4N～)	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～17:00 病棟実習・内視鏡見学	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら
金	9:00～12:00 病棟実習・内視鏡見学	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら	13:00～16:00 病棟実習・内視鏡見学 16:00～ 総括 (第4週のみ)	池田・奥富 九嶋・中村 正和ら 曾田

台風など自然災害時基本自宅待機だが、大学の方が安全と考えられる場合はその限りではない。状況を見ながら決定事項をお知らせします。
質問があれば、教務課 0282-87-2419 内線 2048 まで連絡をすること。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

内科学（リウマチ・膠原病）

1. 目 的

本実習は実際の症例を通してリウマチ・膠原病の基本的な疾患概念や病態・診断・治療についての基本的知識・手技を理解し習得することを目的とする。

リウマチ・膠原病は複数の臓器障害を特徴とする全身性炎症性疾患であり、患者の管理のためには全身の診察を含む内科全般的な知識や技術が必要であり、それらの習得も目指す。また、患者ごとに障害臓器・活動性が異なり、病態を考えた診療が必要であり、“病態を考えること”の重要性を学ぶ。したがって習得すべき領域は、狭い意味のリウマチ・膠原病にとどまらず、感染症、自己免疫疾患・原因不明の炎症性疾患・不明熱なども含む。

2. 指導教員名

教 授：倉沢 和宏

学 内 教 授：有馬 雅史（CC 実行委員）

学内准教授：前澤 玲華

学 内 講 師：新井 聡子

学 内 助 教：田中 彩絵、宮尾 智之、深澤 恵理子、長谷川 杏奈、
檜山 知佳、吉田 雄飛

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 個人情報を決して他に漏らさないこと。（書類・電子カルテのデータの持ち出しは禁止）。
- 2) 実習までに診療における基本的手技について、臨床基本実習サブノート（診療の基本的事項）の内容を事前に確認しておくこと。
- 3) CC で実習した内容をよく復習してから ACC に臨むこと（最低 1 時間）。
- 4) 系統講義で学習したリウマチ・膠原病内科の分野をよく復習しておくこと（最低 1 時間）。
- 5) 実習ノートを必ず作成し、指導医からのレクチャー内容を記載する。その内容を毎日実習終了時に再確認し、次回の実習に活かせるようにする。
- 6) 実習で担当した症例の疾患を中心に教科書の関連ページを精読して復習することにより更に理解を深める。

- 7) 医学教育モデル・コアカリキュラム対応：G-2-1) , G-2-12) , G-2-18) ,
G-2-27) , G-2-36)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 学生は各々の診療チームに配属され、リウマチ・膠原病内科入院患者1人を受け持ち、実際の臨床を体験する。
- 2) 担当患者から病歴、理学所見、検査結果、画像所見と併せて病態把握、鑑別診断を行う。
- 3) 主治医及び指導教官と患者の病態、診断について討論する。また治療方針の検討も行う。
- 4) リウマチ・膠原病に関連した講義・実習を受ける。
- 5) 関節超音波検査等の特殊検査の意義を理解し、指導医の指導・監視のもと手技を習得する。
- 6) 実習終了時に総括として診断、病歴概要、発症要因や増悪因子、診断や治療に深く関与する臨床検査所見（採血、画像、病理、生理検査など）、治療内容、本症例の問題点などを簡潔にまとめてレポート発表する。
- 7) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) リウマチ・膠原病に必要な身体所見だけでなく一般内科医として必要な身体所見を取ることができる。
- 2) リウマチ・膠原病の診断、特徴的所見、および治療の基本を理解し、説明できる。
- 3) 診療においてリウマチ・膠原病患者から正しい情報（現症、病歴）を引き出し、正確な理学的所見の記載ができ、患者の問題点を整理し解決する手段を身につける。
- 4) 胸部および関節 X 線写真、胸部 CT、関節および筋肉 MRI、関節超音波検査の正常所見を理解し、異常所見を指摘できる。

- 5) 自己免疫に関する血液検査を含め、各種検体における検査結果の解釈できる。
- 6) リウマチ・膠原病患者の病歴、現症、検査結果、画像所見等を照合して、可能性のある疾患を鑑別できる。
- 7) 関節痛患者において鑑別疾患を列挙し、必要な検査計画を立てることができる。
- 8) 不明熱の鑑別疾患を列挙し、必要な検査計画を立てることができる。
- 9) 症例を要領よくまとめプレゼンテーションし、診断、鑑別診断、問題点などについてディスカッションすることができる。
- 10) 治病歴、理学所見、検査データ等から、臨床診断を導き出す方法および治療法を選択し効果を判定する方法を理解する。
- 11) 患者および医療スタッフなどとのコミュニケーションをとる。

6. 評価基準

以下の8つの点から総合的に評価する。

- 1) 出席、実習態度、患者とのコミュニケーション。
- 2) 受け持ち患者の疾患に関する知識。
- 3) 病歴聴取、現症の採取が十分にできているか。
- 4) 問題点を正しく列挙できているか。
- 5) 各問題点に対して評価を行い、鑑別診断を挙げられるか。
- 6) 受け持ち患者の治療方針について理解できているか。
- 7) プレゼンテーション。
- 8) 総括時にプレゼンテーションに対する評価についてコメントして、フィードバックする。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容)	担当者	午 後 (内容)	担当者
月	8:50~9:00 オリエンテーション、 担当医割り振り (場所: 医局) 9:30~12:00 病棟実習	有馬 新井・宮尾・ 深澤・長谷川・ 檜山・吉田	13:00~17:00 病棟実習	新井・宮尾・ 深澤・長谷川・ 檜山・吉田
火	(月・祝の場合8:50医局でオリエンテーション) 9:00~12:00 病棟実習	(有馬) 長谷川・檜山・ 吉田	13:00~17:00 病棟実習	宮尾・長谷川・ 檜山・吉田
水	9:00~12:00 病棟実習	新井・宮尾・ 深澤・長谷川・ 檜山・吉田	13:00~17:00 病棟実習	新井・宮尾・ 深澤・長谷川・ 檜山・吉田
木	9:00~12:00 病棟実習	新井・宮尾・ 深澤・長谷川・ 檜山・吉田	13:30~14:30 教授回診 14:30~17:00 病棟実習	倉沢 新井・宮尾・ 深澤・長谷川・ 檜山・吉田
金	9:00~12:00 病棟実習	深澤・長谷川・ 檜山・吉田	13:00~15:00 病棟実習 16:00~17:00 総括 (場所: 医局)	深澤・長谷川・ 檜山・吉田 有馬

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

精神神経医学

1. 目 的

精神科で治療をおこなう患者さんに対する面接の仕方，生理学的検査・画像診断・心理検査などを用いた診断および病態の理解，精神療法・薬物療法などの治療法の実際を学ぶ。

これらを通して，精神疾患患者さんの理解と対応の仕方，医師・他の医療スタッフ・患者さん・家族間の関係など，臨床全領域に通じる医師としての素養の育成を目指す。

2. 指導教員名

教 授：下田 和孝

准 教 授：古郡 規雄

学内准教授：菅原 典夫

講 師：

学 内 講 師：岡安 寛明

学 内 助 教：長谷川千絵 川俣 安史 佐々木太郎 佐々木はづき

佐藤 由英 (CC 実行委員) 横山沙安也 大和田 環

菊池 昂太

非常勤講師：中野 隆史 黒田 仁一 藤沼 仁至 朝日 晴彦

朝日 公彦 駒橋 徹 渡邊 昭彦 室井 秀太

岡田 正樹 佐伯 吉規 大曾根 彰

3. 実習内容及び実習方法

1) 病棟実習

指導医のもとで学生1人が1人の入院患者さんを受け持ち，診察および診療に当たる。

2) 外来実習

指導医のもとで外来新患さんの問診を行い，病歴をとり，診断・治療について検討する。

3) 治療方針決定会議

受持患者さんについてプレゼンテーションを行い，質疑・討論を行う。

4) 集団精神療法実習

病棟における集団精神療法に出席し、その実際を学ぶ。

5) 脳波実習

6) 心理検査実習

7) 総括討論

8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 提出されたレポートを添削し、返却する。
- ・ ルーブリック・miniCEX等の方法によりフィードバックを行う。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
- ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

4. 到達目標

1) 医師患者関係のあり方—面接の仕方

精神症状を有する患者様に対する接近の仕方、面接・問診の仕方について理解する。

2) 各種精神疾患の診断

精神状態の把握の仕方、精神疾患の症候論について理解する。

3) 脳波

検査の意義と施行法、正常所見および異常所見について理解する。

4) 臨床心理検査

検査の種類と適応、施行法と結果の解釈について理解する。

5) 画像診断

精神疾患における頭部 CT, MRI, SPECT などの画像診断の意義と正常所見および異常所見について理解する。

6) 統合失調症

症状・病態・診断・治療について理解する。

7) 気分障害

症状・病態・診断・治療について理解する。

8) 脳器質性疾患

症状・病態・診断・治療について理解する。

9) 症状精神病

症状・病態・診断・治療について理解する。

10) てんかん

症状・脳波所見・診断・治療について理解する。

11) 不安障害・パーソナリティ障害

症状・診断・治療について理解する。

12) 精神科薬物療法の実際

向精神薬の種類と適応，使用法について理解する。

13) 精神療法の実際

種類と適応についての理解。

14) 精神障害者の入院に関する法律と入院の適応要件。

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

1) 精神神経科の実習は別記の日程表により主として病棟および外来において行う。

2) 第1日目は，6階北精神神経科病棟のナースステーションに9：00に集合すること。オリエンテーションを行い，受持患者さんを決めその説明を行う。受持患者さんの現病歴を月曜日の午前中に把握し，その結果について主治医から指導を受けた上，午後の治療方針決定会議において提示する。

3) 学生1人が1人の入院患者様を受持ち，自ら進んで4週間を通して診察に当る。分からないところはできるだけ自分で調べたうえ，主治医またはその日の病棟医の指導をうける。受持患者さんの診察結果を毎日カルテに記載し，署名する。他の学生のもつ患者様についても討論しあうこと。

指導医と常に連絡をとり，十分に指導を受け，討論を行うことが重要である。

4) 外来実習の日は，担当医と打ち合わせをしてから病棟で待機し，外来からの呼び出し後すぐに外来に集合する。外来実習は，問診のとり方の注意書を熟読したうえ，割りあてられた新患の予診結果をまとめて，所定の用紙に記入し，担当医の診療に同席し，診断および治療方針について指導をうける。

5) 毎日午前，午後出席確認のサインを担当医からもらうこと。

6) 受持った入院患者さんについてのレポートとテーマレポートを作成し，金曜午後の総括討論のとき提出する。

7) 当科においても他科と同様に，特に下記のこと細心の注意をはらうこと。

(1) 自己の言動が患者さんに与える精神的影響を十分に配慮すること。

(2) 診療上知りえた患者さん個人に関する情報はその秘密を守ること。

(3) 患者さんには不用意に病名を告げたりしないこと。

(4) 患者さんの面前では教科書、参考書の類を参照しないこと。

8) 臨床実習開始前までに系統講義で学んだ精神科症状学、精神科診断学、精神科治療学について事前に復習しておくこと（最低1時間）。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1) 1. 4. 5, G-1-1)-(3) 1~3. 5~7,

G-2-3) 精神：うつ病, G-2-4) 精神：うつ病,

G-2-15) 心因性：パニック障害、過換気症候群,

G-2-16) 心因性：パニック障害, G-2-17) 心因性：パニック障害,

G-2-19) 心因性：身体症状症, G-2-20) 心因性：身体症状症,

G-2-21) 精神：うつ病, G-2-31) 一次性：うつ病、双極性障害、不安障害

G-2-32) 変性：認知症、Parkinson 病, 精神：うつ病, G-4-1)-(5)

6. 評価基準

各自、あらかじめ定められたレポートを提出し、質疑を行い、受持患者さんの病態、診断、治療およびその近縁疾患についての理解の度を評価基準とする。

7. 週間予定表

[第1週目]

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00~12:00 オリエンテーション (受持患者割り当て) (受持医による指導)	岡 安 佐 藤	14:00~17:00 治療方針決定会議	下田・古郡・ 菅原・岡安・ 長谷川・篠崎
火	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	下 田	13:00~17:00 病棟実習	佐々木
水	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	川 俣	13:00~17:00 病棟実習	菅 原
木	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	菅 原	13:00~17:00 病棟実習	菅 原
金	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	古 郡	13:00~15:00 病棟実習	古 郡

[第2週目] ~ [第4週目]

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	岡 安 佐 藤	14:00~17:00 治療方針決定会議	下田・古郡・ 菅原・岡安・ 長谷川・篠崎
火	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	下 田	13:00~17:00 病棟実習	佐々木
水	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	川 俣	13:00~17:00 病棟実習	菅 原
木	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	菅 原	13:00~17:00 病棟実習	菅 原
金	9:00~12:00 外来実習 病棟実習	古 郡	13:00~15:00 病棟実習 15:00~17:00 まとめ	古 郡

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

皮膚科学

1. 目的

臨床実習は医療の現場を体験し、診療を通じて医師の役割と責任、患者さんの心理を理解するとともに、これまで学んだ知識を意味づけし、整理する。病歴の聴取、診察の手順、診断と検査の進め方、治療、患者さんや家族への説明などの実際を学習し、医師として必要な総合的能力の養成を目的とする。

2. 指導教員名

教授：井川 健
准教授：鈴木 利宏 林 周次郎
講師：野老 翔雲
助教：神永 朋子 森 智史 手束 友紀 金井 美馬
日向野ゆき 池上 徹栄 石川 里子 石井 英輔

3. 実習内容及び実習方法

当科の実習を行うにあたって、本校におけるディプロマポリシーを念当におく。

火・木の午前は外来で指導医のもと新患の病歴を聴取し、皮膚病変の表現、鑑別診断および必要な検査、治療について指導を受ける。月は全身麻酔の手術見学、水・金の午前は病棟で術後包交、軟膏処置などの実習を行う。月・火・水・金の午後は皮膚生検、小手術の実習、または少人数教育を受ける。月・木の病棟回診、皮膚病理検討会に参加し、回診前カンファレンスでプレゼンテーションをする。

①（実習毎の評価は各指導医より口答にてフィードバックがある。また、科長による総括により、実習全体のフィードバックがなされる。）

4. 到達目標

- 1) 外来で病歴の聴取、皮膚病変の記載法、KOH 検鏡やパッチテストなどの検査、診断、外用療法の基礎を修得する。
- 2) 病棟で膠原病、天疱瘡、皮膚腫瘍などの疾患について検査、診断、治療の実際を修得する。
- 3) 患者さんに対する基本的な対応を修得する。
- 4) チーム医療の必要性と医師の役割、責任を理解する。
- 5) CC で到達した上記目標の更なる深化に努める。

5. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号) (G-2-12, G-4-2)

- 1) 清潔な服装, 髪形
- 2) 患者さんに失礼のない言葉遣い, 態度
- 3) 時間厳守 (実習を休む時は連絡する)
- 4) 皮膚科教科書を持参する。
- 5) 積極的に質問する。
- 6) 実習前までに皮膚の構造, 発疹の分類・名称について予習する (最低1時間)。
- 7) CC で実習した内容をよく復習 (最低1時間) してから ACC に臨むこと。

6. 評価基準

外来および病棟実習, 少人数教育などを総合して評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:30~8:45 オリエンテーション (外来) 9:00~12:00 手術実習 (中央手術室)	野老 鈴木	13:30~15:00 外来小手術実習 15:00 回診 (本館病棟 8F) 16:00~17:00 クルズス・感染症 など (臨床医学棟 7F)	神永 野老
火	9:00~12:00 外来実習 (外来)	井川	13:30~15:30 外来小手術実習 15:30~17:00 クルズス・検査法 (外来)	鈴木
水	9:00~12:00 病棟実習 (本館病棟 8 北)	森	13:30~15:30 外来小手術実習 15:30~17:00 病棟実習	金井/ 日向野
木	9:00~12:00 外来実習 (外来)	井川	13:30 回診 (本館病棟 8 北) 14:30~15:30 総括 (臨床医学棟 7F) 15:30~17:00 カンファレンス (臨床医学棟 7F)	井川
金	9:00~12:00 病棟実習 (本館病棟 8 北)	石川	13:30~15:30 外来小手術実習 15:30~17:00 クルズス・皮膚腫瘍 (臨床医学棟 7F)	林 金井/ 日向野

井川：井川 健，鈴木：鈴木利宏，林：林 周次郎，金井：金井美馬，

日向野：日向野ゆき，石川：石川里子，野老：野老翔雲，森：森 智史，神永：神永朋子

*クルズス，カンファレンスは臨床棟 7F・皮膚科研究室内カンファレンスルームで行います

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

放 射 線 医 学

1. 目 的

画像診断/IVR/放射線治療の診療の一部を実践し、診療現場で求められる放射線医学の姿を理解する。

2. 指導教員名

教 授：新任教授

学 内 教 授：江島 泰生 中神 佳宏

学内准教授：桑島 成子 荒川 浩明

学 内 講 師：石原 克俊

学 内 助 教：小西 圭 比氣 貞治 三須 陽介 熊澤真理子

鈴木 淳志 齋藤 豊

特 任 教 授：石川 勉 塩山 靖和

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

ACC で放射線科を選択することが決定した者は、実習内容の相談をするために、直ちに鈴木 (asuzuki5@dokkyomed. ac. jp) まで電子メールで連絡すること。

放射線診療に使用されている装置の取り扱いには専門的知識と技術を必要とするため、現場の注意事項を厳守すること。許可無く、装置に手を触れたり、検査室へ入ったりしないこと。

検査中の患者様、放射線治療外来の患者様に対しては、医学を学ぶ者として敬意を払って接すること。医療現場を支える看護師や放射線技師、事務職員に対しても真摯な態度で接すること。

これまでに学んだ画像検査、放射線治療の知識を復習 (最低 1 時間) し、実践的な実習の準備をする。(復習の例として、CC シラバスにまとめてある内容を、適切に説明できるようにしておく)

医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(2) G-3-2) 主として学修目標の②

4. 実習内容及び実習方法

画像診断では特定の分野の疾患を有する症例を指示するので、半日で3－6症例の画像診断レポートを作成する。担当教員が作成したレポートを添削し、それをもとにした指導を行う。IVR では、適切な症例があれば、ACC 実習として認められている手技を行う。また、放射線治療も治療計画の一部を作成する、などを行う。

5. 到達目標

代表的な疾患を評価するための画像検査法と、典型例の画像所見、治療などについて説明できる。

代表的な疾患の I V R 治療・放射線治療について概説できる。

6. 評価基準

放射線医学についての理解度、わかりやすく説明するための工夫、課題に取り組む姿勢、患者様や医療従事者に対する態度を評価。

画像診断実習で作成した読影レポートは、C C 実習で評価に用いた内容を中心に評価する（次ページ参照）。

放射線科画像実習における評価

学生氏名 () 指導医名 () (年 月 日)

疾患名 ()	評価基準			学生医の 自己評価	指導医の 評価
	2点	1点	0点		
評価観点 画像に関する基礎知識 (撮影法、方向等) 例) 胸部X線正面像/腹部ダイナミック造影 CT動脈相位相/T2強調矢状断像、	提示された画像の種類、方向を正しく述べ、その根拠を説明できる	提示された画像の種類、方向を正しく言えるが、根拠を説明できない	提示された画像の種類、方向について答えることができない		
病変部の検出能力 (正常と異常の違い) 例) 肝S8の外側辺縁に周囲の肝実質よりも信号の高い領域あり/子宮体部前壁筋層内に内膜よりやや低信号の腫瘍を認める	正しく病変部を指し示すことができ、病変が存在する臓器名と正常部との違いを説明できる	正しく病変部を指し示すことはできるが、病変の存在する臓器名を言えない	病変部を指し示すことができない		
病変を客観的な言葉で表現する能力 例) 腫瘍は周囲よりも高い信号で、大きさが6cm大の円形を呈する。境界は明瞭で内側の辺縁に一部不整な部分がある。隣接する腎臓を背側に圧排している。	客観的な言葉で、病変の特徴(色合い、大きさ、均一性、辺縁、境界、周囲との関係など)を適切に描写できる	病変部の特徴の一部しか説明できない。あるいは主観的な言葉を一部使う。	病変部の特徴を説明できない。客観的な言葉を使えない。		
診断名を述べる能力 例) T2強調像で腫瘍が不均一な高信号を呈すること、ダイナミック造影で早期から増強されることから、〇〇を疑う。	根拠に基づいて正しい診断名を述べることができる	正しい診断名を述べることができないが、根拠に基づいたものではない	正しい診断名を述べることができない		
総合評価	合計点6点以上をA	合計点3から5点をB	合計点2点以下をC		
コメント					

7. 週間予定表（典型症例の読影を中心としたスケジュールの場合）

第1週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	オリエンテーション (8:30-9:00) PET 画像実習 (9:00-12:00)	新任教授 三須陽介	放射線治療実習 (13:30-16:30)	江島泰生 小西 圭
火	画像実習 (9:00-12:00)	新任教授	画像実習 (13:30-16:30)	新任教授
水	消化管画像実習 (9:00-12:00)	石川 勉	IVR 実習 (13:30-16:30)	石原克俊
木	中枢神経画像実習 (9:00-12:00)	齋藤 豊	救急画像実習 (9:00-12:00)	熊澤真理子
金	肝・胆・膵画像実習 (9:00-12:00)	塩山靖和	呼吸器疾患画像実習 (13:30-16:30)	荒川浩明

第2週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	PET 画像実習 (9:00-12:00)	中神佳宏	放射線治療実習 (13:30-16:30)	江島泰生 小西 圭
火	画像実習 (9:00-12:00)	新任教授	画像実習 (13:30-16:30)	新任教授
水	IVR 実習 (9:00-12:00)	石原克俊	小児画像実習 (13:30-16:30)	桑島成子
木	中枢神経画像実習 (9:00-12:00)	鈴木淳志	救急画像実習 (13:30-16:30)	熊澤真理子
金	腹部画像実習 (9:00-12:00)	比氣貞治	呼吸器疾患画像実習 (13:30-16:30)	荒川浩明

第3週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	PET 画像実習 (9:00-12:00)	三須陽介	放射線治療実習 (13:30-16:30)	江島泰生 小西 圭
火	画像実習 (9:00-12:00)	新任教授	画像実習 (13:30-16:30)	新任教授
水	消化管画像実習 (9:00-12:00)	石川 勉	IVR 実習 (13:30-16:30)	石原克俊
木	中枢神経画像実習 (9:00-12:00)	齋藤 豊	救急画像実習 (9:00-12:00)	熊澤真理子
金	肝・胆・膵画像実習 (9:00-12:00)	塩山靖和	呼吸器疾患画像実習 (13:30-16:30)	荒川浩明

第4週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	PET 画像実習 (9:00-12:00)	中神佳宏	放射線治療実習 (13:30-16:30)	江島泰生 小西 圭
火	画像実習 (9:00-12:00)	新任教授	婦人科腫瘍画像実習 (13:30-16:30)	新任教授
水	IVR 実習 (9:00-12:00)	石原克俊	小児画像実習 (13:30-16:30)	桑島成子
木	中枢神経画像実習 (9:00-12:00)	鈴木淳志	救急画像実習 (13:30-16:30)	熊澤真理子
金	腹部画像実習 (9:00-12:00)	比氣貞治	呼吸器疾患画像実習 (13:30-16:30)	荒川浩明

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

ゲノム診断・臨床検査医学

1. 目的

チーム医療のリーダーたるべき医師の役割とあるべき姿を感染制御，臨床検査の現場から学ぶ。感染制御コースと臨床検査コースを以下の週間予定表で示すが、どちらかを重点的に学ぶことも可能である。

2. 指導教員名

教授：小飼 貴彦（CC 実行委員）
講師：福島 篤仁
助教：伊藤 裕佳

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 注意事項：何かを与えられるのを待つのではなく、積極的に学ぶ態度が重要である。
- 2) 事前学習：CC で学んだ内容を熟知しておくこと。テキストレポートを見直すこと。所要時間：2 時間
- 3) 事後学習：実習した成果を A4 レポート 1 枚にて提出。所要時間：2 時間
- 4) 実習内容は、事前の協議で調整する（感染制御と臨床検査の比率、検査センターでの実習・見学の追加など）。ACC 希望者は、日程が決まり次第医局まで連絡すること。
- 5) 医学モデル・コア・カリキュラム G-3-2) ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑦, ⑧, ⑩に対応する。
- 6) 初日は臨床検査センター前に 9:00 に集合する。

4. 実習内容及び実習方法

感染制御コース：感染コンサルテーション、院内感染ラウンドに参加する。

臨床検査コース：遺伝子診断等の各種検査を自ら行い、検査レポートを作成する。日程、内容については学生個人を主体とし相談に応じる。

実習方法：指導医同席のもと、感染コンサルテーション、院内感染ラウンド、遺伝子検査等を施行実施しそれについてのレポートを作成し、医療の実際を経験する。

上記は、獨協医科大学の教育方針・理念の第1項に掲げる「教育とは「学生本人の力をひき出し、育む」ことが本意であり、医学を修得するのは学生自身であることを十分認識させ、主体的な学習能力を養う。」ことと関連し、卒業要件に合致するものである。各指導教官は都度学生にフィードバックし、レポートにコメントを記し返却する。

5. 到達目標

感染制御コース：院内他職種（看護師、薬剤師、臨床検査技師）と連携し、感染対策を立案し、実行できる。

臨床検査コース：遺伝子検査等各種検査を自身で施行し、臨床科に結果報告書を作成できる。

6. 評価基準

日々の研修態度、レポートより到達度をチェックする。また、臨床検査技師等研修に携ったメディカルスタッフの評価も加味して評価を行なう。評価方法はルーブリック法に従う。

7. 週間予定表

第1週目

感染制御コース

曜日	時間	午前	担当者	午後	担当者
月	9:00～12:00	オリエンテーション 異常値報告確認 インシデントレポート確認	小飼貴彦	13:00～17:00 症例検討準備 検査センター スタッフ会議参加	小飼貴彦
火	9:00～12:00	感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁	13:00～17:00 感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁
水	9:00～12:00	感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁	13:00～17:00 感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁
木	9:00～12:00	感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁	13:00～17:00 感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁
金	9:00～12:00	感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁	13:00～17:00 感染コンサルテーション、院内感染ラウンド	福島篤仁

第2週目

臨床検査コース

曜日	時間	午前	担当者	午後	担当者
月	9:00～12:00	オリエンテーション 異常値報告確認 インシデントレポート確認	小飼貴彦	13:00～17:00 症例検討準備 検査センター スタッフ会議参加	小飼貴彦
火	9:00～12:00	遺伝子検査	小飼貴彦	13:00～17:00 遺伝子検査	小飼貴彦
水	9:00～12:00	遺伝子検査	伊藤裕佳	13:00～17:00 遺伝子検査	伊藤裕佳
木	9:00～12:00	感染症遺伝子検査	福島篤仁	13:00～17:00 感染症遺伝子検査	福島篤仁
金	9:00～12:00	遺伝子検査	小飼貴彦	13:00～17:00 遺伝子検査	小飼貴彦

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

小児科学・小児外科

1. 目 的

CC で培った医学知識や診療技術を基に、小児医療チームの一員として臨床小児科学/小児外科学についてより深く学ぶ。

2. 指導教員名（小児科学）

教 授：吉原 重美

准 教 授：鈴木 宏

学内准教授：今高 城治 (CC 実行委員) 佐藤 雄也 小山さとみ

講 師：福島啓太郎

学 内 講 師：渡部 功之 (ACC 副実行委員) 栗林 良多 関根 佳織

学 内 助 教：加納 優治 (ACC 実行委員) 有賀信一郎 中山 元子

長沼 純子 加藤 正也 藤田 雄治 安藤 祐輔

高柳 文貴 宮本 学 石川 洵 鷹木 雄飛 他

指導教員名（小児外科）

学内准教授：鈴木 完

学 内 助 教：荻野 恵 渡邊 峻 他

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

小児科学/小児外科の系統講義内容については、全て理解しているものとして ACC 実習は開始される。各自十分な事前学習のうえ実習に望まれることが肝要である。また小児科病棟では感染症の患者を診察する機会が多い。体調不良の際は速やかに申し出ること。

小児科/小児外科関連の教科書の運動、発達の項目は各自あらかじめ学習しておくこと（2 時間）。小児感染症の基礎知識を復習しておくこと（2 時間）。

医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)1~7, G-1-1)-(2), G-1-1)-(3)1~6 12 13, G-2-1), G-2-2),
G-2-3), G-2-4), G-2-5), G-2-6), G-2-7), G-2-8), G-2-9), G-2-10),
G-2-11), G-2-12), G-2-13), G-2-14), G-2-15), G-2-16), G-2-17),
G-2-18), G-2-19), G-2-20), G-2-21), G-2-22), G-2-23), G-2-24),

G-2-25), G-2-26), G-2-27), G-2-28), G-2-29), G-2-30), G-2-31),
G-2-32), G-2-33), G-2-34), G-2-35), G-2-36), G-2-37),
G-3-1)1~13 16 17, G-3-2)1~3 5~8 10~12, G-3-3)1~3, G-3-4)1~2,
G-4-1)-(3), G-4-2), G-4-3), G-4-4)

4. 実習内容及び実習方法

実習初日は AM 9:00 に新棟 3 階 (3C 病棟) の第 1 カンファレンス室に集合する。詳細はその場で指導教員 (小児科: 今高/加納、小児外科: 鈴木) より説明を行う。実習は、小児科一般病棟実習/小児外科実習 (2 週間) および NICU 病棟実習 (2 週間) を交互に学ぶ、計 4 週間の実習となる。

総合的な評価については、主任教授の試問の際、各自にフィードバックを行う。

卒業・学位授与においては、高く正確な医学知識と自己研鑽が必要である。これは CC・ACC でも同様であり、ベッドサイドでの小児疾患全般の患者との触れ合いや医師・看護師などの姿勢から肌で感じ身につけていただければと考える。

5. 到達目標

ACC は医学部 6 年生の卒業要件に該当する実習である。事前に医師国家試験の過去問を勉強しておくこと (5 時間)。また医学知識のみにとらわれず、小児医療を取り巻く社会状況や医療倫理哲学的な問題にも関心を高める。

6. 評価基準

全実習期間を通じて、医療スタッフの一員として指導医のみでなく全ての医療スタッフの意見を考慮し、主任教授が口頭試問を行い評価判定する。

7. その他

毎週火曜午前の教授回診において、第 1 週、第 3 週は、各自必ず 1 回以上は質問をする。第 2 週、第 4 週は、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。

希望により CC クルズスに同席しても良い。

8. 週間予定表（クルズスの日程は別紙参照）

小児科/小児外科一般病棟実習：第1-2週目または第3-4週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00- 3Cカンファレンス室 オリエンテーション（1週目） 一般病棟/外来実習、クルズス	加納 今高 担当医	13:00- 一般病棟/外来実習、クルズス 17:00-17:30 放射線カンファ	担当医 加納/渡部 石川
火	9:00-12:00 教授回診	吉原、今高 佐藤、小山	13:00- 一般病棟/外来実習、クルズス	福島、高柳 大坪
水	9:00- 3Cカンファレンス室 9:00- 一般病棟/外来実習、クルズス	加納 大坪	13:00- 一般病棟/外来実習、クルズス	福島、長沼 中山
木	9:00- 3Cカンファレンス室 9:00- 一般病棟/外来実習、クルズス	今高 担当医	13:00- 一般病棟/外来実習、クルズス 16:00（4週目）教授試問	安藤 吉原
金	9:00- 3Cカンファレンス室 9:00- 一般病棟/外来実習、クルズス	加納 担当医	13:00- 一般病棟/外来実習、クルズス	担当医 関根、藤田

NICU病棟実習：第1-2週目または第3-4週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00- 3Cカンファレンス室 オリエンテーション（1週目） NICU病棟/外来実習、クルズス	加納 今高 渡部	13:00- NICU病棟/外来実習、クルズス 17:00-17:30 放射線カンファ	担当医 加納/渡部 鈴木
火	9:00-12:00 教授回診	吉原 渡部、栗林	13:00- NICU病棟/外来実習、クルズス	担当医 栗林
水	9:00- 3Cカンファレンス室 9:00- NICU病棟/外来実習、クルズス	加納 担当医	13:00- NICU病棟/外来実習、クルズス	有賀、宮本
木	9:00- 3Cカンファレンス室 9:00- NICU病棟/外来実習、クルズス	今高 担当医	13:00- NICU病棟/外来実習、クルズス 16:00（4週目）教授試問 17:30- NICU准教授回診	担当医 吉原 鈴木
金	9:00- 3Cカンファレンス室 9:00- NICU病棟/外来実習、クルズス	加納 担当医	13:00- NICU病棟/外来実習、クルズス	加藤、宮本

小児科/小児外科クルズス（日程表は別紙参照）＊基本的にはCC向けのクルズス

- ・クルズス日程表と小児科実習アンケート用紙を初日に加納（7391）より受け取る。
- ・各分野について30-60分程度のクルズス（ミニレクチャー）が行われる。
- ・担当医師の都合で日程通りに行えない場合があるので、当日の朝に適宜確認する。

9. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

10. その他

- ・長期休暇などを利用して、臨時の小児病棟実習を随時受け入れます。希望者は随時、小児科秘書：人見 6411/星 6412、小児外科秘書：案野 6413 まで連絡をください。

外科学（上部消化管）

1. 目 的

上部消化管外科 ACC 実習においては、多様な外科的疾患に対して診断から治療（手術）法を理解し、基本的な外科手術手技を修得する事を目的とする。各学生は既に学んだ基礎医学及び臨床医学の知識を基に、本実習で割り当てられた受持ち患者の画像診断及び臨床検査所見などを通して病態を把握し、指導医師とともに治療計画を立てることが求められる。次にこれをチーム内・医局カンファレンスで討論する事により、更に適切な診療計画を立てる能力を養う。

この過程において、学生は常に患者の人格尊重とプライバシー保護を最優先し、指導医の監督、指導のもとに医学生として診療活動に責任ある態度で行動する。

特に、外科診療では医師以外の医療スタッフを含めたチーム医療が重要であり、その一員として参加型臨床実習を体験する。

2. 指導教員名

教 授：小嶋 一幸

学 内 教 授：中村 隆俊（下部消化管治療センター出向中）

准 教 授：中島 政信

学内准教授：森田 信司 鈴木 完*（小児外科出向中）

学 内 講 師：中川 正敏 室井 大人（CC 実行委員）

井原 啓佑

学 内 助 教：荻野 恵* 久保 僚

高柳 雅（下部消化管治療センター出向中）

滝瀬 修平 渡邊 峻* 井上 昇 *小児外科

3. 注意事項、事前・事後学習

- 1) 本実習期間中、学生はすべての部署（病棟、検査室、手術室、医局内）において上部消化管外科スタッフとして扱われる。従って、常にその自覚を持って、患者様及びその家族をはじめ、連携各科医師、各部署と対応する。
- 2) 患者の情報は、決して他人には漏らさない原則を遵守する。
- 3) 各指導医・担当医は、病棟管理、検査、手術、外来、緊急処置等をこなしているため、常に学生から密に連絡をとり指導医、担当医と共に行動する。

- 4) 許可された医療行為に関しては必ず指導医あるいは他の担当医立会いのもとで行うこと。決して単独で行ってはならない。
 - 5) 患者及び家族への疾患の説明に関しても、予め指導医あるいは他の担当医と協議の上、医師同席のもとで行い、単独では行わない。(患者の側から意識的に医学部生に質問されることがあるので、特に注意する。)
 - 6) レポートは、教授諮問時に提出する。(書き方要項に関しては下記参照)
 - 7) 原則として欠席は認めない。病欠の場合は、診断書を提出する。やむを得ず出席できない場合は、必ず ACC 担当医及び所属グループの指導医に連絡する。後日、欠席分の ACC 実習を課す。
 - 8) 事前に、標準外科学などの教科書の消化管外科領域、小児外科領域の項目に目を通しておくこと(食道癌、胃癌、大腸癌、小児鼠径ヘルニアなどを中心に 60~120 分)。
- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-4-1) - (2) 外科

4. 実習内容及び実習方法

- 1) オリエンテーション：月曜AM7：45 に臨床医学棟 5 階 503 号室集合
月曜日が祝祭日の場合は火曜AM7：45 に臨床医学棟 5 階 503 号室集合
実習スケジュール表、グループリストを配布する。
- 2) 手術見学：受持ち患者の手術には手洗いをして直接参加する。受持ち以外の手術見学も積極的に行う事。ただし、この場合は、執刀医及び手術グループの指導医に見学希望の旨を申し出る。小児症例・成人症例に係らず積極的に参加されたい。
- 3) 手洗実習：受持ち患者の手術時に担当医と手洗法、術衣の着方、手袋の装着方法、糸結び法等について実習を行う。
- 4) 病棟実習・受持ち患者業務：病棟実習においては、上部消化管グループ、下部消化管グループ、小児外科グループの何れかに所属し、グループ全体の診療業務に係りながら、原則として最低 1 症例の術前患者を受け持つ。

学生は特にその割り当てられた患者について、日々変化する身体所見、検査所見を注意深く診察・観察する事から診療過程を理解し、指導医と現状の問題点や今後の治療指針等に関して活発な討論を行う。これにより個々の疾患に対して系統的に知識を整理し、外科診療体系の修得を目指す。

[週間予定]

1. チャートラウンド：火曜日 16：00 より臨床医学棟 5 階 503 号室
2. 教授回診：火曜日 16：45 より 7E 病棟
3. 術前カンファレンス・受持ち患者プレゼンテーション：水曜日 AM7:30 より
臨床医学棟 5 階カンファレンスルーム
プレゼンテーションは、指導医と論点をよく整理し、原稿の棒読みではなく、
学生自身の言葉で表現できるよう努めること。（抽象的な表現は避ける）
4. 教授諮問：金曜日 16：00 より臨床医学棟 5 階 503 号室
5. クルズス：時間と内容については実習初日オリエンテーション時に通知
6. レポート提出：教授諮問時に提出
受け持ち患者の疾患について画像診断および臨床検査所見を通して病態を
把握し、治療法や鑑別診断、術前・術後管理法などを整理し、レポートにま
とめる。実習全体の評価は参加意欲とレポートで行う。課題に対するフィー
ドバックはルーブリック法により行う。レポートは、金曜日の教授諮問まで
に作成する。

[レポートに必要な項目]

1. 受け持ち患者の診断や治療法などをまとめる。受け持ち患者様の問題点、
術式、起こりうる合併症、それに対する対策、退院後の治療方針を整理する。
2. 見学した患者の診断名および手術術式を列挙する。
3. 上部消化管外科 CC についての感想及び希望など。
(1 と 2 で A4 サイズ用紙 2 枚にまとめる。3 は別紙 1 枚に作成し、それぞれ
に氏名を記載すること。)

5. 到達目標

一般外科疾患、消化管外科疾患、小児外科疾患を通して以下の事を到達目標とする。

- 1) 患者の病態を理解し、手術に必要な解剖の再確認と生理学的特徴を整理し、術後機能異常、経過を説明できる。
- 2) 鑑別すべき疾患と鑑別診断法を列挙できる。
- 3) 基礎的疾患の治療法が列挙でき、その手術適応と術式を説明できる。
- 4) 術前・術後管理法の要点（呼吸、循環、代謝、栄養状態等）を理解し、合併症予防とその対応を説明できる。
- 5) 基本的外科処置（中心静脈カテーテル挿入、胸腔・腹腔穿刺、生検、塞栓療法等）に対する目的、意義、合併症、注意点を説明できる。
- 6) 外科学診療体系の要となるチーム医療の重要性と、その一員としての役割を理解する。

6. 評価基準

- 1) 外科診療実習期間中における実習態度
- 2) 診療への積極性（回診、諸検査、手術、カンファレンス等への参加）
- 3) チームワーク医療の一員としての協調性
- 4) 術前カンファレンスにおける受け持ち症例の理解・プレゼンテーション内容と能力
- 5) 外科疾患における診断、検査、治療に対する知識
- 6) 基本外科手技の習得状況

上記事項を中心に講座主任、CC 実行委員、指導医が総合的に判定する。

最後に短い期間であるが、各グループの指導医・担当医と密に連携をとり、チーム医療の重要性を知ると共に、自主性を持った実習となることを期待する。

7. CC実習及び基幹診療科実習 週間予定表

実習初日集合場所・時間 臨床医学棟 5 F 上部消化管外科研究室 (503 号室)
AM7 時 45 分

時間 曜日	午 前 (内容)	担当者	午 後 (内容)	担当者
月	7:45-8:15 オリエンテーション 9:00-12:00 手術実習 (ロボット)	室井大人 小嶋一幸	13:00-15:00 手術(・病棟)実習 15:00-16:00 クルズス・結紮	森田信司 高柳 雅 渡邊 峻
火	8:00-8:30 病棟回診 9:00-12:00 小児外科手術実習/手術実習	中川正敏 鈴木 完 山口岳史	13:00-15:30 手術(・病棟)実習 16:00-17:00 チャートラウンド/教授回診	中島政信 小嶋一幸
水	7:30-8:30 術前カンファレンス 9:00-12:00 手術実習	小嶋一幸 山口岳史	13:00-17:00 手術・病棟実習	中島政信 森田信司
木	8:00-8:30 小児外科回診 3C(小児外科) 10:30-11:00 クルズス (大腸)	鈴木 完 中村隆俊	13:00-17:00 手術・病棟実習	室井大人 井原啓佑
金	9:30-12:00 病棟実習・手術	中村隆俊	13:00-15:30 病棟実習・手術 16:00-17:00 教授諮問	井原啓佑 小嶋一幸

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

外 科 学（肝・胆・膵）

1. 目 的

日常診療の現場を体験し医師としての基本的な姿勢と技術を習得する。実臨床の場で諸問題に取り組み解決する能力を養う。

このカリキュラム（ACC）の特徴は学生が医療チームの準一員として臨床の現場に参加することである。学生はそれぞれの指導医や担当医（主治医）と行動を共にし、臨床経験をj得る。

2. 指導教員名

教 授：青木 琢

准 教 授：磯 幸博

講 師：阿部 暁人 櫻岡 佑樹 白木 孝之（CC 実行委員）

松本 尊嗣 森 昭三

助 教：朴 景華 山口 教宗 清水 崇行 佐藤 駿

田中 元樹 仁木まい子

非常勤講師：吉田 修郎

3. 実習内容及び実習方法

1) 病棟実習：患者の問診や診察。病歴の記載。手術前後の処置

（一般検査，特殊検査，輸液，輸血，術後創処置，その他）。主な術後合併症について学ぶ。

2) 手術：受け持ち患者の手術に参加する。それ以外の学生は手術を見学し指導医（担当医）の解説を受ける。

3) 救急患者：病棟，外来あるいは救急外来において，救急患者の診察（外傷の初期治療，急性腹症，ショックの治療など）を学ぶ。

4) 症例検討会，CPC：各種のカンファレンスに参加する。特に術前術後症例カンファレンスには必ず参加する。

5) 実習期間中に外科の基本事項を習得するために各臓器別・疾患別のクルズスを行う。

6) 実習最終日に試問を行う。また，指導医の指示に従ってレポートを提出する。

7) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

4. 到達目標

1) 医師としての使命感と価値観を持つ。

2) 外科的疾患の問診，診察

悪性疾患を含む外科的疾患の疑われる患者や救急患者に対して適切な問診や診察ができる。患者から得た理学的所見から疾患の診断への考察や次に行うべき検査法を的確に選択できる。

3) 各種診断

臨床検査所見，各種画像診断（エックス線診断，内視鏡診断，超音波診断，病理組織学的診断など）が正確に理解できる。

4) 外科に必要な各臓器の解剖を説明できる。

5) 各疾患に対する術式を説明できる。

6) 手術の利点と欠点を理解し適切な治療方針を選択できる。

7) 手術室における清潔と不潔の概念を説明できる。

8) 他職種との連携やチーム医療の重要性を理解できる。

9) 術後の創処置とドレーン管理の意義と方法を説明できる。

10) 術後合併症について説明できる。

クルズス

1) 急性腹症の診断と治療（櫻岡，白木，松本）

2) 肝疾患（良・悪性）および門脈系疾患の診断と治療（青木，礒，白木）

3) 胆道疾患（良・悪性）の診断と治療（青木，礒，松本）

4) 膵疾患（良・悪性）の診断と治療（青木，森，櫻岡）

5) 乳腺，内分泌系外科の治療（阿部）

6) 脈管系疾患（末梢血管）の診断と治療（櫻岡，田中）

7) 内視鏡下手術の実際（櫻岡，松本，森）

8) 臓器移植（青木，礒，白木，森，櫻岡）

9) 超音波診断法の実習（青木，櫻岡，山口，朴）

10) 術後管理，術後合併症（櫻岡，白木，松本，朴，山口，清水，田中）

11) 外来の小外科（朴，清水，佐藤）

12) 試問（青木）

5. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

外科系の患者においては疾病の上にメスが加えられる。常に患者の気持ちを慮り行動すること。

実施に際して,

- 1) 患者の人格を尊重し, その訴えを傾聴すること。
- 2) 常に清潔な服装で, 常識ある行動をとること。
- 3) 患者から知り得た情報は決して他に漏らさないこと。
- 4) 指導医ならびに担当医 (主治医) の監督・指導のもとに患者を受け持ち, 診察, 診療に当る。毎日午前午後各一回は必ず診察すること。
- 5) 受け持ち患者の諸検査には原則的に参加すること。
- 6) 受け持ち患者の術前プレゼンテーションと手術参加は必須である。あらかじめ症例と病態を十分に把握してカンファレンスと手術に望むこと。
- 7) 手術室に入室するときは, 体調を整え, 清潔な身体で, 指定の術衣・帽子・マスクを着用する。手指や爪は清潔にしておくこと。手術室ではむやみに機器に触れないこと。
- 8) やむを得ず欠席や遅刻をする場合には必ず届け出ること。届け出のない場合には合格点を与えない場合もある。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し, 最低各 1 時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)1~9, G-1-1)-(3)1~3, 5, 6, 12), G-2-24), G-2-25),

G-3-1)⑤, ⑧, ⑪, ⑫, G-3-3)①~④, G-4-1)-(2)ねらい①, ②学修目標①~⑤

6. 評価基準

出席日数, 実習態度, 試問の結果, レポートを総合して成績を評価する。

7. 週間予定表

〔第1週目〕×3

時間 曜日	午 前 7:30~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	カンファレンス、回診 オリエンテーション 手術実習	青 木 白 木	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 櫻岡
火	カンファレンス 教授回診	青 木	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 阿 部 森
水	カンファレンス、回診 手術実習 病棟実習	青 木 松 本	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 松 本 白 木
木	手術実習、病棟実習 内視鏡検査見学	阿 部 森	手術実習 病棟実習 内視鏡検査見学 クルズス	森 松 本
金	カンファレンス、回診 手術実習 病棟実習	青 木 磯 白 木	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 白 木

〔第4週目〕

時間 曜日	午 前 7:30~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	カンファレンス、回診 手術実習 病棟実習	青 木 白 木	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 櫻 岡
火	カンファレンス 教授回診	青 木	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 阿 部 森
水	カンファレンス、回診 手術実習 病棟実習	青 木 松 本	手術実習 病棟実習 クルズス	磯 松 本 白 木
木	カンファレンス、回診 手術実習 病棟実習 内視鏡検査見学	青 木 阿 部 森	手術実習 病棟実習 内視鏡検査見学 クルズス	松 本 森
金	カンファレンス、回診 手術実習 病棟実習	青 木 磯 白 木	試問	青 木 磯

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

心臓・血管外科学

1. 目的

心臓・血管外科 CC 実習においては、これまで学習してきた知識を臨床の場で活用し、直接患者に接し医療チームの一員として、基本的な医師の姿勢と技術を習得する。心臓・血管外科においては、再建を行う数少ない外科であり、心臓外科と血管外科領域の手術予定患者を受け持ち、基本的な医療行為である病歴聴取（主訴，現病歴，既往歴，家族歴，生活歴など）、検査（一般検査から各種の特殊検査）、診断に至る過程、手術治療の必要性と適応、術前の管理、手術、術後の管理などを指導医の監督，指導のもと実際に経験する参加型臨床実習を目的とする。

2. 指導教員名

教授：福田 宏嗣

准教授：緒方 孝治 柴崎 郁子 斎藤 俊輔

講師：小西 泰介 土屋 豪

助教：武井 祐介 手塚 雅博 金澤 祐太 菅野 靖幸

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 受け持ちとなる患者紹介の際、当大学の医学生で臨床実習であることを伝えるため、患者に対して医師を目指す学生として真摯な態度で接すること。
- 2) 手術を前にした心臓・血管外科の患者の多くは重病であり、病気・手術・将来への不安等に対して精神的にも大きな負担を抱えていることを認識して接すること。
- 3) 患者についての「守秘義務」があることを忘れてはならない。特に病院内外での患者の情報を漏らすことは禁止されている。
- 4) 担当患者と接する前に必ず担当医に「患者様への病状説明」を確認すること。
- 5) 手術室・検査室等への移動が多いので携帯する荷物は必要最低限とすること。
- 6) 理由があつて欠席する場合には担当医あるいは CC 担当者に連絡すること。（但し、連絡しても再実習になることもある。）
- 7) CC は講義のように教科書的なことを学ぶことが目的ではない。患者を中心に看護師、技師などの医療関係者から様々な学ぶべきことがある。

8) 毎日の手術について、前日までに手術適応、手術方法などについて予習しておくこと（最低1時間）。更に手術後は手術書などで手術内容について復習すること（最低1時間）。

9) レポートは、最終日午後の総括時に提出する。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1, G-2-5), 6), 15), 16), 17), 18), G-3-1), 3), 4), G-4-1)-(2)

4. 実習内容及び実習方法

1) オリエンテーション：月曜 AM7:30 に心臓・血管外科医局(RI 棟2階心血外医局)に集合。

月曜日が祝祭日の場合は火曜に同じ日時に集合。

2) 受け持ち患者紹介：手術前までに、問診、一般検査(血液学的検査、肺機能検査、各種の画像診断など)、予定手術などを把握する。

3) 手術：担当患者の手術には原則として手洗いをして参加する。冠動脈バイパス術、弁置換術、大動脈瘤、血管外科領域のカテーテル治療。それ以外の学生は指導医とともに外来または病棟実習を行い、空いた時間は手術見学を行う。

4) 毎日のカンファレンスで受持ち患者のプレゼンテーションを行う。

5) 教授回診、症例検討会、抄読会へ参加する。

6) 実習最終日の総括の際にレポートを提出する。

7) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

1) 外科医として、手術室における清潔と不潔の概念、手洗い、清潔操作、ガウンや手袋装着など理解する。

2) 心臓や血管疾患の問診、診察

的確な問診や診察ができる（患者とのコミュニケーションの評価を）。

病気の経過と共に病気の原因をつかむことができる問診を行う。

3) 各疾患の診断

術前一般検査の異常値を指摘することができ、これに対応した適切な術前管理の方法を理解し、述べることができる。

4) 心臓の解剖や血管名を説明できる。

5) 冠動脈疾患・弁疾患・大動脈瘤などの病態を理解し、診断方法、病変部位を指摘し、説明ができる。また、手術適応と手術術式を説明できる。

6) 術後管理

創処置とドレーン管理の方法などを説明できる。各手術において一般的な術後の合併症とその対応について説明ができる。特に重篤な合併症の診断と治療を理解する。

6. 評価基準

出席日数、実習態度、レポート及び口頭試問により評価する。

採点についてはルーブリック法を用いる。

7. CC実習及び基幹診療科実習 週間予定表

患者紹介の詳細は月曜日のオリエンテーションの時に説明する。

〔第1週目〕×3

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	7:30~9:00 オリエンテーション (RI棟2階心血外医局) 9:30~ 手術/病棟実習	福 田 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30~17:00 PMカンファレンス	福 田 小 西 柴 崎
火	7:30~8:00 抄読会 8:00~8:30 カンファレンス (RI棟2階心血外医局) 9:30~ 手術/病棟実習	福 田 斎 藤	手術/病棟実習/縫合練習 16:30~17:00 PMカンファレンス 17:00~18:00 術前検討会	福 田 斎 藤 土 屋 福 田
水	7:30~8:00 カンファレンス (RI棟2階心血外医局) 8:00~8:30 心外・呼外カンファレンス (4東カンファレンスルーム) 8:30~9:30 教授回診 9:30~ 手術/病棟実習	福 田 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30~17:00 PMカンファレンス	緒 方 小 西 土 屋
木	7:30~8:30 カンファレンス (RI棟2階心血外医局) 9:30~ 手術/病棟実習	福 田 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30~17:00 PMカンファレンス	柴 崎 小 西 柴 崎
金	7:30~8:00 術後検討会 8:00~8:30 カンファレンス (RI棟2階心血外医局) 9:30~ 手術/病棟実習	柴 崎 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30~17:00 PMカンファレンス	緒 方 柴 崎 小 西

〔第4週目〕

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	7:30～9:00 オリエンテーション (RI 棟 2階心外医局) 9:30～ 手術/病棟実習	福 田 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30～17:00 PM カンファレンス	福 田 小 西 柴 崎
火	7:30～8:00 抄読会 8:00～8:30 カンファレンス (RI 棟 2階心外医局) 9:30～ 手術/病棟実習	福 田 斎 藤	手術/病棟実習/縫合練習 16:30～17:00 PM カンファレンス 17:00～18:00 術前検討会	福 田 斎 藤 土 屋
水	7:30～8:00 カンファレンス (RI 棟 2階心外医局) 8:00～8:30 心外・呼外カンファレンス (4東カンファレンスルーム) 8:30～9:30 教授回診 9:30～ 手術/病棟実習	福 田 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30～17:00 PM カンファレンス	緒 方 小 西 土 屋
木	7:30～8:30 カンファレンス (RI 棟 2階心外医局) 9:30～ 手術/病棟実習	福 田 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:30～17:00 PM カンファレンス 17:00～18:00 教授試問	柴 崎 小 西 福 田
金	7:30～8:00 術後検討会 8:00～8:30 カンファレンス (RI 棟 2階心外医局) 9:30～ 手術/病棟実習	柴 崎 小 西	手術/病棟実習/縫合練習 16:00～17:00 総括	緒 方 柴 崎 小 西

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

呼吸器外科学

1. 目 的

呼吸器外科学においては呼吸器外科についての実習を行う。入院患者を臨床教材とする臨床実習である。主に手術を予定した患者を対象とし、病歴、検査（一般検査から各種の特殊検査）、診断に至る過程、手術治療の必要性と適応、術前の管理、手術、術後の管理などを実際に経験する。これまでに学んできた知識を統合し、より深いものにすることを目的とする。

2. 指導教員名

主任教授：千田 雅之

学内教授：前田寿美子

准教授：中島 崇裕（CC 実行委員）

学内准教授：井上 尚

学内助教：梅田 翔太 有賀 健仁

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 患者に紹介するときには当大学の医学生で臨床実習として患者に接する旨を伝えるので、患者に医師を目指す学生として真摯な態度で接すること。
- 2) 手術を前にした呼吸器外科の患者の多くは重病であり、精神的にも大きな負担を抱えていることを認識して接すること。
- 3) 患者についての「守秘義務」があることを忘れてはならない。特に病院の内外的での患者名の使用は禁止される。
- 4) 手術室・検査室等への移動が多いので携帯する荷物は必要最低限とすること。
- 5) 理由があって欠席する場合には担当医あるいは ACC 担当者に連絡すること。（但し、連絡しても再実習になることもある。）
- 6) ACC は従来のように教科書的なことを学ぶ目的で行うものではない。患者を中心に看護師、技師などの医療関係者から様々な学ぶべきことがある。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-4-1)-(2)

7) 実習前までに CC で学んだ内容を復習、改めて胸部の解剖、清潔操作、外科手技術式について事前に予習しておくこと（予習に必要な時間：5時間 復習に必要な時間：10時間）

8) 服装が臨床実習（診療）に不適切と判断した場合は再実習とする。

9) 体調不良の場合にて実習を欠席した場合、診断書のない欠席はその日数分を再実習とする。原則として診断書を実習終了前に提出すること。

4. 実習内容及び実習方法

1) 問診

2) 一般検査：血液学的検査，肺機能検査，各種の画像診断，他

3) 特殊検査，処置

気管支鏡検査，運動負荷試験，胸腔ドレナージ，局所麻酔下胸腔鏡検査，他

4) 手術

担当患者の手術には原則として手洗いをして参加。

肺癌，自然気胸，縦隔腫瘍

5) 教授回診，症例検討会，抄読会への参加

6) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ ルーブリック・miniCEX等の方法によりフィードバックを行う。
- ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
- ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

*担当患者についてプレゼンテーション（アセスメントを含）ができる。

1) 的確な問診や診察ができる。

2) 術前一般検査の異常値を指摘することができ，これに対応した適切な術前管理の方法を理解し，述べることができる。

3) 特殊検査による問題点を指摘することができ，これに対応した治療方法・手術方法を理解し，述べることができる。

4) 呼吸器系疾患

肺癌

組織学的分類・TNM 分類・病期分類の診断方法を理解し、部位診断ができること。

手術の術式と適応を理解し、説明できる。

合併療法の内容と必要性を理解し、説明ができること。

気胸

病態と治療の適応について理解し、説明ができること。

縦隔腫瘍

縦隔腫瘍の種類と病態の理解手術適応と術式の選択の方法を理解する。

その他

膿胸，外傷，嚢胞性肺疾患の病態と検査方法及び手術適応を理解する。

5) 術前・術後

各手術において一般的な術前術後の合併症とその対応について説明ができる。

特に重篤な合併症の診断と治療を理解する。

6. 評価基準

出席状況と、mini-CEX 及び口頭試問により評価する。

mini-CEX，口頭試問は実習の最終日に各指導医により行われる。毎日、自分なりのカルテを記載すること。

7. 週間予定表

患者紹介の詳細は月曜日のオリエンテーションの時に説明する。

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:30-9:00 オリエンテーション (初日のみ) 9:30-12:00 患者紹介・病棟実習	中島崇裕 梅田翔太	13:00-16:00 病棟実習 16:00-17:00 クルズス	中島崇裕
火	8:00-9:30 症例検討会 9:30-13:00 手術室実習	千田雅之 千田雅之	13:00-16:00 手術室実習 16:00-17:00 クルズス	井上尚
水	8:00-9:30 教授回診 9:30- 気管支鏡検査	千田雅之 中島崇裕	13:00-17:00 手術室実習	中島崇裕
木	8:00-9:30 症例検討会 9:30-13:00 手術室実習	千田雅之 千田雅之	13:00-16:00 手術室実習 16:00-17:00 クルズス	井上尚 千田雅之
金	9:00-11:00 病棟実習 11:00-12:00 クルズス	前田寿美子 前田寿美子	13:00-16:00 手術室実習 16:00-17:00 口頭試問	前田寿美子 有賀健仁 前田寿美子

*クルズスの時間は状況により変更となることがある。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

脳 神 経 外 科 学

1. 目 的

外科治療の対象となる神経疾患を有する患者の診察のしかた，診断・治療の進めかた，および考察力を修得する。態度・マナーを含めた全人的な接し方を身につける。また，医学生が知っておくべき脳神経外科的疾患を臨床の場で体験し，その病態生理を知識として整理する。

2. 指導教員名

教 授：阿久津 博義 河本 俊介
准 教 授：荻野 雅宏 黒川 龍 宇塚 岳夫
講 師：池田 剛
助 教：奥貫 かなえ 森永 裕介 阿久津 善光（CC 実行委員）
角 拓真 本郷 剛

3. 実習内容及び実習方法

- ・ 毎日、朝 7 時 30 分に新棟 9 階病棟カンファレンスルームに集合。
- ・ モデル・コア・カリキュラムにのっとり指定される症例について問診と理学的，神経学的診察を行い，診断ならびに今後の検査・治療方針についてプレゼンテーションする。
- ・ 主として自分が担当した症例について，手技を見学し，手術に参加する。現場での質問に答えられるよう，手術方法や手術リスクなどを事前学習しておく。分からないことがあれば，術後に指導医からフィードバックを受けた上で自己学習する。時間的余裕があれば担当症例以外の症例の手術を見学してもよい。
- ・ 脳血管造影・脳血管内治療・ガンマナイフは，担当症例ではなくても積極的に参加・見学する。同時に被爆への配慮や放射線障害について学ぶ。
- ・ 頭部外傷・脳卒中・脳腫瘍などでの救急疾患の診察や緊急手術には積極的に関わって初期対応や手術の対応を学ぶ。
- ・ 最終日に口頭試問の形式で担当症例や緊急で経験した症例についての総括を行う。

4. 到達目標

- ・ 神経疾患の診断と手術適応，実際の治療とケアについて理解する。
 - ① 神経学的診察法（意識障害のみかた，脳ならびに脊髄の神経学的所見のとりかた）
 - ② 頭蓋内および脊髄の画像診断（CT，MRI，MRA，核医学検査，血管撮影などの基本と応用）
 - ③ 見逃してはならない救急疾患や有病率の高い疾患の臨床症状と画像診断
 - ④ 的確なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
 - ⑤ その他，学生として修得すべきレベル（国家試験出題基準）の知識

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ・ 実習はシラバスに記載されているレベルの基礎知識があることを前提に進められる（→付記1）。前もって学習しておくこと（最低1時間）。
- ・ 患者に接するときは常識ある態度・行動をとること。適切な身なり（頭髪や服装）を心がけること。
- ・ 医療従事者には常に患者やその家族の眼が向けられていることを認識し，病棟のみならず廊下や食堂などでの態度にも留意すること。
- ・ 患者情報に対する守秘義務を守ること。関係のない患者の電子カルテを開かないこと。

・ 医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1，G-2-6) 神経原性：くも膜下出血、頭部外傷、脊髄損傷，

G-2-7) 脳原発性：くも膜下出血、頭蓋内血腫 全身性：てんかん，

G-2-8) 脳血管障害：脳梗塞，G-2-9) 中枢性：脳出血、脳梗塞，

G-2-19) 神経：脳出血、脳梗塞，

G-2-21) 神経：片頭痛、脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫，

G-2-28) 畜尿障害：脊髄損傷，G-2-32) 血管：脳梗塞 変性：Parkinson 病，

G-2-33) 機能性：片頭痛 症候性：髄膜炎、脳出血、くも膜下出血，

G-2-34) 脳病変：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頭蓋内血腫

脊髄病変：脊髄損傷、椎間板ヘルニア，

G-2-35) 脊椎：椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、脊椎圧迫骨折，

G-2-37) 一次性：頭部外傷 二次性：脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫，

G-3-1)，G-3-2) ⑥，⑧，⑪，⑫，G-3-3)，G-3-4)，G-4-1)-(2) 学修目標，

G-4-1)-(7) ねらい① 学修目標①～⑤

6. 評価基準

- ・ 参加態度：職業人予備軍としての自覚が感じられるか。
- ・ 学習態度：病棟や救急現場に参画する熱意があるか。
- ・ 基本的知識：過去に学んだことや新たに獲得した知識が整理されているか。
- ・ 論理的思考力：疾患の背景にある病態生理が正しく理解されて考察されているか。
- ・ プレゼンテーション能力：医学的情報を正確かつ簡潔に伝達できるか（→付記2）。

7. 評価の実際

- ・ 教室員全員が評価表を持ち、それぞれの学生について毎日、上記項目について採点する。週末にこれを集計し、平均した点数を教務課に報告する。日頃の成果が主な評価対象である。口頭試問の結果は補足的に考慮する。

8. 私たちがこのようなCCを行う理由

- ・ どの診療科に進もうとも、患者情報を短時間で効率よく収集し、整理する能力は必要とされる。与えられた選択肢を択ぶのではなく、自ら得た情報と知識に基づいて思考し、結論を導く訓練は重要である。そのためには知識はもちろんのこと、技術とコミュニケーション能力、マナーも要求される。
- ・ CCが終わると、次は医師として患者さんの前に立つことになるため、現場に出るための最終トレーニングとして、気を引き締めて臨んでほしい。

9. 週間予定表

時間 曜日	午 前 7:00~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	オリエンテーション カンファレンス・回診 手術 見学・参加 ガンマナイフ 見学	阿久津 博義 荻野 雅宏	症例レビュー 手術 見学・参加 プレゼンテーション準備	阿久津 博義 宇塚 岳夫
火	カンファレンス・回診 脳血管造影 見学・参加	奥貫 かなえ	症例レビュー 脳血管造影 見学・参加 プレゼンテーション準備	阿久津 善光
水	カンファレンス・回診 手術 見学・参加 ガンマナイフ 見学	河本 俊介	症例レビュー 手術 見学・参加 プレゼンテーション準備	荻野 雅宏
木	カンファレンス・回診 脳血管造影・脳血管内治療 見学・参加	池田 剛	症例レビュー 脳血管造影・脳血管内治療 見学・参加 プレゼンテーション準備	森永 裕介
金	カンファレンス・回診 手術 見学・参加 脳血管内治療 見学・参加 ガンマナイフ 見学	黒川 龍	症例レビュー 手術 見学・参加 脳血管内治療 見学・参加 試問・講評	阿久津 博義

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

付記 1 : 脳神経外科 C C を始める前に整理しておくべきこと

解剖・神経学

脳と脊髄の解剖と機能：どこに何があってどのような機能を担っているか，立体的なイメージを持つとともに，画像診断上どのように見えるのかを考えられるようにしておく。神経機能解剖の領域を学んでおくことが望ましい。

疾患についての知識

概念，診断，治療，おおよその予後など。典型的な CT や MRI などの画像にも目を通し，特に解剖学的な知識との関連をつけておく。以下に代表的なものを記す。

外傷

慢性硬膜下血腫，急性硬膜外血腫，急性硬膜下血腫，脳挫傷，びまん性脳損傷，頭蓋骨骨折

血管障害

脳内出血，脳梗塞，くも膜下出血（血管攣縮，正常圧水頭症），モヤモヤ病，脳動静脈奇形

脳腫瘍

髄膜腫，神経鞘腫（聴神経鞘腫），神経膠腫（星細胞腫，乏突起神経膠腫，上衣腫，神経膠芽腫），転移性脳腫瘍，下垂体腫瘍，頭蓋咽頭腫，髄芽腫，家族性脳腫瘍（神経線維腫症 I 型 II 型，von-Hippel Lindau 病，結節性硬化症など）

脊髄疾患

変形性脊椎症（頸椎症性脊髄症，腰椎症性神経症）後縦靭帯骨化症，椎間板ヘルニア，脊髄空洞症，キアリ奇形，脊髄腫瘍（発生部位による分類と組織分類）

機能的疾患

パーキンソン病，てんかん（特に側頭葉てんかん）

付記2：プレゼンテーションのしかた

Step1. 簡潔な一文で、聞いている人に症例を把握させることから始める

「45歳男性、右前頭葉腫瘍疑いの患者さんです。」 「2ヶ月前からの原因不明の頭痛と嘔吐を訴える3歳女兒です。」 「62歳女性、脊髄腫瘍疑いの方です。」 など。この時点では、診断・鑑別診断をあげるのではなく、一言で表すにはどう言ったらいいのかを考える。症状である場合も、画像所見である場合もある。「一番の問題は何か。」を念頭におく。

Step2. 主訴と病歴

簡潔かつ、必要なことは押さえていることが大事。陰性所見は、鑑別診断や手術適応診断など診断プロセスに重要と考えられるもののみを述べる。特徴的な症状や経過をきちんと考えて病歴を尋ねているかが問われる。

Step3. 神経所見

これも中心になるのは陽性所見。関係ない陰性所見は述べない。ただし関係のある所見（鑑別診断に挙がるべき疾患の所見、病変の広がりや推定するための所見など、大事な陰性所見）は必要。そういうことを考えて所見を取っているかが問われる。神経所見を述べるときは、実際の所見を思い浮かべながら述べる。

最後に、まとめるとどういう所見なのかを述べる。「以上から、右 C4,5 領域の神経根の症状と、軽い long-tract sign があると思います。」「以上から、右の脳神経5番と8番の障害と思われれます。」など。

Step4. 画像所見

部位については「ここに…」ではなく、解剖学的な言葉を使用し、画像を指し示しながら述べる。質問があれば、必要な画像を提示して説明する。一通りの画像を把握しておくことが要求される。

Step5. 診断、鑑別診断

最も疑われる診断をまず述べて、次に鑑別診断があれば、可能性の高いものからあげる。主訴、病歴、神経所見、画像所見の整合性を検討すること。

Step6. プラン

次に何をするのか、どういう目的でどんな検査を行うのか、手術なら何のためにどんな手術かを述べる。

全体を通しての注意

1) プレゼンテーションで口にした内容には責任を持つこと。

自分が使用する言葉（病名，検査の名前，解剖学用語など）は理解しておかなければならない。「pterion とは何か？」「MS とは何の略か？」などと聞かれたら，スムーズに答えられるべきである。また，たとえば既往に高血圧と糖尿病があるのなら，それがいつごろ指摘され，今どんな薬を飲んでいて，入院時の血圧がどれくらいなのか，どれほどの食事制限が指示されていてそれが守られているのか，経口血糖降下剤をどれほど飲んで，あるいはインシュリンを何単位打って，HbA1C がどの程度にコントロールされているのか，などを把握しておくことが望ましい。

2) 棒読みにならないよう心がける。

カルテ記載や手元のノートを参照することは問題ないが，必要最小限にすること。プレゼンテーションの際には，出来るだけ聴衆へ顔を向けて発表する方が良い印象を与える。

3) 分からなくても沈黙しない。

何か尋ねられたときに，答えが分からなくても沈黙せず，何か考えて，何かしら発言するよう心がけること。会話の中で誘導されながら思い出すこともあるはず。

4) 自ら疑問をもつこと。

目の前の症状はどういう意味か，この症状はなぜ出ているのか，それに対してなぜこの処置をするのかなど，常に自ら疑問を持ち，それに答えられるように勉強して欲しい。

5) 手術見学

清潔操作は高い水準のものが要求されるので当科スタッフの指示に従うこと。感染症例の防御については，シールド付きのマスクを着用し十分に注意すること。血管造影室での検査・治療へ参加する際には，放射線の被曝に十分留意すること。

整 形 外 科 学

1. 目 的

整形外科の ACC では CC を補完します。CC は短期実習なので広く浅く整形外科疾患を網羅するようにスケジュールを組みました。ACC では一人一人の患者さん、一つの疾患に深く関わってもらいます。医療面接から始まり、身体所見をとり、画像を評価し、病態をアセスメントし、治療方法を検討します。チームの一員として手と頭を働かせることを学びます。

2. 指導教員名

教 授：種市 洋

学 内 教 授：稲見 聡

学 内 准 教 授：森平 泰

学 内 講 師：富沢 一生 上田 明希 瓜田 淳

山口 雄史 (ACC 実行委員) 中山健太郎

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各 1 時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-2-34) ~ G-2-37), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

1) 病棟実習

配属された診療チームの医師と行動をともにし、診察、検査、病棟処置 (抜糸やギプス巻き含む) などを行います。術後・術前カンファレンスで受け持ち患者さんのプレゼンテーションを行います。

2) 手術実習

受け持ち患者さんの手術に手洗いをして助手を務めます。

3) 外来実習

外来では予診をとり、医療面接・身体所見など実際の診療に参加します。

4) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 運動器疾患の診断・治療までの流れを理解すること
- 2) チームの一員として患者さんの病態・治療方針について共通理解を持つこと
- 3) チームの一員として手術を円滑に進めることができること

6. 評価基準

統一評価表に従って行います。整形外科独自の評価として次の 20 点を設定します。

- ① 外科的処置・手術に積極的に取り組んだか（10 点）
- ② 運動器障害のある患者さんに対して思いやりを示したか（10 点）

7. 週間予定表

(第1～2週) 脊椎班

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:00～8:30 オリエンテーション 8:30～12:00 病棟回診	上田明希	13:00～17:00 脊椎診察	上田明希
火	8:30～12:00 脊椎班手術	稲見 聡	13:00～17:00 脊椎班手術	稲見 聡
水	7:30～8:30 カンファレンス 8:30～12:00 回診	種市 洋	16:30～17:30 セミナー・医局会	富沢一生
木	8:30～12:00 脊椎班手術	森平 泰	13:00～17:00 脊椎班手術	森平 泰
金	8:30～12:00 手班手術	中山健太郎	13:00～17:00 手班手術	中山健太郎

(第3～4週) 関節班

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:30～12:00 関節班手術	瓜田 淳	13:00～17:00 関節班手術	瓜田 淳
火	8:30～12:00 病棟回診	山口雄史	13:00～17:00 関節診察	山口雄史
水	7:30～8:30 カンファレンス 8:30～12:00 回診	種市 洋	16:30～17:30 セミナー・医局会	富沢一生
木	9:30～12:00 外来見学	富沢一生	13:00～17:00 病棟回診	瓜田 淳
金	8:30～12:00 手班手術	中山健太郎	13:00～17:00 手班手術	中山健太郎

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

泌 尿 器 科 学

1. 目 的

泌尿器科のACCでは実際に患者様と接するなかから、医師としての在り方、実学としての医学を習得し、これまで授業にて得てきた知識を臨床の場で有機的に結合させ、将来、諸君らが直面するであろう臨床の諸問題につき自己解決能力を培えるよう、その思考方法を養うことを目的とする。同時に諸君らが患者様を受持ち医と一緒に診ることにより患者様に対する責任感を学ぶとともに、医療の実践において医師・看護師・コメディカルとのチームワークの重要性を学ぶことも目的とする。

2. 指導教員名

教 授：釜井 隆男

学内教授：安土 正裕

講 師：木島 敏樹

学内講師：別納 弘法

学内助教：武井 航平 植松 稔貴 国分 英利 (CC 実行委員)

大久保尚弥 倉科 凌

非常勤講師：細谷 吉克

3. 実習内容及び実習方法

○外来実習

- 1) 外来患者様の問診・診察について
- 2) 泌尿器科的機器の取扱い方について
- 3) 泌尿器科領域の画像検査の読影について
- 4) 膀胱鏡検査の実際について

○入院患者様についての実習 (病棟および手術場実習)

- 1) 指導医と一緒に患者様の病歴を確認する
- 2) 患者様に対する泌尿器科的処置を行う
- 3) 検査結果の総合判断と治療方針の立て方
- 4) 患者様の手術に際し手洗いし、手術に加わるとともに術後管理について

○クリニカルカンファランスへの参加

入院患者様の病態把握および治療計画の検討

○抄読会・リサーチカンファランスへの参加

最新の泌尿器科的知見の理解

○ACCに対するレポート提出

病態およびそれに対する治療への総合的理解

○課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
- ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

4. 到達目標

1) 泌尿器科疾患の診察

泌尿器科疾患が疑われる患者様に対し、問診などの診察を見学し、疾患のしぼりこみを習得する。またいかなる検査を行えば効率よく疾患が鑑別できるかを学ぶ。また基本縫合手技の他、内視鏡操作により、各臓器（腹膜内外、膀胱内外など）の位置関係を習得する。

2) 泌尿器科疾患の画像診断

CT, MRI, RP(逆行性腎盂尿管造影)などの画像検査において、泌尿器科的に正常か、異常かを判断でき、予想される疾患を列挙できること。

3) 泌尿器科的内視鏡検査

種々の泌尿器科的内視鏡の施行法とその選択について理解し、代表的疾患の典型的所見を熟知すること。

4) 泌尿器科的超音波検査

泌尿器科領域での超音波検査の意義とその画像診断を理解すること。

5) 泌尿器科患者様の救急処置

救急処置が必要とされる泌尿器科患者様の的確な診断と、その処置法を理解する。特に尿閉、無尿についての処置を理解すること。

6) 排尿障害の診断と処置

排尿障害は高齢化社会におけるQOLの大きな問題であるが、この的確な診断がなされ適切な治療法を理解すること。

7) 前立腺肥大症と前立腺癌の鑑別

早期に骨転移する前立腺癌をどのようにすれば早期発見できるかを理解し、前立腺肥大症との鑑別法を理解すること。

8) 尿路結石症

尿路結石症に対する治療法の選択、およびその結石再発の予防につき理解すること。

9) 尿路感染症

単純性と複雑性との違いを理解し、その適切な治療ができること。

10) 尿路悪性腫瘍

尿路上皮癌の症状とその診断・治療法を理解すること。

11) 精巣腫瘍

精巣腫瘍の症状・治療法を理解し、かつ抗癌剤の使い方とその副作用についても理解すること。

12) 尿路・性器系の先天異常

尿路の先天異常として出現する水腎症や膀胱尿管逆流現象の診断・治療法を理解すること。また胎生期における精巣機能の異常として発症する各種の性器系の異常（停留精巣，尿道下裂など）を理解すること。

13) 腎不全に対する処置

慢性・急性腎不全の成因とその治療法を学び、腹膜透析・シャント・腎移植について理解すること。

14) アンドロロジー

精巣機能異常やホルモン受容体異常症として発症する二次性徴の遅延や性早熟，また性分化機構とその異常を理解すること。同時に男性不妊症や勃起障害の問題も理解すること。

15) 泌尿器科的手術

泌尿器科的手術の特徴を理解するとともに、適切な手術法の意義を学ぶこと。

16) その他

泌尿器科悪性腫瘍の成因・増殖・転移についての分子生物学レベルでの理解。泌尿器科領域において受容体異常症として出現する各種疾患について遺伝子レベルの問題として理解できること。

5. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

- 1) 医療はチームワークとして行うという観点から, 早朝回診・手術について時間厳守のこと。ACC初日は朝8時00分までに泌尿器科病棟に集合すること。
- 2) 患者様と直接接するのですから, 整った服装で診察にあたること。将来の臨床医として良識ある行動をとること (G-1-1)-(1)-3)。
- 3) 回診は毎日朝8時00分から行うため (水曜日は朝8時30分), これに間に合うように病棟に来ること。術後の患者様について尿道カテーテルの抜去や抜糸を行う (G-3-1)-⑪, G-3-3)-④)。
- 4) 受持ち患者様の手術にはチームの一人として手洗いすること。手洗いは必ず主治医と一緒にいき, 無菌操作に気をつけること。前立腺の触診や尿道カテーテルの挿入を行う (G-3-1)-①②⑪)。
- 5) 週間行事にすべて参加すること。
- 6) 手術症例についての説明は, 担当者が行う。
- 7) 病欠や止むを得ない用事にて出席できない場合には必ず届け出ること。
- 8) 以上の項目を満足しないものは再度ACCを行う。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し, 最低各1時間の予習および復習を行うこと。

6. 評価基準

ACC一週間の勉学意欲とその態度を参考とするとともに, 患者様への配慮や試問に対する答えなどから総合的に判定する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:00~12:00 オリエンテーション, 病棟実習 手術実習	国 分 釜 井	13:00~17:00 手術実習, 術前症例検討	木 島
火	8:00~12:00 病棟実習・手術実習	安 士	13:00~17:00 手術実習	木 島
水	8:30~12:00 病棟実習・手術実習	安 植 土 松	13:00~17:00 手術実習	安 士
木	8:00~12:00 病棟実習・手術実習	安 士	13:00~17:00 手術実習	釜 井
金	8:00~12:00 術前症例検討 手術実習	釜 井 木 島	13:00~17:00 手術実習	国 分 釜 井

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

眼 科 学

1. 目 的

眼科学は「視覚」に関する諸問題を探求する学科である。情報の約80%は視覚から得られるといわれている。臨床実習では、これまで学んできた眼科学の知識を生きたものにするために、指導医とともに眼科的診察法・検査法の実践、診断・治療方針の検討、病状説明や治療に関わることを目的とする。また信頼される医師としての資質を身につけるため、視覚障害者が直面する日常的・社会的問題を想起し、医療者や介助者・社会・個人がどうあるべきか考察する力を養うことを目的とする。

2. 指導教員名

教 授：妹尾 正

准 教 授：松島 博之 永田万由美

非 常 勤：千葉 桂三

講 師：鈴木 重成

学内助教：渡邊 智子 石井洋次郎 横塚 奈央 古藪幸貴子

岡安 彬彦 山崎 駿 千葉 矩史 椋木かれら

高橋 鉄平 森 春樹 城山 朋子 小野 優

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) ACC は眼科医局のスタッフとして取り扱う。医療人の自覚を持って真摯な態度で実習に臨むこと。
- 2) CC で実習した内容をよく復習してから実習に臨むこと（最低1時間）。
- 3) 多くの症例を経験できるよう積極的に参加すること。
- 4) 経験した症例を基に自ら学習し、疑問点は積極的に質問すること。
- 5) 規律ある行動をとること。

眼科の教育課程内の位置づけや水準：

G-1-1)すべて, G-2-21), 27), 33), G-3-3), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

- ・ 口答試問だけでなく、実習への参加姿勢、患者様への接し方も重視し、それらを含め卒業認定、学位授与とする。
 - ・ 課題に対するフィードバックは、クルズス、口答試問で行う。
- 1) 診療機器実習（機器の原理を理解し、操作する）
 - 2) 外来実習（問診・診察・病状説明など総合的に経験する）
 - 3) 検査実技（屈折検査、視力検査、眼圧検査等を経験する）
 - 4) 角膜外来実習（前眼部疾患の診療を経験する）
 - 5) 黄斑部外来実習（後眼部疾患の診療を経験する）
 - 6) 斜視弱視外来実習（斜視や弱視の診療を経験する）
 - 7) ぶどう膜外来実習（ぶどう膜炎、全身疾患と関連した眼疾患の診療を経験する）
 - 8) 病棟実習（看護師との情報共有や指示・指示受けのシステムを経験する）
 - 9) 手術実習（眼科手術を経験する）
 - 10) クルズス・口頭試問（クルズスで知識の再確認・定着を図り、口頭試問で知識の評価をする）

5. 到達目標

- 1) 診療機器実習
主要な機器の原理・構造・操作方法を理解できる。何の目的にどんな機器を使用するのかを説明できる。
- 2) 外来実習
眼疾患に関連する主訴を理解し、診断に必要な検査を想起できる。得られた結果から鑑別診断を列挙し、基本的な治療方針を説明できる。
- 3) 検査実技
屈折・調節の理論を理解できる。視力検査・眼圧検査の表記法、正常値を説明できる。
- 4) ～7) 角膜外来、黄斑部外来、斜視・弱視外来、ぶどう膜外来実習
角膜疾患、網膜疾患、斜視・弱視、ぶどう膜領域の代表的疾患を想起できる。各疾患の病態を理解し、検査・診断・治療方針を説明できる。
- 8) 病棟実習
チーム医療を理解し、医師と病棟スタッフの連携の重要性を説明できる。

9) 手術実習

眼科手術治療の適応疾患と、主要な手術手技について説明できる。

6. 評価基準

本学での医学教育目標に関して下記のポリシーが定められている。

- ・ 本学所定の科目及び単位を取得し、医学および関連領域の知識、診療技能や態度について、本学が定める目標に到達していると判断されること。
- ・ 患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師として活躍できる資質と能力があると判断されること。

当科での実習においても上記のポリシーを尊重し、知識・技能・態度を評価する。態度に関する評価・フィードバックは実習全体を通して随時おこなう。知識・技能に関する評価・フィードバックは主にクルズス・検査実習・口頭試問の際におこなう。

- 1) 実習への積極性（態度）と患者への接遇（態度）
 - 2) クルズス・検査実習・口頭試問（知識・技能・態度）
 - 3) 出席状況（態度・日数）：過半数の出席を必須とする。忌引、海外研修などで満たさない場合は指導医に報告し、検討することとする。
 - 4) スタッフとの協調性（態度）
- ・ 成績評価の方法・基準：1)～4)を総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者		
月	9:00 ～ 12:00	オリエンテーション 外来実習・クルズス 病棟・手術室	渡邊 智子 妹尾 正	13:00 ～ 14:00 ～	外来 病棟・手術室 専門外来	妹尾 正
火	9:00 ～ 12:00	外来実習・クルズス 病棟・手術室	鈴木 重成	13:00 ～ 17:00	外来 病棟・手術室	鈴木 重成 永田万由美
水	8:00 ～ 12:00	教授回診・外来実習・ 病棟・手術室	妹尾 正	13:00 ～ 14:00 15:00 16:00 ～ 17:00	外来・病棟・手術室 クルズス クルズス ～ ウェットラボ	松島 博之 鈴木 重成
木	9:00 ～ 10:30 ～	外来実習・ 病棟・手術室 口答試問	千葉 桂三 松島 博之 鈴木 重成	13:00 ～ 17:00	外来 病棟・手術室 クルズス・専門外来	千葉 桂三 松島 博之
金	9:00 ～ 12:00	外来実習・ 病棟・手術室	妹尾 正	13:00 ～	外来 病棟・手術室	妹尾 正

注①週間予定の細部は実習初日のオリエンテーションで説明する。

注②週によりクルズスや実習内容等の変更があるので、担当者と連絡を取り確認すること。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

耳鼻咽喉・頭頸部外科学

1. 目的

耳鼻咽喉科の実際の臨床を体験し、医師としての基本姿勢を学び、耳鼻咽喉・頭頸部外科についての理解を深める。

教科書上の知識を自分の眼で確かめ身につける。

2. 指導教員名

教授：春名 眞一

学内教授：深美 悟

学内准教授：中島 逸男

講師：金谷 洋明

学内講師：今野 渉 (CC 実行委員) 中山 次久

学内助教：柏木 隆志 常見 泰弘 阿久津 誠 永島 祐美

今井 貫太 斎藤 翔太 滝瀬由吏江 頌彦 由丹

小泉 舜 石塚 良太

非常勤講師：島田 均 岡田眞由美 岩瀬 朗子 藤沢 勉

添田 一弘 後藤 一貴

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 初日の朝、新棟6階の処置室に7時45分までに集合すること。
- 2) 実習終了時、必ずその日のうちに担当医にサインをもらう。
- 3) 出席2/3に達しない者、連絡なしに遅刻、早退、欠席した者、実習にふさわしくない服装をした者は再実習とすることがある。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)～G-1-1)-(3), G-2-9)末梢性, G-2-13)感染症：副鼻腔炎,
G-2-19), G-2-27), G-2-33)機能性：緊張型頭痛、片頭痛, G-3-3), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) ACC 1名に担当医1名のマンツーマン方式で実習を行う。
- 2) 額帯鏡, 内視鏡, 顕微鏡を用いた診察を体験する。

- 3) 受持症例についてアナムネをとり、診察し、検査を見学、検討し、診断、治療に至る道筋を学ぶ。
- 4) 鼻アレルギー、メマイなどの特殊外来や内視鏡検査を見学する。
- 5) 手洗いをして手術見学に入る。
- 6) 機会があれば、気管切開など緊急の処置・手術を積極的に見学する。
- 7) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ルーブリック・miniCEX等の方法によりフィードバックを行う。
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 耳鼻咽喉科全般を理解する。
- 2) 1疾患でよいから、人より良く知っている部分をつくる。

6. 評価基準

- 1) 実習態度
- 2) 受持症例に対する理解度

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	7:45 オリエンテーション レポート指示 受持患者紹介〔6D〕 12:00 終了	今野渉 中島逸男	14:00 診察実習〔外来〕 16:00 各検査実習 17:00 終了	今野渉 外来検査技師
火	7:45 病棟処置 8:30 手術見学 9:00 外来見学 または病棟実習 12:00 終了	中島逸男	14:00 内視鏡〔内視鏡室〕 または小児難聴外来〔リハビリ〕 17:00 終了	深美悟 阿久津誠
水	7:30 症例検討会 9:00 手術見学 または病棟実習 12:00 終了	添田一弘 深美悟 今野渉	13:30 教授回診〔6D〕 カルテ回診 医局会 19:30 終了	春名眞一
木	7:45 病棟処置 8:30 手術見学 9:00 外来見学 または病棟実習 12:00 終了	今野渉 金谷洋明	14:30 メマイ外来〔外来〕 14:30 嚙下外来〔外来〕 (手術見学の場合あり) 17:00 終了	添田一弘 岡田眞由美 藤沢勉 後藤一貴
金	7:45 病棟処置 8:30 手術見学 12:00 終了	深美悟 今野渉 島田均	16:30 プレゼンテーション 17:30 終了	春名眞一 深美悟 中島逸男

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

産科婦人科学

1. 目 的

第4学年までの系統講義で学習した産科婦人科学の知識を整理し、チーム医療の一員として症例を担当し臨床経験を積む。

2. 指導教員名

主任教授：三橋 暁 成瀬 勝彦

特任教授：渡辺 博 望月 善子 長谷川清志

教授：尾林 聡

講師：多田 和美 河原井麗正

助教：久野 達也 添田わかな 加藤 祥子

3. 実習内容及び実習方法

1) 産科を2週間、婦人科を2週間の計4週間の実習を行う。実習予定表は別記の通りである。

2) ACCの第1日目は午前8時00分までにセンター棟4階のバースセンター前に集合。午前9時までのミーティングに参加し、その後オリエンテーションと簡単なガイダンスを行う。

3) 午前中は新患外来、手術見学、病棟実習などその週の予定に従う。午後はクルズスまたは病棟実習、手術見学とする。分娩、緊急手術のある場合は積極的に参加して見学する。

4) 外来

新患外来：産科診察法、婦人科診察法について学習する。

専門外来：産科婦人科特有の特殊検査についてその特性やそのデータの読み方について学習する。

5) 病棟

学生の見学立会いが許可された分娩の見学を行う（正常分娩、帝王切開分娩）。なお夜間の分娩については当直医の指導のもとに見学することが出来る。

6) 朝、午前8:00からのミーティングおよび午後5:00からのミーティングには全員参加すること。

7) 受け持ち患者に関する症例レポートを指導医に提出し、指導医より添削を受ける。そのレポートに基づき実行委員が口頭試問を行い評価する。

- 8) 口頭試問，テストのみならず実習中の態度等も含めた総合評価が卒業認定・学位授与の基準となる。

4. 到達目標

産科婦人科学を(1)産婦人科臨床の基礎，(2)生殖内分泌医学，(3)周産期医学，(4)婦人科腫瘍学，(5)女性医学，(6)感染症の6領域に大別し，少なくともそれぞれのゴールドスタンダードについては十分実地に体験し理解を深めることを目標とする。

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 服装や言動に十分注意し，患者やその家族の信頼を得るよう心掛ける。

(G-1-1)

- 2) 集合時間など時間厳守を心掛ける。

- 3) CCで実習した内容をよく復習してからACCに臨むこと（最低1時間）。

(G-2-20)，(G-2-30)，(G-4-1)-(4)

6. 評価基準

出席状況，症例プレゼンテーションについて評価対象とする。

7. 週間予定表

[第1週目]

時間 曜日	午 前 9:00~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	ミーティング (8:00) 医局会(8:00) オリエンテーション 産科学クルズス* 病棟実習 新患外来	三 橋 成 瀬 長谷川 河原井	病棟実習 産科症例検討会(13:30) 婦人科症例検討会(16:30) 分娩シミュレーション* ミーティング (17:00)	三 橋 成 瀬 多 田 河原井
火	ミーティング (8:00) 婦人科手術見学 病棟実習 新患外来	三 橋 河原井 久 野	婦人科手術見学 病棟実習 外来見学(ハイリスク妊婦外来) ミーティング (17:00)	三 橋 河原井 久 野 成瀬・多田
水	ミーティング (8:00) 不妊治療見学 病棟実習 新患外来	三 橋	生殖内分泌学クルズス* 女性医学クルズス* 婦人科腫瘍学クルズス* ミーティング (17:00)	尾 林 三 橋
木	ミーティング (8:00) 婦人科手術見学 病棟実習 新患外来	三 橋 成 瀬 長谷川 久 野 多 田 河原井	婦人科手術見学 病棟実習 外来見学(ハイリスク妊婦外来) ミーティング (17:00)	三 橋 成 瀬 長谷川 多田・久野 河原井
金	ミーティング (8:00) 婦人科手術見学 病棟実習 新患外来	成 瀬 長谷川 尾 林 河原井	婦人科手術見学 病棟実習 ミーティング (17:00) プレゼンテーション	成 瀬 長谷川・ 河原井

オリエンテーションは第1週目で行う。

[第2週目]

時間 曜日	午 前 9:00~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	ミーティング (8:00) 医局会 (8:00) 産科学クルズス* 病棟実習 新患外来	三 橋 成 瀬 長谷川 河原井	病棟実習 産科症例検討会 (13:30) 婦人科症例検討会(16:30) 分娩シミュレーション* ミーティング (17:00)	三 橋 成 瀬 多 田 河原井
火	ミーティング (8:00) 婦人科手術見学 病棟実習 新患外来	三 橋 成 瀬 河原井	婦人科手術見学 病棟実習 外来見学(ハイリスク妊婦外来) ミーティング (17:00)	三 橋 成 瀬 多 田 河原井
水	ミーティング (8:00) 不妊治療見学 病棟実習 新患外来	三 橋	生殖内分泌学クルズス* 女性医学クルズス* 婦人科腫瘍学クルズス* ミーティング (17:00)	尾 林 三 橋
木	ミーティング (8:00) 婦人科手術見学 病棟実習 新患外来	三 橋 成 瀬 長谷川 久 野 多 田 河原井	婦人科手術見学 病棟実習 外来見学(ハイリスク妊婦外来) ミーティング (17:00)	三 橋 成 瀬 長谷川 多田・久野 河原井
金	ミーティング (8:00) 婦人科手術見学 病棟実習	成 瀬 長谷川 河原井	婦人科手術見学 プレゼンテーション ミーティング (17:00)	成 瀬 長谷川 河原井

*: クルズスは4週間のうちどちらかで行う。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

形 成 外 科 学

1. 目 的

形成外科は身体各部の先天性あるいは後天性の変形に対して、主に手術を行なうことによって形態と機能の再建をはかる外科学の一分野である。したがって取り扱う部位や疾患も多岐にわたっており、まず形成外科がどのような疾患を取り扱っているのかについて理解を深めることが実習の最大の目的となる。この実習を通じて得られる各種の疾患に対する理解や組織移植をはじめとする手術手技への理解は、将来どの診療科にすすむ学生にとっても必ず役立つものであると考える。

2. 指導教員名

教 授：朝戸 裕貴

学 内 教 授：飯田 拓也

学 内 講 師：梅川 浩平 (ACC 実行委員) 倉林 孝之

学 内 助 教：長谷川弘毅

非常勤講師：加地 展之

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

清潔な身なりで白衣、ネームプレートを着用すること。男子学生はネクタイ着用のこと（夏期クールビズの期間を除く）。サンダルは不可。医療従事者側の服装や態度に対して非常に厳しい目を向ける患者様もいることを十分に認識すること。患者様の病状や治療についての質問は、外来では当該患者様が退席された後、病棟では当該患者様の処置後に受け付けるので、患者様を前にしてディスカッションを行なうことのないよう注意すること。また、スタッフルームや外来、病棟は多くの人出入りがあるため、手荷物や貴重品は持ち込まないこと。遅刻・欠席については必ず実行委員に連絡をとること（形成外科医局：2753）。事前学習としてCCでの実習内容を復習の上実習に臨むこと（30分）。事後学習としては、その週に経験した疾患や病態について参考書などで確認すること（30分）。

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-2-37), G-3-3), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

各学生はそれぞれ担当の指導医にしたがって病棟回診・処置，外来処置・見学，手術見学を行なう。手術室においては指導医のもとで一部の手術に参加し，第2助手あるいは第3助手をつとめる場合もある。病棟処置においては処置の基本を学びながら処置当番医の助手をつとめる。外来においては若手医師とともに初診カルテの作成や創処置の助手を行い，教授や上級医師の外来診察を見学する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 形成外科的疾患に対する理解を深める。
- 2) QOLの向上を目指す外科としての特殊性を理解する。
- 3) 形成外科手術の見学を通じて，局所麻酔法や基本的手術器具の取り扱いを学ぶ。
- 4) 手術後の創処置を通じて，創傷治癒の基本について理解する。

6. 評価基準

出席率，実習態度，口頭試問，レポートをもとに総合判定する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:00~12:00 臨床医学棟 9F 形成外科スタッ フルーム集合 回診 病棟処置または外来見学	朝 戸 飯 田 梅 川 倉 林	13:00~17:00 手術見学 カンファランス出席	飯 田 梅 川 倉 林 加地*
火	8:00~12:00 臨床医学棟 9F 形成外科スタッ フルーム集合 回診 手術見学	朝 戸 飯 田 梅 川 倉 林 加地* 長谷川	13:00~17:00 手術見学	朝 戸 飯 田 梅 川 倉 林 加地* 長谷川
水	8:00~12:00 臨床医学棟 9F 形成外科スタッ フルーム集合 回診 病棟処置または外来見学	飯 田 梅 川 倉 林 長谷川	13:00~17:00 手術見学または病棟処置 結紮・縫合法実習	飯 田 梅 川 倉 林 長谷川
木	8:00~12:00 臨床医学棟 9F 形成外科スタッ フルーム集合 回診 病棟処置または外来見学	朝 戸 倉 林 長谷川	13:00~17:00 外来見学 画像診断実習 少人数講義	倉 林 長谷川
金	8:00~12:00 臨床医学棟 9F 形成外科スタッ フルーム集合 回診 病棟処置または外来見学	飯 田 梅 川 長谷川	13:00~17:00 手術見学 口頭諮問レポート	飯 田 梅 川 長谷川

*月1回担当（月または火のいずれか）

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

麻 酔 科 学

1. 目的

- ・ 周術期管理，ペインクリニック，緩和ケアを中心に実際の麻酔科が関与する医療を体験することで，医師として必要な知識や技術，基本的態度の習得を目指す。
- ・ そのためには，前年度までに講義で得た知識を臨床の場で再確認し，これを整理することが重要である。
- ・ また，講義では習得し得なかった臨床現場での基本的医行為を習得することも臨床学習の大きな目的である。
- ・ 医師国家試験対策も視野に入れ，基礎医学の臨床医学の関連などを指導するので，積極的な態度で学習に臨んでほしい。

2. 指導教員名

教 授：濱口 眞輔 山口 重樹

准 教 授：木村 嘉之 高薄 敏史 高橋 良享

講 師：大谷 太郎 寺島 哲二

篠崎 未緒（ペインクリニック担当）白川 賢宗（緩和ケア担当）

石川 和由（緩和ケア担当（とちぎメディカルセンターとちのき））

助 教：國分 伸一 沼田 祐貴 佐藤 雄也

小松崎 誠（CC 実行委員） 山下 雄介

知野 諭 山中恵里子 山田 哲平

非常勤講師：渡辺 邦彦（在宅緩和ケア担当）

3. 実習内容及び 実習方法

- ・ 周術期（麻酔前評価－麻酔管理－術後診察）管理をレジデント、上級医とともに行う。
- ・ 「習得すべき技能」は CC に準じるが、とくに CC で行えなかった実技の経験と修得を目指す。
- ・ 実習初日の集合場所 8：00AM：手術室内麻酔医員室（麻酔前カンファレンスに参加）
（CC とは異なります。注意してください。）

①手術室麻酔実習：月曜日-金曜日

②ペインクリニック外来実習：毎週月曜-金曜から選択

③緩和ケア実習：適宜

④課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

4. 到達目標

1) 麻酔前評価

麻酔前評価で注意すべき点（合併症など）を説明できる。

アレンテストの意義と方法を説明できる。

2) 麻酔モニター

パルスオキシメータの測定原理，測定意義と異常値の評価を説明できる。

カプノメータの測定原理，測定意義と異常値の評価を説明できる。

中心静脈圧の測定原理，測定意義と異常値の評価を説明できる。

スワングアンツカテーテルで測定できる血行動態・正常値を説明できる。

3) 全身麻酔

Triple Airway Maneuver が説明できる。

気管挿管に必要な麻酔器具を説明できる。

気管挿管成否の確認方法と気管挿管の合併症を説明できる。

麻酔器の構造とソーダライムについて説明できる。

吸入麻酔薬の種類，特性（薬理作用），長所と欠点を説明できる。

静脈麻酔薬の種類（代表薬剤），特性（薬理作用）を説明できる。

筋弛緩薬の種類（代表薬剤），特性（薬理作用）を説明できる。

四連反応比（TOF）の意義を説明できる。

オピオイド鎮痛薬の種類（代表薬剤），特性（薬理作用）を説明できる。

4) 小児麻酔・高齢者麻酔・産科麻酔

小児麻酔の特徴と注意点を説明できる。

高齢者麻酔の特徴と注意点を説明できる。

産科麻酔の特徴と注意点を説明できる。

5) 局所麻酔薬

局所麻酔薬の分類と各局所麻酔薬の特長，局所麻酔薬の極量を説明できる。

局所麻酔薬中毒の原因，症状，治療を説明できる。

6) 脊髄麻酔・硬膜外麻酔

脊髄麻酔の利点・合併症を説明できる。

脊髄くも膜下麻酔後頭痛の原因，症状，治療を説明できる。

硬膜外麻酔の利点・合併症を説明できる。

7) 麻酔の合併症

循環器系合併症（高血圧・低血圧・頻脈・徐脈など）の種類と治療を説明できる。

呼吸器系合併症の種類と治療を説明できる。

悪性高熱症の原因，症状，治療を説明できる。

8) 循環・呼吸生理

ヘモグロビン酸素解離曲線の意義と SaO₂ が 90%の時の PaO₂ の値を説明できる。

代謝性ならびに呼吸性アシドーシスとアルカローシスの原因を説明できる。

9) 中心静脈路確保

内頸静脈確保の際に超音波下に確認される解剖学的構造を説明できる。

超音波による動静脈の所見の違いが説明できる。

内頸静脈，鎖骨下静脈，大腿静脈での中心静脈路確保の利点と欠点が説明できる。

10) ペインクリニック

痛みの伝導路を説明できる。

星状神経節ブロックの手技，適応疾患，合併症，ホルネルの三徴を説明できる。

硬膜外ブロックの手技，適応疾患，合併症を説明できる。

オピオイド鎮痛薬の作用機序，合併症，合併症の対処を説明できる。

11) 緩和ケア

全人的苦痛の緩和を説明できる。

身体的苦痛の緩和を説明できる。

疼痛のアセスメントが出来る。

緩和ケアにおけるチーム医療が説明できる。

オピオイド（医療用麻薬）の作用機序，合併症，合併症の対処を説明できる。

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

事前学習：4年次の講義とCCで得た知識・手技を再確認しておくこと（最低1時間）

事後学習：当日に実習した内容について復習すること（最低1時間）

医学教育モデル・コア・カリキュラム：

G-2-5), G-3-1) ⑦, ⑧, ⑨, ⑩, ⑫, ⑭, G-4-2), G-4-4)

6. 評価基準

試問, 出席率, 実習態度などから総合判定する.

試問後, 担当教員から評価（フィードバック）を行う.

○週間予定

時間 曜日	午前	担当者	午後	担当者
月	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 ペインクリニック外来（木村） 	山口重樹 (7130) 木村嘉之 (7216) 寺島哲二 (7568) 國分伸一 (7483)	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 クルズス：麻酔 クルズス：緩和ケア（白川） 	濱口眞輔 (7085) 白川賢宗 (7486) 國分伸一 (7483) 小松崎誠 (7631)
火	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 ペインクリニック外来（篠崎） 	山口重樹 (7130) 沼田祐貴 (7570) 知野 諭 (7790) 篠崎未緒 (7481)	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 クルズス：麻酔 	木村嘉之 (7216) 高薄敏史 (7484) 沼田祐貴 (7570) 山下雄介 (7619)
水	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 ペインクリニック外来（濱口） 	山口重樹 (7130) 木村嘉之 (7216) 濱口眞輔 (7085) 篠崎未緒 (7481)	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 クルズス：麻酔 	大谷太郎 (7567) 寺島哲二 (7568) 白川賢宗 (7486) 渡辺邦彦 (非)
木	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 ペインクリニック外来（篠崎） 	高薄敏史 (7484) 高橋良亨 (7208) 大谷太郎 (7567) 篠崎未緒 (7481)	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 クルズス：麻酔 	石川和由 (とちぎメデ ィカルセンタ ーとちのき緩 和ケア病棟)
金	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 ペインクリニック外来（山口） 	山口重樹 (7130) 山田哲平 (7847) 山中恵里子 (7839) 篠崎未緒 (7481)	<ul style="list-style-type: none"> 手術室麻酔実習 クルズス：麻酔 試問（麻酔・緩和ケア） 	濱口眞輔 (7085) 山口重樹 (7130) 木村嘉之 (7216)

7. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

救 急 医 学

1. 目 的

当講座の ACC では、CC 以上に積極的な診療チームへの参加を求めます。さらに、チーム内で与えられた役割を的確にこなす能力の獲得を実習の最終目的とします。そのためには、当直業務が不可欠であり、当直を行える学生の参加を希望します。当院では、初期臨床研修医に3か月間の救命救急センター勤務が義務づけられており、常に多数の研修医が診療に参加しています。そのため、日中では見学のみとなってしまいがちです。救急患者が多く、勤務医の少ない時間外に実習することで、本格的に診療参加することが可能となります。なお、当直終了後は帰宅可とし、準夜帯のみの実習も可能です。体力、体調に合わせて実習予定を組みます。

2. 指導教員名

教 授：和氣 晃司 菊地 研
准 教 授：星山 栄成^{※2}
講 師：菊池 仁 内田 雅俊
助 教：越路 暢生^{※2} 高野 雅嗣^{※2} 町田 匡成 林 健太郎^{※1}
土屋 翠子 寶住 肇 石田 和俊^{※2} 米澤 泰^{※2}
前川 奈々 飯田 茉李 佐久間大智 廣瀬 晃平
本田 新

^{※1} CC 実行委員

^{※2} 救命救急センター出向

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

- 1) 毎朝8時30分までにICUカンファレンス室に集合して下さい。8時30分からの朝カンファレンスに参加してもらいます。ただし、救急患者来院時には診療を優先してもらうことがあります。指導医の指示に従ってください。
- 2) 質問は積極的にして下さい。しかし、臨床の現場では、患者さんは医療関係者の言動に大きく影響されます。鎮静薬使用中の患者さんでも半覚醒の場合もありますので、ベッドサイドでは状況に応じた説明しかできません。

覚醒している患者さんの前でも同様です。臨床的状況や専門用語をきちんと理解する努力を期待します。

3) 救急患者の来院時はその診療に参加してください。予定表にはクルズスも記載されていますが、救急車来院時は実際の診療への参加を優先します。

4) 当直後は朝のカンファレンス終了後に帰宅可能です。

5) 当直等の実習予定は指導医に知らせてください。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(3)10, G-2-5), G-2-37), G-4-1)-(7)

4. 実習内容及び実習方法

- ・救急車で来院した患者の診断と治療を経験し、救急患者処置の理論と実際を習得する。
- ・救命救急病床の患者を診察し、各種ショック、急性心筋梗塞、心不全、呼吸不全、多発外傷、中毒、熱傷などの重篤な救急疾患の理解を深める。
- ・集中治療室において、侵襲の大きな手術後の患者の周術期管理を学ぶ。
- ・パルスオキシメーター、カプノメーター、肺動脈カテーテルなどのモニタリング機器を実際に操作し理解を深める。
- ・人工呼吸器、血液浄化装置、大動脈内バルーンポンピングなどの治療用機器の役割について学ぶ。
- ・救急隊員との事後検証会（症例検討会）に参加し、病院前救護の現状について理解する。
- ・夜間の救命救急センターの診療について経験する。
- ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ループリック評価によりフィードバックを行う。
 - ・その他、指導医から適宜フィードバックを行う。

5. 到達目標

- ・全実習を通し、将来の臨床医に必要な医学的知識や態度、思いやり、対応等を体得する。
- ・基本的な救急処置の適応と手技を理解する。
- ・救急集中治療で使用する薬物の種類、適応、禁忌、特徴を理解する。

- ・気道確保や人工呼吸の手技と有効な人工呼吸が判断できる。
- ・静脈ならびに動脈のカニューレション等の手技を理解する。
- ・実体シミュレータを使用して危機管理に対応できる。
- ・肺動脈カテーテルなどの情報から輸液療法や循環作動薬について理解する。
- ・各種モニターや治療用機器の一般的な機能を理解する。
- ・様々な救急病態に対し、CT、MRI、単純 X 線所見を解釈し、治療方法を計画する。
- ・一般的な血液検査の測定値変動について理解する。
- ・患者家族への病状説明に参加する。
- ・地域の救急医療体制の現状を理解する。

6. 評価基準

- 1) 出席日数
- 2) 実習態度など
- 3) ルーブリック評価

7. 週間予定表

以下に CC の予定表を記しますが、参加は自由です。CC の際に受講できなかったもの、復習したいもの等、適宜参加してください。ただし、できる限り診療に参加することを優先してください。

[第1週目] × 4

時間 曜日	午 前 (8 : 30~12 : 00)	担当者	午 後 (12 : 00~16:00)	担当者
月	オリエンテーション 診療実習	和氣晃司 星山栄成	ドクターヘリについて 診療実習	和氣晃司 菊池 仁
火	診療実習	菊地 研 内田雅俊 佐久間大智	診療実習	高野雅嗣 土屋翠子
水	診療実習	寶住 肇 町田匡成	Medical Control・ドクヘリ 事後検証 診療実習	寶住 肇 町田匡成 前川奈々 町田匡成
木	診療実習・ ルーブリック評価	寶住 肇 土屋翠子 林健太郎	診療実習・ ルーブリック評価	寶住 肇 土屋翠子 林健太郎
金	教育回診 診療実習	新任教授 内田夏海	重症患者の診療・管理 総括	和氣晃司 和氣晃司

すべての曜日において、クルズス以外は病棟・初期治療室の診療実習に携わってもらいます。

自分を担当してくれる研修医と連携を密にとること。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

口 腔 外 科 学

1. 目 的

ACC では患者さんと接触して、医師として患者さんとの意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを習得する。口腔外科学は歯を含む口腔諸器官（上下顎骨、舌、唾液腺など）とそれに連なる部位（中顔面、下顔面、頸部）に関する外科学であり、歯科医師のみならず、医師にとっても重要な領域である。ACC では系統講義と CC で修得した口腔外科領域の疾患の診断、治療を実践し、相互実習で顔面、頸部、口腔の診査の実際を復習する。さらに、実際の患者で上下顎の印象採得を行い、模型を作製することにより、歯、歯周組織の観察を行うとともに、口腔外科疾患を治療するうえでの咬合の重要性を理解する。なお、当科は特殊診療科であるため、希望者があれば受け入れる。

2. 指導教員名

主任教授：川又 均

学内准教授：和久井崇大（CC 実行委員）

学内講師：泉 さや香、福本 正知

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

時間厳守、医療に携わる者としての適切な身なり、積極的に実習に臨む態度、患者さんの個人情報の守秘。

なお、欠席、遅刻をする場合は担当教員に連絡をする

（医局 0282-87-2169 病棟 0282-87-2243 外来 0282-87-2212）

準備学習（最低 1 時間）：実習前までに口腔癌取扱い規約（日本口腔腫瘍学会編）、頭頸部癌取扱い規約（日本頭頸部癌学会編）等について予習しておくこと。CC で実習した内容をよく復習してから ACC に臨むこと。

医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応：G-1-1) , G-3-1) -②④⑥

G-3-3) , G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

(1) 口腔外科入院患者・処置

口腔腫瘍、顎口腔領域の先天奇形、顎変形症、顎骨骨折、顎口腔系の重篤な炎症・感染症、顎口腔領域の嚢胞性疾患を有する患者の病棟での診断、治療について、実際に配当された患者を処置することにより理解する。必要に応じ種々の画像診断について理解する。

(2) 口腔外科手術見学

手術室にて口腔外科手術の介助を行い、口腔領域の解剖、手術目的、および手術術式を理解する。

(3) 口腔外科外来初診、再診見学

初診患者の医療面接を行うことで口腔外科外来を初診する患者の来院経路（医科、歯科病院からの紹介）を理解し、口腔外科疾患の診断・治療手順を習得する。

(4) 口腔外科外来小手術見学

埋伏歯、嚢胞性疾患、インプラント埋入などの小手術の介助を行いその目的、術式を理解する。

(5) 歯科矯正治療見学

唇顎口蓋裂患者の一貫治療としての、歯科矯正治療を見学し、顎発育と咬合の誘導を理解する。顎変形症の症例の手術前、手術後の矯正治療の見学も行う。

(6) 顔面、口腔、頸部診察実習

実際に患者を診察し、顔面、口腔、頸部の診察の進め方について理解する。特に、口腔内所見のとり方、頸部リンパ節、唾液腺の触診について理解する。

(7) 顎骨骨折整復固定実習

模型を用いて種々の顎内固定あるいは顎間固定の手法を理解する。

(8) 印象採得、歯列咬合模型作製実習

実際の患者に対して上下顎歯列の印象採得を行い石膏による歯列模型を作製する。口腔外科領域の疾患に対する歯あるいは咬合の重要性を理解する。

(9) 画像診断実習

歯科口腔外科で特に必要なX線、CT、MRI、PETなどの画像検査の目的と診断について理解する。

(10) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- (1) 口腔腫瘍の診断と治療の概要を理解する。
- (2) 口腔領域の先天奇形の一貫治療について理解する。
- (3) 上下顎骨、頬骨骨折の診断と治療の概要を理解する。
- (4) 口腔領域の炎症、嚢胞の診断治療の概要を理解する。
- (5) 唾液腺疾患、顎関節疾患の診断治療の概要を理解する。
- (6) 口腔疾患治療における咬合の重要性を理解する。
- (7) 歯科と医科の接点、関わり方について理解する。

6. 評価基準

- (1) 実習に出席することは必須である。
- (2) 実習に臨む態度を総合的に評価する。
- (3) 担当教員が実習中に随時口頭試問を行い理解度を評価する。
- (4) 実習終了後、ACC 担当責任者が口頭試問を行い理解度を評価する。

7. 週間予定表

1 週目

時間 曜日	午前 (9:00~12:00)	担当者	午後 (14:00~17:00)	担当者
月	入院患者配当 処置見学	和久井崇大	顔面、口腔、頸部診察実習 (14:00~15:00) 口腔内縫合実習 (15:00~16:00)	長谷川智則
火	手術介助および病棟処置	上村亮太	印象採得、口腔内診査実習 (14:00~16:00) 外来処置見学、介助	小宮山雄介
水	手術介助および病棟処置	泉さや香	手術介助および病棟処置 症例カンファレンス (17:00~20:00)	泉さや香
木	外来処置見学	福本正知	外来処置見学 口腔ケアクルズ (16:00~17:00)	福本正知
金	手術介助および病棟処置 クルズ (11:00~12:00)	和久井崇大	外来見学、咬合診査 (14:00~15:00) 顎骨骨折整復固定実習 (15:00~16:00)	川又 均 八木沢就真

2 週目～4 週目

時間 曜日	午前 (9:00～12:00)	担当者	午後 (13:00～17:00)	担当者
月	病棟処置	泉さや香	外来処置	福本正知
火	手術介助および病棟処置	小宮山雄介	外来手術介助	上村亮太
水	手術介助および病棟処置		手術介助および病棟処置 症例カンファレンス (17:00～20:00)	長谷川智則 川又 均
木	病棟処置		病棟処置	八木沢就真
金	手術介助 病棟処置	和久井崇大	カンファレンス	和久井崇大

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

リハビリテーション科学

1. 目的

病院および地域における日常診療の場で、リハビリテーション医学に関する医療者としての活動を体験することにより、基本的な医師としての姿勢と技術を修得する。また、これまでに講義で学んできたことを臨床の場で肉づけし、実際に諸問題に取り組み解決する能力に結びつくように、自ら考え実際に役立つ知識・技能にすることを目的とする。

事前学習：講義各種資料を再確認しておく。所要時間の目安・（45分）

事後学習：実習担当させていただいた症例を再整理し、学習した重点を確認し、不明点は広く検索とう実施して自己解決する。所要時間の目安・（45分）

2. 指導教員名

教授：美津島 隆
准教授：入澤 寛
講師：中村 智之（CC 実行委員）
助手：千葉 友
非常勤講師：広瀬 健
非常勤助教：鈴木 大雅 島袋 久弥

3. 実習内容及び実習方法

- 1) 診療システムの概要説明ならびに施設紹介などのオリエンテーションを月曜日午前9時より、病院リハビリテーション科外来にて行う。
- 2) 各人数名の患者様を受け持ち、訓練担当者とともに医療チームの準一員として各種医療行為に参加する。
 - (a) 医療情報を確認し、適時診察する。患者対応は、外来訓練室または病棟にて行う。
 - (b) 訓練に同席し、担当者の指示に従う。
 - (c) 患者・家族に対して各種医療行為の説明を行い同意を得ることについて、説明の場に担当者や指導医と同席して学習する。
 - (d) 理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）の治療場面に同席し、対応方法を学習する。

(e) 受け持ち患者の疾患ならびに障害を整理し、リハビリテーションの目標を設定し、ケーススタディ、試問時に受け持ち患者のプレゼンテーションを簡潔に行う。

3) 補装具等を実際に体験する。

4) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

4. 到達目標

1) 障害の診断

各種障害について、障害の3層構造すなわち機能障害、活動制限、参加制約を説明できる。

2) 徒手筋力テストが実施できる。

3) 基本的なADLの評価ができる。

4) 脳卒中による運動障害の評価として片麻痺患者の重症度を説明できる。

5) 失語症の病型分類を説明できる。

6) 肢体不自由を生じる主要な疾患に関する頭部CTおよびMRIを読影できる。

7) 廃用症候群の諸症状を説明できる。

8) 理学療法並びに理学療法職種の役割を理解する。

9) 作業療法並びに作業療法職種の役割を理解する。

10) 言語療法並びに言語療法職種の役割を理解する。

11) ソーシャルワーカー並びに医療相談職種の役割を理解する。

12) チーム医療の実際と運営の進め方、ケアマネジメントを理解する。

13) 補装具、車椅子、義肢の適応を理解する。

14) 医療と福祉の連携を理解する。

15) 身体障害者手帳について理解する。

5. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

1) 患者等に接する時は、常に常識ある行動をとり、親切で丁寧な対応に努める。

2) 病院内で得た情報は決して他に漏らしてはならない（守秘義務を遵守する）。

3) 清潔な服装と白衣を着用する。女性はズボンを着用すること。

- 4) 指導医および担当者のもとで患者を受け持ち、診察、訓練に当たる。患者・家族から病状の説明を求められたときは、担当者を通じて返答してもらい、できる限りその場に同席する。
- 5) 受け持ち患者の各種機能訓練、諸検査、処置には必ず同席して、どのように行われるかを学び、それら医療行為に参加するよう努める。毎日1回は受け持ち患者を診察するよう努める。分からないところは遠慮なく質問し、受け持ち患者について気づいたことは随時主治医等に報告する。
- 6) 原則として実習終了のサインを、指導医または担当者から、毎日その日のうちにもらう。
- 7) やむを得ず欠席する場合には必ず届け出ること。無断欠席の場合には再実習を課すこともある。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1, G-2, G-3-1), G-4-2)

6. 評価基準

- 1) 出席率：日数
- 2) 受け持ち症例について：担当表提出並びに試問
- 3) 担当指導医による評価：診察技術とマナー、医学一般知識など
以上に基づき総合評価を行う（100点満点）。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00~10:00 オリエンテーション 10:30~12:00 OT, PT, ST 実習	美津島 入 澤	12:55~15:00 外来訓練実習 15:30~18:00 PT, UT, ST 実習	中 村 入 澤
火	9:00~11:30 ST, PT, UT 実習	美津島 入 澤 渋 谷 千 葉	13:00~15:00 外来訓練実習	美津島 入 澤 渋 谷 千 葉
水	9:00~11:00 外来訓練実習	広 瀬 鈴 木 美津島	13:00~15:00 外来訓練実習	広 瀬 鈴 木 美津島
木	9:00~11:00 外来訓練実習	中 村 千 葉 島 袋 渋 谷	13:00~15:00 外来訓練実習	中 村 千 葉 島 袋 渋 谷
金	9:00~11:00 外来訓練実習	入 澤 中 村	13:00~17:00 症例報告 リハビリカンファレンス 口頭試問	入 澤 美津島
土	予備日			

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

病 理 診 断 学

1. 目 的

実際の病理診断業務に携わる事によって、医療における病理診断の重要性とその役割を理解する。

2. 指導教員名

教 授：石田 和之

学 内 講 師：金子 有子 (CC/ACC 担当教員)

学 内 助 教：松田 葉月，大和田温子，野田 修平，野沢 友美

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

病理診断に携わる鏡検実習を基本として、術中迅速診断，細胞診断，病理解剖など病理診断科が行う業務全般に携わります。また，標本作製を見学する機会など病理診断に必要な過程を学ぶことができます。医学教育モデル・コア・カリキュラム G-4-2).

注意事項：標本作製過程では，切り出し，薄切，病理解剖などで刃物を使用します。また感染対策も重要です。自身の身を守るため指示には耳を傾け，十分気を付けて実習を行ってください。

事前学習（最低1時間）：病理学の教科書で正常の組織像を理解しておくことが望まれます。

事後学習（最低1時間）：関わった疾患について，病理像と臨床像を結び付けながら教科書で復習することを勧めます。

4. 実習内容及び実習方法

実際に病理診断を依頼されている症例について組織標本を診断します。生検，手術検体とも3日～1週間程度で病理診断を報告し，その結果は主治医から患者さんに報告される事になります。痛い思いをして採取された組織片からできるだけ多くの有用な情報を得て，患者さんに役立つ病理診断を届けるために，自ら考え，自ら調べる姿勢が求められます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

* 詳細は、実習開始日に説明します。メモなど筆記用具以外に持参するものではありません。

5. 到達目標

生検・手術材料（術中迅速診断を含む）の病理組織診断および細胞診について、その標本作製の手順と診断に至るプロセスを理解する。

6. 評価基準

すべての実習に参加することを原則として、社会性、実習に対する姿勢も評価する。統一化された評価の基準により評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容) 9 : 00~12 : 00	担当者	午 後 (内容) 13 : 00~17 : 00	担当者
月	オリエンテーション 診断カンファレンス 術中迅速診断	石田和之	手術材料の切り出し 鏡検・診断	金子有子
火	診断カンファレンス 術中迅速診断	石田和之	手術材料の切り出し 鏡検・診断 カンファレンス	大和田温子
水	診断カンファレンス 術中迅速診断	石田和之	手術材料の切り出し 鏡検・診断	野田修平
木	診断カンファレンス 術中迅速診断	大和田温子	手術材料の切り出し 鏡検・診断 カンファレンス	松田葉月
金	診断カンファレンス 術中迅速診断	金子有子	手術材料の切り出し 鏡検・診断	野沢友美

病理解剖がある場合には指導医のもと介助を行う。

CC 実行委員名 (CC 担当教員)

初日の集合場所・時間

氏 名 : 金子 有子

集合場所 : 基礎棟 3 階 病理診断学医局

集合時間 : 9 時

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

総合診療医学

1. 目的

- ①どの科の医師になっても求められる総合診療能力について学ぶ。
- ②総合診療医のイメージを獲得する。

2. 指導教員名

主任教授：志水 太郎 (CC 実行委員)

学内助教：原田 侑典、廣澤 孝信、勝倉 真一、富山 周作、横瀬 允史
坂本 哲、川村 廉、大高 由美、鈴木 有大

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

- ・準備学習 (最低 1 時間)

実習開始までに、OSCE および post-CC OSCE、総合診療科 CC で学んだ医療面接および身体診察、症例プレゼンテーションについて復習し、患者に対して実施できるよう準備しておくこと。

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応 (*すべてを経験できるわけではない)

G-1-1)-(1) 医師として求められる基本的な資質・能力

G-1-1)-(2) 診療の基本 (F 参照)

G-2-1) 発熱

G-2-2) 全身倦怠感

G-2-3) 食思(欲)不振

G-2-4) 体重増加・体重減少

G-2-9) めまい

G-2-11) 浮腫

G-2-12) 発疹

G-2-13) 咳・痰

G-2-15) 呼吸困難

G-2-16) 胸痛

G-2-17) 動悸

G-2-19) 嚥下困難・障害

G-2-20) 腹痛

- G-2-21) 悪心・嘔吐
- G-2-23) 便秘・下痢
- G-2-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍
- G-2-26) 貧血
- G-2-27) リンパ節腫脹
- G-2-31) 不安・抑うつ
- G-2-33) 頭痛
- G-2-34) 運動麻痺・筋力低下
- G-2-35) 腰背部痛
- G-2-36) 関節痛・関節腫脹
- G-3-1) 一般手技
 - ①体位交換、移送ができる。
 - ⑤静脈採血を実施できる。
 - ⑥末梢静脈の血管確保を実施できる。
 - ⑩尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
 - ⑯診療録（カルテ）を作成する。
- G-3-2) 検査手技
 - ③微生物学検査（Gram 染色を含む）を実施できる。
 - ⑦12 誘導心電図を記録できる。
 - ⑪経皮的酸素飽和度を測定できる。
- G-4-1)-(6) 総合診療科
- G-4-4) シミュレーション教育

4. 実習内容及び実習方法

4週間の実習期間を2週間毎の外来実習と病棟実習に分けて実習を行う。

<全体>

学習の振り返り

- ①初日のオリエンテーションの際に、「個別の学修目標」を教員と協同して作成し書きこむ
- ②実習の後半に、指導医と共に学修目標の達成について中間の振り返りを行う
- ③実習が終わる日までに、「ローテート終了時の振り返り」を書きこむ
- ④実習が終わる日までに、指導医に「ローテート終了時の指導医による評価」を記入してもらう

- ⑤実習日誌を使って、毎日、実習が始まる前にその日の目標、実習が終わった後にその日の振り返りを書く

形成的評価

- ・簡易版臨床能力評価（Mini-CEX）を4週目に受け、評価表を指導医に記入してもらう
- ・担当した症例と一緒に診ている指導医に、症例の担当に関する評価表を記入してもらう
- ・（オプション）指定された医師以外の医療スタッフに360°評価を記入してもらい、担当教員に提出する
- ・（オプション）担当した患者さんや模擬患者さんに感想を書いてもらう

学習を支援するモジュールを用いて学ぶ。

- ・初診患者への問診
- ・バイタルサイン
- ・身体診察
- ・鑑別診断や検査プランの考え方
- ・症例プレゼンテーション（入院時フルプレゼンテーション、病棟回診での簡易プレゼンテーション）
- ・カルテ記載
- ・在宅医療

その他、到達度や希望に応じて適宜追加する。

<外来実習>

外来実習では、医療面接及び身体診察について、OSCEやpost-CC OSCE、CCで学んだ内容の復習を行い、網羅的な問診・診察方法、および症候別の問診・診察方法についてのレクチャーを受ける。また、指導医の指導の下に実際に初診外来患者に対して問診と身体診察を行い、鑑別診断と検査・治療の方針について指導医とディスカッションする。さらに、患者診察後に指導医からフィードバックと関連領域に関するレクチャーを受ける。午前中に診察した患者について午後までにまとめ、指導医に対してプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。また、初診で診た患者が実習期間中に再診する場合には診察に同席し、フォローアップの際の診療について学ぶ。さらに、自身が初診で診察していない再診患者の診察にも同席し、原因不明の症候に対して複数回の診療を経て診断にせまる過程を学ぶ。

<病棟実習>

病棟実習では、1 週目及び 2 週目の初日に担当患者の紹介を受ける。初回の診察とカルテレビューを行って初期のサマリを作成したうえで、指導医に対してフルプレゼンテーションを行いフィードバックを受ける。毎日担当患者の診察を行い、症状や状態の変化及び検査結果を確認し、カルテを記載する。指導医に対して簡易プレゼンテーションを行い、プレゼンテーション及びカルテ記載についてフィードバックを受ける。また、午前の病棟回診に参加し、上級医のプレゼンテーションや診察を見学するとともに、上級医の指導の下診察を実践する。各週の最終日には週間サマリを作成し、フルプレゼンテーションを行う。担当患者の退院調整について指導医とディスカッションし、病状説明や多職種カンファレンスの機会があれば見学し、地域包括ケアや多職種連携について学ぶ。

<時間外救急外来（表内科）実習>（オプション）

希望者は時間外救急外来（表内科）の診療に参加し、指導医の指導の下に実際に救急外来患者に対して問診と身体診察を行い、鑑別診断と検査・治療の方針について指導医とディスカッションする。さらに、患者診察後に指導医からフィードバックと関連領域に関するレクチャーを受ける。

実習時間は 17 時から 21 時までとする。

5. 到達目標

- ①病歴聴取の型を理解し、実践する。
- ②頭から足先までの全身の身体診察の流れを理解し、実践する。
- ③病歴・身体診察を重視した診断推論（診断がつかない場合を含む）を組み立てる、又はたどる。
- ④ベッドサイドで得た情報を系統立ててプレゼンテーションし、臨床推論に基づいたアセスメントとプランを述べる。
- ⑤カルテ記載の型を理解し、記載する。
- ⑥健康問題に対する包括的アプローチ（複数の健康問題の相互作用等）を体験する。
- ⑦家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療に可能な範囲で参加する。
- ⑧在宅医療について知る。
- ⑨多職種連携を体験してその重要性を認識する。
- ⑩臨床現場において、保健・医療・福祉・介護に関する制度に触れる。

6. 評価基準

以下の内容から総合的に判断する（⑥、⑦はオプション）

- ①出席
- ②実習態度
- ③学習モジュール達成度
- ④Mini-CEX
- ⑤症例の担当に関する評価表
- ⑥360° 評価
- ⑦担当した患者（または模擬患者）さんからの感想

7. 週間予定表

病棟実習 1 週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	オリエンテーション、担当患者の紹介 (9:00~12:00)	勝倉真一	担当患者の診察、初回サマリの記載、フルプレゼンテーション (13:00~17:00)	勝倉真一
火	チーム回診、担当患者の診察、検査結果の評価 (8:00~11:00)	川村 廉	教授回診、フルプレゼンテーション (13:00~16:00)	志水太郎
水	チーム回診、担当患者の診察、検査結果の評価 (8:00~11:00)	坂本 哲	カルテ記載、簡易プレゼンテーション (13:00~16:00)	鈴木有大
木	チーム回診、担当患者の診察、検査結果の評価 (8:00~11:00)	原田侑典	カルテ記載、簡易プレゼンテーション (13:00~16:00)	原田侑典
金	チーム回診、週間サマリの記載 (8:00~11:00)	廣澤孝信	サマリチェック、フルプレゼンテーション (13:00~17:00)	廣澤孝信

病棟実習 2 週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	担当患者の紹介 (9:00~12:00)	大高由美	担当患者の診察、初回サマリの記載、フルプレゼンテーション (13:00~17:00)	大高由美
火	チーム回診、担当患者の診察、検査結果の評価 (8:00~11:00)	横瀬允史	教授回診、フルプレゼンテーション (13:00~16:00)	志水太郎
水	チーム回診、担当患者の診察、検査結果の評価 (8:00~11:00)	勝倉真一	カルテ記載、簡易プレゼンテーション (13:00~16:00)	勝倉真一
木	チーム回診、担当患者の診察、検査結果の評価 (8:00~11:00)	川村 廉	週間サマリの記載、簡易プレゼンテーション、mini-CEX (13:00~16:00)	川村 廉
金	チーム回診、在宅医療レクチャー (8:00~11:00)	坂本 哲	サマリチェック、mini-CEX、振り返り (13:00~17:00)	富山周作

外来実習 1 週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	オリエンテーション、問診・診察 手技の初回評価 (9:00~12:00)	原田侑典	初診患者プレゼンテーション、 再診患者診療 (13:00~17:00)	原田侑典
火	初診患者診療 (9:00~12:00)	廣澤孝信	教授回診 (13:00~17:00)	志水太郎
水	初診患者診療 (9:00~12:00)	大高由美	初診患者プレゼンテーション、 再診患者診療 (13:00~17:00)	大高由美
木	初診患者診療 (9:00~12:00)	横瀬允史	初診患者プレゼンテーション、 再診患者診療 (13:00~17:00)	坂本 哲
金	初診患者診療 (9:00~12:00)	勝倉真一	初診患者プレゼンテーション、 再診患者診療 (13:00~17:00)	勝倉真一

外来実習 2 週目

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	初診患者診療 (9:00~12:00)	川村 廉	初診患者プレゼンテーション、 再診患者診療 (13:00~17:00)	川村 廉
火	初診患者診療 (9:00~12:00)	坂本 哲	教授回診 (13:00~17:00)	志水太郎
水	初診患者診療 (9:00~12:00)	原田侑典	初診患者プレゼンテーション、 再診患者診療 (13:00~17:00)	原田侑典
木	初診患者診療 (9:00~12:00)	廣澤孝信	初診患者プレゼンテーション、 Mini-CEX (13:00~17:00)	廣澤孝信
金	初診患者診療、在宅医療レクチャー (9:00~12:00)	大高由美	初診患者プレゼンテーション、 Mini-CEX、振り返り (13:00~ 17:00)	大高由美

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

糖尿病内分泌・血液内科

1. 目的

内科学のCCは、今まで学んできた医学的知識をもとに、医療現場において実際に患者さんを診察し、解決すべき問題点を明らかにし、その解決法を自ら探ることが目的である。

そのためには、医療現場の一員として積極的に参加する姿勢と、患者さんとの望ましい関係を確立する能力を習得することが必要であり、将来の医師としての自覚と使命感を再確認してもらいたい。

2. 指導教員名

教授：橋本 貢士 田村 秀人
 准教授：竹林 晃三 岡村 隆光 土屋 天文 木口 亨
 原 健二 (CC 実行委員)
 講師：大蔵 美幸
 助教：阿久澤 有 山内 元貴 氏家 淳 原澤 彰
 久保 未央 滝井 寛隆 三宅 勇輝 原 かほり
 浅井久美子 宮川きらら

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

医学教育モデル・コア・カリキュラム：G-1-1)-(1) (2) (3),

G-2-1)2)3)4)10)11)14)17)23)26)27)28)29)31)34), G-3-1)2), G-4-1)-(1)]

(1) 患者さんと接する際には、身だしなみに十分留意し、常識ある言動・行動をとること。また、守秘義務を理解しプライバシーに配慮すること。

(2) 指導医とコンタクトを密にし、医療行為は単独で行わないこと。

(3) 積極的に受持患者さんに接するよう努め、検査・治療に立ち会うこと。

(4) 決められている時間は厳守し、また常に所在を明らかにしておくこと。

(5) 実習までに糖尿病、内分泌疾患、血液疾患について事前に学習しておくこと。

(学習時間：2時間)

4. 実習内容及び実習方法

(1) 入院患者さん1名を受持ち、病歴聴取（主訴、既往歴、家族歴、現病歴）、診察（視・触・打・聴診）を行う。診察所見は毎日適切に記載する。担当医と診断・現在の状態・治療法について検討を行う。

- (2) 外来診療に参加し、病歴聴取、診察を行い鑑別診断、検査方針を自ら検討する。
- (3) 病棟および外来で行われる検査（骨髄穿刺、腰椎穿刺、腹部・甲状腺・頸動脈エコー等）・治療手技・糖尿病教室の見学（一部実践）。
- (4) 内分泌代謝・血液の各分野の専門医が行うカンファレンスに参加する。
- (5) 回診、抄読会、症例検討会に参加する。
- (6) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- (1) 内科的問診、診察をスムーズに的確に行い、適切な評価判定ができること。
- (2) 適切な検査計画が立てられ、得られた検査結果（血液生化学所見、画像所見等）を理解し評価判定できること。
- (3) 内分泌代謝、血液のそれぞれ主要疾患の診断過程と基本的治療法を理解できること。
- (4) 患者さんの病態や疾患についての的確にプレゼンテーションができること。

6. 評価基準

出席状況、実習態度を評価に含め、到達目標の到達度を口頭試問およびレポートより評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (9:00~12:00)	担当者	午 後 (13:00~17:00)	担当者
月	医局会 (8:45~9:00) オリエンテーション 患者紹介	橋本貢士 田村秀人 竹林晃三 岡村隆光 土屋天文 原 健二	教授回診 抄読会・症例検討会 (17:30~ 19:00)	橋本貢士 田村秀人 竹林晃三 岡村隆光 土屋天文 原 健二
火	病棟実習	竹林晃三 山内元貴 久保未央	病棟実習 甲状腺超音波検査見学	竹林晃三 宮川きらら 山内元貴
水	病棟実習	橋本貢士 阿久澤有 浅井久美子	病棟実習 糖尿病運動療法実践教室見学	竹林晃三 原 健二 氏家 淳
木	病棟実習、外来実習	橋本貢士 大蔵美幸 山内元貴	血液疾患カンファレンス 病棟実習	木口 亨 原澤 彰 滝井寛隆
金	病棟実習、外来実習	橋本貢士 氏家 淳 三宅勇輝 久保未央	血液疾患カンファレンス 病棟実習 糖尿病・内分泌疾患カンファレンス まとめ (16:30~17:00)	橋本貢士 大蔵美幸 土屋天文 原かほり

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

呼吸器・アレルギー内科

1. 目的

- ・CCは医療チームの一員として臨床現場を体験し参加することにより、医師としての基本的な姿勢・技術を習得する。今まで学んできた知識とあわせ呼吸器疾患の患者より病歴を聴取し、現症をとり、必要な検査を考え、これらの結果を総合し鑑別診断・病態把握・今後の治療計画の立案等の能力を培う。
- ・また、個々の患者背景にも注意を払い、病名は同じであっても患者は一人の個人であり同じ患者は一人としていない事を理解する。加えて、病院スタッフを含めたコミュニケーション能力等、医学以外の能力が臨床医として大切である事を認識する。

2. 指導教員名

主任教授：福島 康次

准教授：平田 博国

講師：高山 賢哉 舘脇 正充 佐藤 英幸 (CC 実行委員)

大和田高義 相馬 亮介 渡邊 浩祥

助教：若山 知薫 大橋真有子 有福 一 城守 貞幸

杉立 溪 佐藤 構造 尾辻 尚龍 時田 心悟

増田 浩之 小林 貴行 尾崎 敦孝 多田 和弘

佐藤 淳哉 長谷川智貴

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ・患者様に学ばせていただいている事を忘れない事。
- ・肺癌を中心に生命予後に限りがある事が多く、個々の患者により病状認識に差があるため（非告知の方もいます）言動には注意する事。
- ・守秘義務を厳守する事。
- ・グループ内の他疾患もみる事。
- ・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)～(3), G-2-1), G-2-4)～7), G-2-9), G-2-12～16), G-2-18),

G-2-19), G-2-27), G-2-34)～36), G-3-1), G-3-2), G-4-1)

4. 実習内容及び実習方法

- ・ 担当患者から病歴，現症をとり検査結果と併せて鑑別診断，病態を把握し今後の治療方針展望を立案する。
- ・ 主治医及び指導教官と討論する。
- ・ 講義実習を受ける。
- ・ 睡眠時無呼吸症のポリソムノグラフィーの検査を夜間に行っているのので，希望者は申し出る事。
- ・ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 提出されたレポートを添削し，返却する。
 - ・ ルーブリック・miniCEX等の方法によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- ・ 患者の病歴が的確にとれる。
- ・ 患者の現症が的確にとれる。
- ・ 胸部X-P，CTの正常所見を理解できる。
- ・ 呼吸機能検査，血液ガスデータの解釈ができる。
- ・ 気管支鏡検査の意味を理解できる。
- ・ 個々の患者の背景にも注意し，医療人，社会人として常識的な対応ができる。
- ・ これらを総括し，鑑別診断，病態，治療方針等を把握している。

6. 評価基準

- ・ 受け持ち患者の疾患に対する知識。
- ・ 受け持ち患者の病歴・現症が的確にとれる。
- ・ 出席，履修態度
- ・ 患者，病院スタッフへの態度，コミュニケーション能力

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:30～ ガイダンス, 患者紹介 10:00～12:00 病棟カンファランス	福 島 佐 藤	15:00～17:00 教授回診 17:30～ 気管支鏡カンファランス	福 島 有 渡 邊
火	9:00～12:00 病棟実習 11:00～ 気管支鏡所見	長谷川 佐 藤 担当医	13:30～15:30 気管支鏡	舘 脇 杉 立 担当医
水	9:00～12:00 病棟実習 11:00～ 外来実習	大和田 小 林 担当医	13:00～17:00 病棟実習 13:00～15:30 気管支鏡	大 橋 渡 邊 担当医
木	9:00～12:00 病棟実習	平 田 尾 崎 担当医	13:00～17:00 病棟実習	多 田 有 福 担当医
金	9:00～12:00 病棟実習	高 山 大和田 担当医	13:30～15:30 気管支鏡 15:30～17:00 クルズス	福 島 城 守 平 田

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

消化器内科

1. 目的

消化器疾患の病態を理解し、診断・治療について総合的かつ具体的に理解する。

2. 指導教員名

教授：玉野 正也

学内教授：片山 裕視 (CC 実行委員)

学内講師：紀 仁, 須田 季晋

学内助教：草野 祐実, 小堀 郁博, 豊田 紘二

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

診療の現場にいる自覚を持ち、医療チームの一員としての自覚を持ち責任ある態度で行動する。

消化器内科では癌などの悪性腫瘍を扱うことが多いので、実習に際しては十分に主治医とコミュニケーションをとって言動に注意を払うこと。

患者様の誤解を受けないように私語を慎む。

腹部の触診や打診を行うので、手指を清潔にし爪を切ってくること。

実習前までに消化器疾患の講義内容を事前に予習しておくこと (最低 1 時間)。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1) 1-9, G-1-1)-2), G-1-1)-3) 1-13

G-2-2) 腫瘍：悪性腫瘍全般

G-2-4) 腫瘍：悪性腫瘍全般, 自己免疫：炎症性腸疾患, 消化器：慢性膵炎

G-2-5) 循環血液量減少性：急性消化管出血, 血液部分布異常性：急性膵炎

G-2-7) 全身性：急性消化管出血, 肝不全

G2-10) 消化器：急性消化管出血

G2-12) 全身性：肝硬変

G2-13) 消化器：胃食道逆流症 (GERD)

G2-16) 消化器：胃食道逆流症 (GERD)

G2-18) 消化器：肝硬変, 急性膵炎

G2-19) 消化器：胃食道逆流症 (GERD), 食道癌

G2-20) 消化器：機能的ディスぺプシア, 過敏性腸症候群, 炎症性腸疾患, 消化性潰瘍, 急性虫垂炎, 胆石症, 急性膵炎, 腸閉塞

G2-21) 消化器：機能的ディスぺプシア, 腸閉塞, 食中毒

G2-22) 食道：食道静脈瘤，食道癌，胃：消化性潰瘍，胃癌

上部消化管：食道静脈瘤，消化性潰瘍

下部消化管：炎症性腸疾患，大腸癌

G2-23) 機能性：過敏性腸症候群，器質性：腸閉塞，大腸癌

炎症性：急性胃腸炎，炎症性腸疾患

腸管運動異常：過敏性腸症候群，浸透圧性：慢性膵炎

G2-24) 抱合型：急性肝炎，慢性肝炎，肝硬変，胆管炎，膵癌

G2-25) 消化管：腸閉塞，大腸癌，腹水：肝硬変，腫瘤：肝癌

G2-27) 腫瘍：その他の悪性腫瘍全般

G2-35) 消化器：胆石症

G3-1) ①, ②, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑩, ⑫, ⑬, ⑯, ⑰

G3-2) ⑩, ⑫

G4-1)-(1)

4. 実習内容及び実習方法

- ・入院患者診療
- ・腹部超音波検査の見学と実習
- ・上部・下部消化管内視鏡検査の見学と補助
- ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- ・消化器疾患の主な症候について理解できる。
- ・全身，特に腹部の視診，聴診，打診，触診が正しくできる。
- ・患者様とのコミュニケーションがとれ，消化器症状の問診，現病歴の聴取が正しくでき，病態が理解できる。
- ・腹部超音波検査の原理を理解し，主な肝・胆・膵疾患の診断ができる。
- ・消化管内視鏡の原理を理解し，主な消化管疾患の診断ができる。

6. 評価基準

- ・患者様とのコミュニケーション能力
- ・消化器疾患の診断と治療に関する理解度

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00~12:00 オリエンテーション 超音波検査 (超音波検査室)	玉野正也	13:30~16:00 教授回診 (病棟カンファレンスルーム) 17:30~18:30 医局カンファレンス	玉野正也 片山裕視 紀 仁
火	9:00~12:00 内視鏡検査 (内視鏡検査室)	片山裕視 豊田紘二	13:00~17:00 病棟実習	玉野正也 片山裕視 紀 仁
水	9:00~12:00 外来実習	玉野正也 草野祐実	13:00~17:00 病棟実習	小堀郁博
木	9:00~12:00 外来実習	片山裕視	13:00~15:30 内視鏡検査 (内視鏡検査室) 16:00~17:00 消化管疾患クルズ ス (消化器内科研究室)	片山裕視
金	9:00~12:00 病棟実習	玉野正也 片山裕視	14:00~肝胆膵クルズス (病棟) 15:00~16:00 教授試問 (病棟カンファレンスルーム)	玉野正也 須田季晋

7. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

循環器内科

1. 目的

循環器疾患を中心に内科全般に渡る日常診療を体験しながら、医師としての基本的な心構え、基本的知識・技能を身につける。

2. 指導教員名

教授：田口 功

学内准教授：小林さゆき， 中原 志朗， 石川 哲也， 板橋 裕史

講師：久内 格 (CC 実行委員)， 中村日出彦， 堀 裕一

助教：福田 怜子

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

患者様と実際に接するため，清潔かつ清楚な身だしなみを整えること。

患者様のプライバシーを守り，患者様に対し節度ある対応をとること。

朝夕の回診を行い，言葉遣いには充分注意すること。

受持症例の検査には必ず立ち会うこと。

指導医と連絡を密にし，単独の行為は絶対行わないこと。

時間厳守すること。

コメディカルとの協調性を持つこと。

実習前まで冠動脈疾患・心不全・不整脈の病態の理解、および心電図の読影法について予習しておくこと（最低1時間）。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)1～9, G-1-1)-(2), G-1-1)-(3)1～13, G-2-3)循環器,

G-2-4)急性：心不全, G-2-5)～7), G-2-9), G-2-11), G-2-14)～18),

G-2-20)循環器, G-2-21)循環器,

G-2-25)腹水：心不全, G-2-26)鉄欠乏性貧血：抗血栓療法による消化性潰瘍,

G-2-35)心血管, G-3-1)①～③, ⑤～⑧, ⑩～⑭, ⑯,

G-3-2)⑦, ⑩～⑫, G-3-3)①～③, G-3-4), G-4-1)-(1)

4. 実習内容及び実習方法

当科の実習では，心不全，不整脈，虚血性心疾患の診断と治療の学習をすすめながら，内科疾患の基本的診断法，医師としての基本的技能を修得することが主眼である。

各自数例の担当症例を持ち、その症例を通して病態・検査・治療法を学習する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・提出されたレポートを添削し、返却する。
- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

病歴の聴取と基本的身体所見をとることが出来る。

基本的心雑音を聞き分ける事が出来る。

一般検査所見（血液生化学・胸部レントゲン・心電図）を評価し判定することが出来る。

心電図の判読法を学習し判定をすることが出来る。

循環器系諸検査（運動負荷心電図・ホルター心電図・心エコー・心臓核医学・心臓カテーテル・冠動脈造影 CT・カテーテルアブレーションなど）の意味を理解し、可能な限り体験する。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、レポート等より総合的に評価する。

7. 週間予定表（毎朝 8：30 医局集合にて緊急症例のカンファレンス）

時間 曜日	午前 (9:00-12:00)	担当者	午後 (13:00-17:00)	担当者
月	ガイダンス 患者様紹介	田口功 久内格	心エコー 心カテーテルアブレーション カンファレンス	中原志朗 堀 裕一
火	心カテーテル 核医学 心エコー	石川哲也	教授回診	田口功
水	心カテーテル 核医学	石川哲也 中村日出彦	負荷心電図・冠動脈 CT 心エコー 心カテーテル	小林さゆき 石川哲也
木	心エコー	小林さゆき 板橋裕史	負荷心電図 心カテーテル	中村日出彦
金	心エコー 心カテーテル	板橋裕史 中原志朗	カテーテルアブレーション まとめ（心カテーテル室にて）	田口功

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

腎 臓 内 科

1. 目 的

腎・高血圧性疾患・腎不全診療を中心に全人的医療を遂行するために必要な内科学の基本的知識、技能、態度を理解し、修得する。本院での実習で不足しがちな腎生検・腎病理・透析療法内シャント作成に重点を置くので有意義な実習が期待される。

2. 指導教員名

教 授：竹田 徹朗 (CC 実行委員)

准 教 授：吉野 篤範

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

- 1) 実習前までに直近の国試問題内容 (腎臓内科分野)、腎病理、透析療法について事前に予習しておくこと (最低 1 時間)。小講義では積極的に質問する。
モデル・コア・カリキュラム G-2-11)浮腫, G-2-29)血尿・タンパク尿
- 2) 診療チームに配属され、うち入院患者 1 例を担当する。診療チーム長 1 名が割り当てられる。
- 3) 担当患者の診察、診療録の作成を実習期間中毎日行う。ただし、食事の時間、具合の悪い時、および患者が拒否した時、診察は避ける。
- 4) 担当患者の症例検討、担当患者について質問や疑問がある場合は、積極的に主治医や指導教員とディスカッションする。
- 5) 担当患者や家族からの診断、経過、治療内容についての質問には、自己判断による説明は行わず、主治医に尋ねるようにしてもらう。

参考図書：メディカルノート 腎臓がわかる カラー版 (西村書店)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 各自に割り当てられた患者を毎日診察する。電子カルテに記載する。
- 2) 担当患者の診察を通して指導を受ける。(指導教員の質問、コメントに答えるなど)
- 3) 担当患者の検査や治療の際に、可能な限り積極的に参加する。
- 4) 担当患者について、責任指導教員と相談の上、適切なテーマを決めて、文献的な考察を行う。

- 5) 担当症例のレポートを作成し、考察を含め 10 分以内で発表し、指導教員よりその場でフィードバックを受ける。
- 6) 糸球体腎炎及び全身性疾患による腎障害について小講義を受け、質疑応答を行う。
- 7) 直近の国試問題内容に関連する疾患について小講義を受け、質疑応答を行う。
- 8) 腎生検を見学し、質疑応答を行う。
- 9) 透析センターを見学し、質疑応答を行う。
- 10) ブラッドアクセス手術（内シャント設置術）を見学し、質疑応答を行う。

5. 到達目標

- 1) 入院患者との間に良好な関係、コミュニケーションを持つことができる。
- 2) 患者の医療面接と身体診察を適切に行うことができる。
- 3) 担当疾患の病態、診断と治療の進め方を説明できる。
- 4) 担当疾患について、文献的な検索を含め、考察できる。
- 5) 割り当てられた時間内に、簡潔・明瞭に症例を呈示することができる。
- 6) 主な腎疾患の病態や診断・治療に関する基本的知識を説明できる。
- 7) 腎生検の適応、禁忌、合併症、前処置、手順、検査後の注意などを説明できる。
- 8) 血液透析、持続血液ろ過透析などの血液浄化療法の適応、合併症、手技を説明できる。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、レポート等などより総合的に成績を評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 8時30分～12時	担当者	午 後 13時～17時	担当者
月	8時30分カンファランス 8時50分庶務課ガイダンス 患者紹介	竹田徹朗 診療チーム長	病棟実習（診察等） 国試問題検討	吉野篤範 竹田徹朗
火	8時30分カンファランス 9時透析センター見学 病棟実習（診察等）	吉野篤範	腎生検見学、 教授回診 医局検討会（～19時）	吉野篤範 竹田徹朗
水	8時30分カンファランス 病棟実習	竹田徹朗 吉野篤範	内シャント術見学 腹膜透析外来見学	吉野篤範 長堀克弘
木	8時30分カンファランス 病棟実習（診察等）	竹田徹朗	レポート作成 クルズ	竹田徹朗
金	8時30分カンファランス 9時 外来陪席	竹田徹朗 吉野篤範	レポート発表、実習まとめ	吉野篤範 竹田徹朗

※夕方に埼玉東部地区での研究会に参加することあり

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

脳 神 経 内 科

1. 目 的

1. 神経内科疾患を中心に内科全般を、実践を通して理解し、系統講義や症候学講義で学んだ知識を確実なものにしていく。
2. 医師としての立場、使命感、自己犠牲の精神を確認する。
3. 患者さんの人格を尊重し、最良な方向へ導けるような全人的医療を考える。

2. 指導教員名

教 授：宮本 智之

学内准教授：赤岩 靖久 尾上 祐行

滝口 義晃（附属 越谷クリニック）

学 内 講 師：小川 知宏

学 内 助 教：吉澤 健太 沼畑 恭子（CC 実行委員）

非常勤講師：神谷 達司 神谷 文彦 原 元彦 山口 喜移

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

身だしなみ、話し方など、患者さんの立場にたったコミュニケーションを考え、実践する。

実習前までに神経診察法について事前に予習をしておくこと（最低1時間）。

（モデル・コア・カリキュラム対応）

G-1-1), G-1-1)-(3), G-2-7), G-2-8), G-2-9), G-2-32), G-2-33), G-2-34),

G-3-1), G-3-2), G-4-1)-(1), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

神経領域における系統講義ノート（あらかじめ整理しておく）、シラバス、診断学ノートを持参する。

外来実習：問診、神経診察から鑑別診断を考え、検査および治療指針をたてる過程を学ぶ。

病棟実習：神経疾患の患者さんを病棟医と一緒に受け持ち、検査および治療指針をたてる過程を学ぶ。

外来・病棟実習で経験した症例のレポートを最終日前日（木曜日）に提出する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

5. 到達目標

OSCE で学んだ神経所見を臨床現場で実践して、技術の習得を目指す。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、口頭試問によって総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	午前 9 : 00 ~ 12 : 30 オリエンテーション 全症例カンファに参加 教育回診（各症例の解説）	宮本智之 尾上祐行 赤岩靖久	午後 13 : 30 ~ 14 : 00 多職種合同カンファに参加 病棟実習	宮本智之 尾上祐行 赤岩靖久
火	午前 9 : 00 ~ 12 : 00 外来実習	尾上祐行	午後 14 : 00 ~ 15 : 00 外来実習	尾上祐行
水	午前 9 : 00 ~ 12 : 00 外来実習	宮本智之	午後 14 : 00 ~ 15 : 30 病棟実習 クルズ	沼畑恭子
木	午前 9 : 30 ~ 12 : 00 附属越谷クリニック実習 クルズ（ <u>神経所見の取り 方、脳 MRI の見かた</u> ）	滝口義晃	午後 14 : 00 ~ 15 : 00 病棟実習 クルズ <u>（神経免疫性疾患、パーキンソン病） （脳卒中・神経救急） （認知症）</u>	尾上祐行 赤岩靖久 小川知宏
金	午前 9 : 30 ~ 11 : 00 教育カンファ	宮本智之	午後 14 : 00 ~ 15 : 00 振り返り・まとめ	吉澤健太

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

小 児 科

1. 目 的

講義で得た小児科学の知識を実際の患者に応用し、患者から種々の情報を得るための基本的技能を身につける。すなわち与えられた患児を診察して診断計画を立てて診断し、治療方針を立てる能力を獲得し、それと共に患児および保護者の心理を理解し、小児の診療を円滑に進める基本的態度を身につける。さらにCCで得られた知識および技術を高める。

2. 指導教員名

教 授：松原 知代

教 授：作田 亮一（子どものこころ診療センター）

准 教 授：村上 信行

准 教 授：新田 晃久（CC 実行委員）

講 師：大戸 佑二 井上 建（子どものこころ診療センター）

助 教：白石 昌久 板橋 尚 田中慎一朗 永井 爽

森田 翼 尾野 花純 深谷 悠太

大谷 良子（子どものこころ診療センター）

北島 翼（子どものこころ診療センター）

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

1) 基本姿勢

①実習前に、今までに配布された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと（事前学習として最低1時間）。特に正常新生児・乳幼児・小児・学童の生理や発達についての知識を整理する。

②実習の希望（興味のある分野など）、質問や意見があれば遠慮なく指導医や担当医に申し出ること。

③見学ではなく積極的に診療に参加すること。

④患者である小児およびその保護者にも配慮すること。

2) マナー

①病棟・外来での患者さん・保護者・医師・看護師への自己紹介、挨拶など社会人としてのマナーを守ること。

②カンファレンス・講義・外来陪席などの時間は厳守すること。

③必ず担当医の許可を得てから、担当症例の診察を行うこと。

- ④保護者や患者さんに病状や検査結果など聞かれても、勝手に答えたり、伝言を受けたりせずに「学生なので対応できません」と答えること。

3) 体調不良

- ①少しでも体調が悪い時は担当医に必ず申し出ること。自宅にいる際は電話連絡すること。

- ②小児は感染症にかかりやすく、感染症を患者さんにうつすのは院内感染として大問題となるのでくれぐれも無理はしないこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1), G-1-1)-(3), G-2-1), G-2-4), G-2-5), G-2-7), G-2-8),
G-2-10)～13), G-2-15), G-2-18)～21), G-2-23), G-2-24), G-2-26)～29),
G-2-33), G-2-34), G-2-36), G-3-1), G-3-4), G-4-1)-(3), G-4-4)

4. 実習内容及び実習方法

- ①下記スケジュール表参照。病棟および外来で実習を行う。
- ②原則として、1週間に一人の患者さんを受け持って、問診、診断のための検査スケジュールの立て方、診断および治療を担当医と一緒にいき、レポートを作成する。
- ③課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
- ・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・提出されたレポートを添削し、返却する。

5. 到達目標

- ①患児および保護者の問診、患児の診察などから、その異常所見を把握することができる。
- ②患児の診断および重症度の判断に必要な検査を選択し、その検査結果を解釈することができる。
- ③主要な小児の検査および治療手技を見学する。
- ④問診、診察、検査の結果から小児疾患の診断ができ、治療方針を立てることができる。
- ⑤小児科疾患の診療を円滑に進めるには、保護者および患児にどのような社会的、心理的問題が障害となるか、また、それにどのように対処すべきか述べることができる。

6. 評価基準

①出席状況、実習態度

②レポートおよび口頭試問

上記について総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容) ～12:00	担当者	午 後 (内容) ～17:00	担当者
月	8:15 4F 小児科医局2	作田, 村上 白石, 板橋 大谷, 大戸 井上, 田中 森田	15:00 准教授・教授回診と 入院症例検討	作田, 村上 白石, 板橋 大谷, 大戸 井上, 田中 森田
火	8:15 モーニングレポート 病棟	松原, 作田 新田, 大谷 板橋, 大戸 田中	13:30 ベッドサイドティーチ ングとディスカッション 外来陪席	松原, 作田 新田, 大谷 板橋, 大戸 田中
水	8:15 モーニングレポート 9:00 病棟処置	松原, 作田 村上, 白石 板橋, 井上 大谷	13:30 ベッドサイドティーチ ング とディスカッション 12:30 子どものこころ診療 センターカンファレンス	松原, 作田 村上, 白石 板橋, 井上 大谷
木	8:15 モーニングレポート 8:30 新生児カンファレン ス 9:00 病棟	松原, 作田 村上, 新田 白石, 板橋 大谷, 大戸 井上, 田中 北島, 松島 永井	14:00 入院症例検討 17:00 教授回診 18:00 勉強会、抄読会	松原, 作田 村上, 新田 白石, 板橋 大谷, 大戸 井上, 田中 松島, 永井
金	8:15 モーニングレポート 9:00 病棟、外来陪席	松原, 作田 村上, 新田 白石, 大谷 大戸, 田中	13:30 ベッドサイドティーチ ングとディスカッション 15:00 総括 (松原)	松原, 作田 村上, 新田 白石, 大谷 大戸, 田中

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

こころの診療科

1. 目的

外来・リエゾンコンサルテーションにおける精神科診療の実際を体験し、その診断・治療（精神療法、薬物療法）についての理解を深める。

2. 指導教員名

主任教授：井原 裕（実行委員）

学内講師：齋間 草平

非常勤医師：儀藤 政夫

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

実習前までに参考書等を用い、精神疾患について主要症状、診断、治療方法（精神療法、薬物療法）について予習をすること。（120分）

実際に患者さんと接するため、身だしなみや話し方には注意し、節度ある行動をとること。

診療の現場にいるという自覚を持ち、責任ある態度で実習に臨むこと。

特に個人情報の管理については十分な注意をすること。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)1~9, G-1-1)-(2), G-1-1)-(3)2, 4~13, G-2-2)~4), G-2-8), G-2-9), G-2-15)~17), G-2-19)~21), G-2-31), G-2-32), G-3-1)⑩, G-4-1)-(5)

4. 実習内容及び実習方法

午前：外来カンファランスへの参加

外来陪席および初診患者の予診

午後：病棟カンファランスへの参加

病棟往診に同行し、可能な範囲で問診や簡単な検査を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

5. 到達目標

医師として患者さんに接する際の適切な態度を身につける。

6. 評価基準

基本的知識、および出席状況や実習態度等をもって総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8：30～ 外来カンファランス 9：00～12：00 外来陪席	井原 裕	13：00～17：00 病棟往診	井原 裕
火	8：30～ 外来カンファランス 9：00～12：00 外来陪席	齋間 草平 儀藤 政夫	13：00～16：00 病棟カンファランス 病棟往診 16：00～ 勉強会	井原 裕 儀藤 政夫
水	8：30～ 外来カンファランス 9：00～12：00 外来陪席	井原 裕	13：00～17：00 病棟往診	井原 裕
木	8：30～ 外来カンファランス 9：00～12：00 外来陪席	井原 裕	13：00～17：00 病棟往診	井原 裕
金	8：30～ 外来カンファランス 9：00～12：00 外来陪席	井原 裕	13：00～17：00 病棟往診 症例検討会	井原 裕

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

皮膚科

1. 目的

当科の豊富な症例をもとに、実際に医師や他の医療スタッフとともに臨床の場に参加することにより皮膚疾患を理解し、基本的医療行為が習得出来るようにする。

2. 指導教員名

教授：片桐一元

准教授：須山孝雪（CC 実行委員）

講師：横山恵美

助教：河合良奈

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 時間を厳守する。
- 2) 常に医療チームの一員であるとの自覚を持ち、常識ある行動をとる。
服装，言葉使い，態度には十分に注意する。
- 3) 必ず指導医または主治医の指導のもとに診療に参加する。
- 4) 皮膚科の週間行事には原則として参加する。
- 5) 原発疹・続発疹について予習してくる（最低1時間）。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)2, 3, G-1-1)-(2), G-1-1)-(3)1~3, 5, 7, 12,

G-2-1), G-2-2), G-2-12), G-2-27), G-2-37)一次性, G-3-1)①~③, ⑩,

G-3-2)③, G-3-3)①~⑥, G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

検査・診断学，基本的な治療・処置の実際について学ぶ。更に，入院患者診療では，実際に参加することにより皮膚科学に対する理解を深める。

外来実習：①皮膚疾患の診断方法について学ぶ

②真菌検査，Tzanck test を実施する

③小手術・レーザー治療を学ぶ

病棟実習：①入院患者の診療

②外用療法を学ぶ

③創傷治療を学ぶ

④レポート作成（自立学習を目的とした）

実習方法：①診療時に問診の実際視診・触診，各種検査を外用方法，創傷の評価を直接指導する

②実習の最後に総括を行い，知識の整理，補足を行うとともに学生に質問を準備させ，それに回答することで理解を深めさせる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) common skin disease を診断できる
- 2) 全身疾患に伴う皮膚所見を理解する
- 3) 皮膚悪性腫瘍を診断できる
- 4) 重症皮膚疾患を理解する
- 5) 検査方法を習得する
- 6) 外用剤の特性を理解する
- 7) 文献検索を習得する

6. 評価基準

- 1) 実習実態
- 2) 出席状況
- 3) 皮膚科学についての理解度

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 9 : 00～12 : 00	担当者	午 後 13 : 00～17 : 00	担当者
月	8 : 30 4階北病棟に集合 オリエンテーション 外来診療実習	須 山 近 澤	外来手術実習 縫合実習	須 山 松 木
火	外来診療実習 ミニレクチャー 手術見学	河 合 須 山 松 木	～19:00 臨床・組織カンファレンス	片 桐 須 山 横 山
水	外来診療実習	片 桐 横 山 松 木	外来手術実習 入院実習 ミニレクチャー	片 桐 横 山
木	外来診療実習	片 桐 滝 口 近 澤	手術実習・レーザー実習	須 山 横 山 近 澤
金	外来診療実習	清 村 河 合	総括	片 桐

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

放 射 線 科

1. 目 的

放射線医学はあらゆる臨床の基礎となる学問のひとつです。放射線検査の種類は多岐にわたっており、疾患ごとに適切な検査法を選択すること、またそれぞれの画像診断の結果を総合的に判断して日常診療に結びつけていく能力が求められます。

CCでは、放射線科医の指導のもとに放射線診療の現場で画像診断学・治療学の実践を学ぶことを通じて、放射線医学についての理解を深めることを目的とします。

2. 指導教員名

教 授：久保田一徳

准教授：古田 雅也

中田 学 (ACC 実行委員)

講 師：平野 靖弘

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

つねに患者様の安全を第一とし、現場の指示に従うこと。

侵襲性の高い検査 (患者様が苦痛を感じる検査) 中は私語を慎み、患者様に不安や不快感を与えないように注意すること。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)2, 5, 6, G-1-1)-(3)2, 3, 5, 7, 9, G-3-2)⑫, G-4-2)放射線科

4. 実習内容及び実習方法

午前：診療現場で指導教員のもとで臨床実習をおこなう。

午後：(1)読影 (2)講義 (3)症例を用いた放射線検査スケジュールの立案と検査依頼票作成ならびに画像診断報告書の作成

課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

5. 到達目標

各種放射線検査の実際の流れ (とくに検査依頼の方法) を理解し身につける。

各種検査法の特徴と適応ならびに禁忌を理解する。

6. 評価基準

放射線検査の流れを理解できたか？

放射線検査の種類，方法ならびに適応と禁忌を理解できたか？

画像診断ならびに放射線治療の基礎的事項を理解しているか？

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9：00-12：00 オリエンテーション 画像診断実習	久保田一徳	13：30-17：00 造影剤副作用講義 MRI 安全講義	伊藤悠子 渡邊 馨
火	9：00-12：00 放射線治療実習	古田雅也	13：30-17：00 画像診断実習	伊藤悠子 渡邊 馨
水	9：00-12：00 血管造影検査 診断報告書作成実習	中田 学	13：30-17：00 放射線治療実習	平野靖弘
木	9：00-12：00 画像診断実習	久保田一徳	13：30-17：00 放射線治療実習	野崎美和子
金	9：00-12：00 画像診断実習	中田 学	13：30-17：00 総括及び質疑応答	平野靖弘

カンファランス	症例	第 1, 2, 3, 4	水曜	12：30～13：30
	小児	第 2, 4	木曜	10：30～12：30
	核医学	第 2, 4	水曜	15：00～16：00

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

総合診療科

1. 目的

総合診療科に紹介いただく、多彩な症状・徴候をもつが診断のついていない患者さんに適切な初期対応を行うために、これまで得た知識を用いて臨床における診療技能を体験し、診療スタッフの一員として患者さんに接する態度を習得する。

初診患者さんの医療面接・身体診察を通して臨床推論を行い診断仮説を立てる、次にその臨床問題解決を進めていく過程を診療参加型スタイルで学ぶ。

2. 指導教員名

教授：齋藤 登 (CC 実行委員)

学内准教授：石井 孝政

学内講師：朝日 公一

学内助教：田村 肇、小沼 美保、李 蓓来

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

モデル・コア・カリキュラム G-4-1)-(6)

- 1) 大学病院へ紹介された初診の患者さんは不安が強い状態にあるので、丁寧でわかりやすい言葉遣いに留意し、信頼関係が得られるような態度で臨む。
- 2) 時間に余裕をもった行動と医療現場にスタッフとして加わる適度な緊張をもち、医師を目指した自らのモチベーションに沿った真摯な振る舞いを心がける。
- 3) 症状からみた鑑別診断につながる臨床医学講義のテキストや成書を見直しておく (事前学習として最低 1 時間)、臨床実習日ごとに関わった疾患・病態や疑問を持った事項を調べておく習慣をつける。

4. 実習内容及び実習方法

○初診症例の診察を担当し、日ごとの症例カンファレンスでプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。

- 1) 総合診療科診察室で初診症例の医療面接と身体診察を行う。
- 2) プロブレムリストを作成し、診断仮説を設定してみる。必要と思われる検査計画を指導医のもとで自ら進めていき、診断・治療計画を簡潔にまとめてみる。
- 3) 画像診断 (CT、MRI など) や生理検査 (超音波、心電図、呼吸機能、睡眠脳波など) の見学、結果説明やインフォームド・コンセント、他科受診等に立ち会って患者さんを慈しむ姿勢を学ぶ。

- 4) 医療者として先輩にあたる研修医、上級医や指導医と共に看護師や他のメディカルスタッフとのチーム医療や多職種連携を体験する。
- 5) 感染症への対策や予防策を外来や感染制御部の院内ラウンドに同行し体験する。
- 6) 総合診療科が担う当院の在宅医療部門における訪問診療に同行し体験する。

5. 到達目標

- 1) 初診患者さんの医療面接が適切にでき、患者=医療者間のコミュニケーションをはかる。
- 2) 基本的な身体診察法を施行できる。症状の部位だけでなく全身を診察する行為を身につけ、さらにポイントを絞った診察を加えることができる。
- 3) 医療面接と身体診察から得られた情報からプロブレムリストを作成し、診断仮説を形成できる。
- 4) 検査結果を解釈し、鑑別診断を述べることができる。
- 5) 治療方針や患者さんへの説明までの流れを把握できる。
- 6) 症例をプレゼンテーションできる。

6. 評価基準

- ①外来における行動の評価（意欲・態度・マナーなど含め）
- ②学生カルテ記載内容
- ③症例プレゼンテーション、Mini-CEXなどで指導医からフィードバックを受け、形成的評価とする。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容) (9 : 00~12 : 00)	担当者	午 後 (内容) (13 : 00~17 : 00)	担当者
月	8 : 40~9 : 00 オリエンテーション 9 : 00~ 外来実習	齋藤 登 朝日公一	外来症例のまとめ・振り返り 病棟往診 医局会 (勉強会) 参加 症例検討会	石井孝政 朝日公一 齋藤 登
火	外来実習	石井孝政	クルズス 総合診療について	石井孝政 齋藤 登
水	外来実習	齋藤 登 石井孝政	外来症例のまとめ・振り返り 病棟往診・訪問診療 症例検討会	齋藤 登 石井孝政
木	外来実習	齋藤 登	クルズス 画像所見の読影に ついて 訪問診療	朝日公一 齋藤 登
金	外来実習	石井孝政 朝日公一	外来症例のまとめ・振り返り / 病棟往診 / 症例検討会	石井孝政 朝日公一

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

外 科

1. 目 的

埼玉医療センター外科は、主に食道・胃・大腸・肝胆膵などの消化器疾患の外科治療を担当し、そけいヘルニアなど一般外科疾患の治療も併せて行っています。早期胃癌や大腸癌、肝胆膵疾患に対して腹腔鏡手術を積極的に展開しています。当科のCCでは、外科的治療の適応のある消化器疾患の、診断と治療方針の決定から手術に至る一連の過程を経験し、外科とはどのような診療科なのかを理解することを目的とします。縫合や糸結びといった外科の基本的な手技を体験し、腹腔鏡手術の実際を知ってもらいます。

2. 指導教員名

教 授：吉富 秀幸 奥山 隆

准 教 授：田島 秀浩

学 内 講 師：竹下恵美子 野呂 拓史 三ツ井崇司

学 内 助 教：齋藤 一幸 (CC 実行委員) 立岡 哲平 大井 悠

箱崎 悠平 高田 武蔵 宮崎 俊哉 川崎 圭史

目黒 創也 周東 宏晃

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

患者やスタッフ、コメディカルに不快感を与える服装や態度は禁止。患者の個人情報の機密を守ること。カンファランスには主体的に参加すること。

CC実習の週の参加予定の手術の術式に関して、前週金曜日に埼玉医療センター外科医局に連絡をとって確認し、手術術式の概略について予習（最低1時間）を行っておくこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1), G-2-1), G-2-3), G-2-5), G-2-10), G-2-20)～G-2-26),

G-3-1)①～⑭, ⑯, G-3-3)①～⑥, G-4-1)-(2)

4. 実習内容及び実習方法

手術予定患者を入院時より受け持ち、術前診断から治療方針の決定に至る過程を学ぶ。手洗いしたうえで助手として手術に参加する。担当医とともに術後管理の実際を経験する。課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 提出されたレポートを添削し、返却する。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

- ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
- ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 消化器癌の診断と治療の基本的知識の習得。
- 2) 基本的な外科手技の理解。
- 3) チーム医療の理解。

6. 評価基準

- 1) 胃癌と大腸癌，肝胆膵悪性腫瘍、胆石症，そけいヘルニアの治療方針を理解する。
- 2) 集学的治療を理解する。
- 3) 正しい手洗いなどの清潔操作を行う。
- 4) チーム医療を理解する。
- 5) スタッフやコメディカルと共に有意義な ABL の期間を過ごす。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	(8:00-12:00) カンファランス 手術	吉 富 三ツ井 野 呂 立 岡	(13:00-17:00) 手術 カンファランス	吉 富 竹 下 高 田 宮 崎 目 黒
火	(9:00-12:00) 手術 上部内視鏡	三ツ井 齋 藤 箱 崎	(13:00-17:00) 手術	三ツ井 齋 藤 周 東
水	(9:00-12:00) 上部内視鏡 病棟実習	奥 山 田 島 立 岡	(13:00-17:00) クルズス 下部内視鏡	田 島 立 岡 宮 崎
木	(8:00-12:00) カンファランス 手術	奥 山 三ツ井 野 呂	(13:00-17:00) 手術	奥 山 三ツ井 野 呂
金	(9:00-12:00) 手術 病棟実習 外来見学	竹 下 齋 藤 箱 崎	(13:00-17:00) 下部内視鏡 口頭試問	吉 富 竹 下 川 崎 大 井

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

整 形 外 科

1. 目 的

整形外科は運動器疾患を扱う外科であり、身体の広範囲な部位を含み、組織別にも骨、関節のみならず皮膚、筋肉、血管、神経なども対象となる広範な分野である。臨床現場において整形外科疾患に遭遇することがきわめて多いことを念頭に置き、整形外科疾患の診断・治療を学ぶ。埼玉医療センター整形外科では、ロコモティブシンドロームの原因としても重要な下肢疾患（股・膝関節、足部）や脊椎疾患を中心に各分野の専門家が高度な医療を提供している。実習を通じて、整形外科疾患の診療における基本的な考え方の理解を深めていただく。それぞれの専門家の下、基礎的な疾患の理解から、個々の患者さんに応じた効果的な治療法までを、以下の項目に沿って系統的に理解することを目的とする。

整形外科疾患について自然経過と病態。

整形外科疾患の画像診断および治療法。

患者の社会的背景や QOL に配慮しながらの病歴聴取。

鑑別に必要な身体所見とその評価法。

2. 指導教員名

教 授：神野 哲也

准 教 授：栃木 祐樹、渡邊 敏文

講 師：片柳 順也、片桐 洋樹、齋藤 龍佑、垣花 昌隆、小谷野 岳
塩田 幹夫、森下 真伍、鈴木 英嗣

助 教：品田 良太、橘 哲也、鈴木 萌、築瀬 司、小沼 宏樹

3. 注意事項, 事前・事後学習

医療現場に臨むのに相応しい身なりを整える。

四肢関節や脊椎・脊髄神経の解剖と機能についての基本事項を事前に学習する。

(60 分)

担当した疾患について調べ、知識を整理する。

G-2-35) 腰背部痛

G-2-36) 関節痛・関節主張

G-2-37) 外傷・熱傷

G-3-1) 一般手技

G3-3) 外科手技

G-4-2) 上記以外の診療科、整形外科

4. 実習内容及び実習方法

病棟実習においては担当症例を決め、術前診察や手術、術後管理について学ぶ。
外来診察においては問診や診察に参加し、診療の進め方や患者さんとの接し方を学ぶ。

各種勉強会、カンファレンスに参加し、疾患への理解を深める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 提出されたレポートを添削し、返却する。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

整形外科疾患の病態、鑑別診断、保存的・外科的治療などを総合的に理解する。

担当症例については手術術式や注意すべき合併症なども含めて学習する。

脊椎・四肢症状を主訴とする患者の問診・診察の流れを理解する。

6. 評価基準

症例レポート、実習記録、実習の感想を総括時に提出し以下の項目について評価する。

- ・ 出欠。
- ・ 医師として相応しい振る舞い（服装・言葉づかい）ができるか。
- ・ 医療チームの一員として積極的に診療に参加できるか。
- ・ 割り振られた症例に対し、治療方針を組み立てられるか。
- ・ 症例を簡潔明瞭にプレゼンテーションできるか。

7. 週間予定表

※実習の開始・終了時刻が手術予定等により変更となる場合は、事前に連絡する。

時間 曜日	午 前 9:00-12:00	担当者	午 後 13:00-17:00	担当者
月	手術参加（膝）	片桐洋樹 齋藤龍佑 塩田幹夫 鈴木英嗣	教授／准教授回診 術前術後カンファランス	神野哲也 栃木祐樹 渡邊敏文 ほか
火	手術参加（股）	神野哲也 橘 哲也 小谷野 岳	手術参加（股）	品田良太 鈴木 萌
水	手術参加（脊椎・足・小児）	片柳順也 垣花昌隆	手術参加 病棟実習	片柳順也 垣花昌隆 森下真伍
木	手術参加（膝） 外来実習	片桐洋樹 齋藤龍佑 塩田幹夫	手術参加 病棟実習 レポート作成	齋藤龍佑 築瀬 司 小沼宏樹
金	手術参加（脊椎・足・小児） 外来実習	栃木祐樹 片柳順也 垣花昌隆 片桐洋樹 品田良太	総括	神野哲也 栃木祐樹 渡邊敏文

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

心臓血管外科

1. 目 的

外科治療を要する循環器疾患・血管疾患の診療を経験し、心臓血管外科に対する理解を深める。

2. 指導教員

教 授：高野 弘志

准 教 授：戸田 宏一，鳥飼 慶

講 師：齊藤 政仁（CC 実行委員），小川 博永

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 患者様には医学生で臨床実習として接する旨をお願いするので、医師を目指すものとして真摯な態度で臨むこと
- 2) 患者様は、病気，手術，将来への不安などに対して精神的にも多くの負担を抱えていることを認識した上で接すること
- 3) 患者様と接する前に担当医に「患者様への病状説明」を確認すること
- 4) 第1日目までに、心臓血管外科疾患全般について学習しておくこと
- 5) 第2日目以降はオリエンテーションの際に指示された疾患について、病態，手術方法などを予習しておくこと（約1時間）
- 6) 実習後に教科書や論文などで復習を行うこと（約1時間）
- 7) 清潔操作が特に重要であるため、手術時の手洗いや手術室内での処置には気を付ける事。
- 8) 時間厳守を徹底する事。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-3-3)，G-4-1)-(2)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 問診
- 2) 診察：心音，呼吸音，脈拍など
- 3) 検査：レントゲン，心エコー，造影検査，心臓カテーテル検査，呼吸機能検査，などの方法と結果の見方

- 4) 手術：担当患者様の手術には手洗いをして参加
- 5) 回診，術前術後検討会，抄読会に参加
- 6) 文献的考察を含めた症例レポート提出
- 7) レポートは評価のうえフィードバック

5. 到達目標

- 1) 的確な問診ができる（患者様との良好なコミュニケーションが取れる）。
- 2) 術前一般検査の異常値を指摘することができ、これに対応した適切な術前管理の方法を述べることができる。
- 3) 特殊検査の必要性を指摘することができる。
- 4) 手術適応と手術術式を説明できる。
- 5) 各手術において一般的な術後合併症とその対応について説明ができる。

6. 評価基準

積極性・各疾患に対する理解度。担当症例のサマリー発表により評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午前 8:30-12:00	担当者	午後 13:00-17:00	担当者
月	オリエンテーション 手術見学（実習）	高野弘志	手術見学（実習）	齊藤政仁
火	外来実習	高野弘志	病棟実習	齊藤政仁
水	手術見学（実習）	鳥飼 慶	手術見学（実習）	鳥飼 慶
木	外来実習	戸田宏一 鳥飼 慶	病棟実習	小川博永
金	回診 抄読会 手術見学（実習）	高野弘志 小川博永	担当症例発表	高野弘志 戸田宏一

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

呼吸器外科

1. 目的

呼吸器の主要外科疾患である肺癌、縦隔腫瘍、自然気胸についての基礎知識を整理し、入院患者様の診療を経験して、その診断ならびに治療の実際を経験して理解を深める。

2. 指導教員名

教授：松村 輔二

准教授：小林 哲

学内准教授：荻部 陽子

助教：西平 守道（CC 実行委員）

学内助教：有本 斎仁

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 患者様には医学生で臨床実習として接する旨をお願いするので、医師を目指すものとして真摯な態度で臨むこと
- 2) 患者様は、病気、手術、将来への不安などに対して精神的にも多くの負担を抱えていることを認識した上で接すること
- 3) 患者様と接する前に担当医に「患者様への病状説明」を確認すること
- 4) 実習までに呼吸器外科全般について学習しておくこと（30分）
- 5) 第2日目以降は担当患者の疾患について、病態、手術方法を予習し、実習後に手術書などで復習しておくこと（1時間）
- 6) 清潔操作が重要であるため、手術時の手洗い、ベッドサイドの処置には注意すること
- 7) 時間厳守、理由があつて欠席する場合は担当医あるいはCC担当者に連絡すること
- 8) CCで実習した内容をよく復習してからACCに臨むこと
- 9) 医学教育モデル・コア・カリキュラム対応：G-3-3)外科手技
G-2-13)咳痰，G-2-14)血痰，咯血，G-2-15)呼吸困難，G-2-16)胸痛，G-2-18)胸水

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 問診聴取
- 2) 胸部診察：心音、呼吸音、鎖骨上窩リンパ節触診など
- 3) 一般検査：血液学的検査、肺機能検査、胸部 CT、胸部 MRI、FDG-PET など
- 4) 特殊検査・処置：気管支鏡検査、胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、経皮針生検など
- 5) 手術：担当患者様の手術には手洗いして参加
- 6) 回診、カンファレンスへの参加
- 7) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 的確な問診・病歴の聴取ができる（患者様と良好なコミュニケーションが取れる）。
- 2) 術前一般検査の異常値を指摘することができ、これに対応した適切な術前管理の方法を述べることができる。
- 3) 特殊検査の必要性とその検査結果を理解し、これに対応した適切な治療方法・手術方法を述べるができる。
- 4) 呼吸器外科主要疾患
 - 肺癌：組織分類、TNM 分類、病期分類の診断方法を理解し、部位診断ができる。
 - 手術適応と術式を理解して述べるができる。
 - 自然気胸：その病態を理解し、治療方法の選択について述べるができる。
 - 縦隔腫瘍：その種類と病態を理解し、手術適応と術式の選択を述べるができる。
- 5) 術前・術後管理
 - 各手術における一般的な合併症とその対処について述べるができる。

6. 評価基準

出席状況、呼吸器外科疾患に対する理解度、担当症例のレポートなどにより評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午前 8:00~12:00	担当者	午後 13:00~17:00	担当者
月	オリエンテーション 手術参加（実習）	西平守道 西平守道	手術参加（実習） 患者紹介	小林 哲
火	病棟実習	苅部陽子	病棟実習	小林 哲
水	手術参加（実習）	松村輔二 有本斎仁	手術参加（実習）	小林 哲 有本斎仁
木	外来実習	松村輔二	病棟実習 カンファレンス	苅部陽子 松村輔二
金	病棟実習	有本斎仁	病棟実習	苅部陽子

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

小児疾患外科治療センター

1. 目的

小児科外科疾患，特に新生児および乳幼児の外科疾患や小児の悪性腫瘍などの病態を理解，把握し，その診断ならびに治療の実際を体験する。

2. 指導教員名

特任教授：土岡 丘

講師：重田 孝信 藤野 順子

助教：五十嵐昭宏 長谷川真理子（CC 実行委員）

菊地 健太 岡崎 英人

3. 実習内容及び実習方法

- 1) 実習の開始時刻と終了時刻：実習開始日（月曜日）は午前8時50分までに事務部職員係に集合。9時から1号棟4階（小児病棟）にて実習を開始する。また，火曜日以降は8時30分より小児外科研究室で朝のミーティングに参加した後，実習を開始する。金曜日は8時より小児外科研究室で抄読会に参加する。実習の終了時刻は17時とする。
- 2) 病棟，外来では担当医とともに診療に参加し，病歴の聴取，身体所見の診察，検査の選択ならびに実施・評価，手術の準備（術前処置），手術後の管理，診療記録（電子カルテ）への記載などを体験し，その基本を理解する。
- 3) 手術に際しては，患児が手術室に入室する前から患児に随伴し，手術直前の患児の状態を観察した後，担当医とともに手術室に入室する。手術室入室後は手術チームの一員として麻酔の実際，手術手技などを体験し，さらに病室に帰室後は状態が安定するまでの間，担当医と行動をともにし手術後の管理を体験する。
- 4) 回診，カンファレンス，症例検討会，セミナーなどに参加し，チーム医療の実際を理解する。
- 5) 口頭試問では上記の実習を通して小児外科疾患の病態，診断，治療に関する基本的な理解が得られているかが問われる。
- 6) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

4. 到達目標

上記の実習内容を通じて、小児外科疾患の病態，診断，治療を正しく理解する。また，チーム医療の一員としてこれに参加することにより生命，人格に対する尊厳ならびに自然科学に対する真摯な探求心を常に心がけるべきことの重要性を理解する。

5. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

実習前までに小児の診察，身体所見の取り方などについて事前に予習しておくこと（最低1時間）。

実習に際しては服装，身だしなみなどに注意し，医療人としての品位ある言動および行動に心がけること。

実習の終了後には，当日，担当した患者の疾患について，教科書を用いて復習し（最低1時間），知識の整理に努めること。

図書室などの院内の施設は原則として利用可能であるが，その利用に際しては担当者に申し出て，利用規則に従うこと。

尚，無断で実習を欠席，遅刻，早退した場合は評価の対象外となるので注意すること。

また，夜間の外出等は極力控え，事故の無いよう心がけること。

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-1-1)-(1)～(3)，G-3-3)，G-4-1)-(2)

6. 評価基準

臨床実習委員会による「CCの評価基準」に従う。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (8:30～12:00)	担当者	午 後 (13:00～17:00)	担当者
月	オリエンテーション 病棟・術前管理	重田	病棟・検査	五十嵐
火	ミーティング 手術	土岡，重田 五十嵐，藤野 長谷川，菊地 岡崎	手術	土岡，重田 五十嵐，藤野 長谷川，菊地 岡崎
水	ミーティング 外来 病棟・術後管理	五十嵐	検査	五十嵐
木	ミーティング 外来 病棟・術前管理	藤野 長谷川 菊地	病棟	藤野 長谷川 菊地
金	抄読会（8時開始） ミーティング 手術	土岡，重田 五十嵐，藤野 長谷川，菊地 岡崎	手術 口頭試問	土岡，重田 五十嵐，藤野 長谷川，菊地 岡崎

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

産科婦人科

1. 目的

産科婦人科の診療内容は広く、周産期医学、腫瘍学、生殖内分泌学、思春期・更年期・老年期医学等に大別され、内科的視野と外科的視野の両方が要求される。また、近年の医師国家試験においては教科書的な知識のみならず、臨床的視点から出題される問題が増加している。産科婦人科学の理解を深め、国家試験の準備のためには、意欲をもって知識を増やす努力が必要であるが、さらに産科婦人科診療の実際を体験することはそれ以上に重要である。

埼玉医療センターの CC の実習では外来、病棟にて産科婦人科診療の実際を体験し、産科婦人科学に対する理解を深め、併せて臨床的な知識の拡充を図ることを目的とする。

2. 指導教員名

教授：高倉 聡

学内教授：坂本 秀一 杉本 公平（リプロダクションセンター）

学内講師：濱田 佳伸（CC 実行委員） 飯塚 真

学内助教：山口乃里子 入江 太一 齊藤 陽子 吉川 直希

市川 鉄平 齋藤加奈美 根本 興平 鈴木 啓介

高鹿 泰昌 小笠原 愛 土屋 慶 稲垣 里咲

小杉 怜央 濱野 愛 加藤 弘輔 小菅 綺音

木全 綾伽

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

前述した様に産科婦人科学の診療内容は多岐にわたり、様々な年齢の女性が受診される。また、当科の診療の特殊性から、受診される女性は不安感が強かったり、神経質になっていることが多いので、診療の際には、学生は自らの言動に注意することが必要である。学生は3，4年次の系統講義，演習内容を復習しておく（最低1時間）。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1), G-1-1)-(3) 1~9, 12, 13, G-2-2)~4), G-2-11), G-2-20), G-2-21),
G-2-25), G-2-26), G-2-29~31), G-3-1)①, ②, ⑦, ⑫, ⑯, G-3-2)④, G-3-3),
G-4-1)-(4)

4. 実習内容及び実習方法

- ・ 婦人科外来病棟において婦人科疾患（腫瘍，不妊，内分泌疾患，思春期疾患，更年期障害等）の実際を経験する。産科外来病棟においては出生前診断，正常妊娠および内科疾患合併妊娠などの妊婦管理の実際を経験する。リプロダクションセンターにおいて高度生殖医療の実際を経験する。
- ・ 産婦人科手術および分娩時の助手として参加してもらう。
- ・ 指導医は学生に必ず昼食をとらせるよう考慮する。
- ・ 夜間緊急手術や夜間の分娩については学生の希望により，呼び出しによる実習を行うことができる。
- ・ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

主な婦人科疾患の特徴，特異的な検査所見について理解し，記載できる。

妊娠の経過および分娩について理解し，記載できる。

骨盤の解剖学について理解を深める。

生殖内分泌学の基礎について理解を深める。

産婦人科国試の合格レベルに到達する。

6. 評価基準

産婦人科学についての理解度，出席率などを総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 ～12:00	担当者	午 後 ～17:00	担当者
月	8:00～オリエンテーション 8:30～病棟カンファレンス 9:00～手術	高倉 聡 坂本秀一 濱田佳伸	13:00～手術	高倉 聡 坂本秀一 濱田佳伸
火	8:30～病棟カンファレンス 9:00～外来	高倉 聡 濱田佳伸 飯塚 真	13:00～外来	高倉 聡 濱田佳伸 飯塚 真
水	8:30～病棟カンファレンス 9:00～手術	坂本秀一 濱田佳伸 杉本公平 大野田 晋	13:00～手術	坂本秀一 濱田佳伸 杉本公平 齋藤陽子
木	8:30～病棟カンファレンス 9:00～外来	坂本秀一 飯塚 真 山本 篤	13:00～外来	坂本秀一 飯塚 真
金	8:30～病棟カンファレンス 9:00～手術	高倉 聡 杉本公平 大野田 晋	13:00～手術 16:00～医局カンファレンス	高倉 聡 坂本秀一 濱田佳伸

分娩や緊急手術時等は適宜立ち会うものとする。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

眼 科

1. 目 的

当科の豊富な症例をもとに、実際に医師や他の医療スタッフとともに臨床の場に参加することにより眼疾患を理解し、基本的医療行為が習得できるようにする。

2. 指導教員名

教 授：町田 繁樹

講 師：忍田 栄紀 西村 智治

助 教：井上 晋 (CC 実行委員) 権守 真奈 沼尾 舞
林 麗如 田中 うみ 手塚 雄太 佐藤 陽彦

非常勤講師：小島 孚充 高橋 次郎 林 振民

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

- 1) 時間を厳守する。
- 2) 常に医療チームの一員であるとの自覚を持ち、常識ある行動をとる。
服装, 言葉使い, 態度には十分に注意する。
- 3) 必ず指導医または主治医の指導のもとに診療に参加する。
- 4) 眼科の週間行事には原則として参加する。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各 1 時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

様々な光学医療機器による検査・診断学, 基本的な治療・処置の実際について学ぶ。更に, 受け持ち患者様の手術の際には, 実際に手術に参加することにより眼科学に対する理解を深める。

外 来：各種検査機器使用目的と使用方法の理解

病 棟：術前, 術後の管理 (検査, 処置, 治療)

手術室：白内障, 緑内障, 網膜硝子体疾患, 斜視, 各種眼外傷などに対する手術の見学あるいは助手

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 基本的な眼科診療の習得を目標とする。
- 2) 患者様に対して十分な問診ができる。
- 3) 各種検査機器を使用して眼所見を取ることができる。
- 4) 眼疾患の病態と眼所見の意味が理解できる。
- 5) 基本的な眼疾患の診断ができ，適切な治療方針について説明できる。
- 6) 全身疾患に伴う眼所見の意義を理解する。
- 7) 眼科特有の処置，治療法を習得する。

6. 評価基準

- 1) 実習態度
- 2) 出席状況
- 3) 眼科学についての理解度

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 ～12:00	担当者	午 後 ～17:00	担当者
月	8:50～オリエンテーション 外来見学・実習	井 上 町 田	13:00～外来実習 15:30～教授回診	町 田 井 上
火	8:45～手術見学	忍 田 権 守	14:00～外来実習（斜視・弱視） 16:00～病棟実習 17:45～カンファレンス	林（麗） 手 塚
水	9:00～外来実習 （白内障，糖尿病）	忍 田 西 村	14:00～病棟実習	手 塚 権 守
木	9:00～外来実習 （黄斑部疾患，ロービジョン）	忍 田 西 村	14:00～外来実習 16:00～病棟実習	忍 田 西 村
金	9:00～手術見学 11:00～外来実習 （緑内障，網膜硝子体）	西 村 町 田	13:00～外来実習	町 田 佐 藤

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. 目的

耳鼻咽喉・頭頸部外科の多様性についてはCCで触れたと思います。ACCでは更に踏み込み気道確保の重要性や緊急時への対応も含めて学ぶことを目的とします。感覚器のエキスパートとして嗅覚，味覚，聴覚，平衡覚のメカニズムとそれに関わる疾患，治療法を学びます。

2. 指導教員

教授：田中 康広

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

感覚器の障害を持つ患者様が多数おりますので，それぞれの問題点を抽出して個々に応じた対応を考えて接するようにしましょう。場合によっては筆談によるコミュニケーションが必要な場合もあります。

必ず予習，復習をして自身にとって有益となる実習を送りましょう。

準備学習に必要な時間

予習：2時間 耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の疾患，治療法，手術解剖を理解する。

復習：2時間 実習内容での問題点の抽出と解決方法を明らかにする。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-2-1), G-2-9), G-2-13), G-2-15), G-2-19), G-2-27)

4. 実習内容及び実習方法

- ・外来診療や手術で必要とされる内視鏡や顕微鏡を使えるように練習します。
- ・手術日には原則として手術助手として手洗いをし，手術の準備を行います。
- ・指導医とともに患者さんの診察を行い，問題点を話し合います。

5. 到達目標

当診療科に特有な局所所見を正確に記載し，診断及び治療について考えること，患者様と接し問題点を抽出することを到達目標とします。また手術の内容を理解し，手術への参加と術後管理を行うことを次の目標とします。

6. 評価基準

耳鼻咽喉・頭頸部外科診療に対する理解度および積極的な診療への参加などを評価します。

知識の豊富さよりも常に自分で考える姿勢や人に接する態度が大切です。

学習した内容については面接試問にて評価を行い，個人にフィードバックします。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00～9:30 オリエンテーション 9:30～11:00 診療実習 11:00～12:00 外来	田中康広	13:00～17:00 腫瘍外来 中耳炎外来	田中康広
火	9:00～12:00 手術（手洗）	西畠嘉容	13:00～17:00 手術（手洗）、 カンファレンス	西畠嘉容
水	9:00～12:00 外来診療	穂吉亮平	13:00～17:00 病棟診療	穂吉亮平
木	9:00～12:00 手術（手洗）	田中康広	13:00～17:00 手術（手洗）	田中康広
金	9:00～12:00 病棟診療	穂吉亮平	13:00～16:30 環状線外来 16:30～17:00 面接試問	西畠嘉容

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

脳 神 経 外 科

1. 目 的

急性期を中心とした脳神経外科疾患の診療を通し、臨床的な知識・技術・見識を身につける。

(ACC では最先端技術のクルズスを加える)

2. 指導教員名

教 授：鈴木 謙介

准 教 授：滝川 知司 (CC 実行委員) 永石 雅也

学内講師：高野 一成 鈴木亮太郎

助 教：杉浦 嘉樹 河村 洋介 藤井 淑子

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準 (医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号)

1. 時間厳守 (G-1-1) - (1))

2. 医療スタッフとして信頼される着装で参加 (G-1-1) - (1))

清潔感のある頭髪、服装で参加すること。

常識の範囲を超えた化粧及びアクセサリーは不要である。

3. 誠実かつ謙虚な姿勢で患者さんと接すること (G-1-1) - (1))

正しい言葉づかい、プライバシー保護に留意。

4. 事前学習 (G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-19, G-2-32, G-2-21, G-2-32, G-2-33, G-2-34, G-2-37, G-3-1, G-3-2, G-4-2)

4年生時までの講義内容を再学習しておくこと (最低1時間)。

特に脳卒中 (脳梗塞・脳出血・くも膜下出血) の初期症状・治療、その他の脳血管障害 (未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、脳動静脈奇形、脳硬膜動静脈瘻など)、脳腫瘍の種類について予習しておくこと。

4. 実習内容 及び 実習方法

実習内容

獨協医科大学埼玉医療センターは地域の三次救急医療を担当しており、重症脳卒中及び外傷患者を多く搬送される施設である。また全国でも有数の脳卒中、血管内治療専門医が在籍する施設であり、埼玉東部地域で急性期脳卒中治療の中樞を担っている。一次から三次救急まで幅広い救急患者が毎日搬送されており、急

性期の診療に参加し実際の臨床現場での診断・治療について学習する。加えて、脳腫瘍の病態についての理解を深める。

また血管内治療センターおよび脳神経外科では、その疾患の特性上、創部処置、腰椎穿刺、中心静脈カテーテル・動脈留置カテーテル挿入、気管内挿管、気管切開、胃管・尿道カテーテル挿入など病棟での基本手技が多い。処置に積極的に参加し、救命処置・基本手技の理解及び習得を目指す。重症患者の診療における、呼吸・循環を含めた全身管理を学習する。

実習方法

1. 毎朝のカンファレンス・病棟回診に参加し、画像所見・身体所見について学ぶ
2. 血管内治療センターは、脳神経外科と併設されており、脳血管障害について、外科的手術と血管内治療の両観点から学ぶ。
3. 担当医と共に病棟処置に参加し、基本手技を練習し**実践する**。
4. 手術・血管内治療・血管造影検査に参加し、検査・手術手技を学ぶ。
5. 脳卒中及びリハビリカンファレンスにて他診療科との discussion に参加する。
6. 各自 1 名の患者を受け持ち、指導医と共に毎日診療に参加する。
7. 最終週に抄読会を受け持ち、発表を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

5. 到達目標

1. 急性期の医療現場を体感し、これまでの知識に reality を付加する。
2. 担当患者の身体診察法、診断プロセス、検査法、治療法を理解し説明できる。
3. 担当患者を毎日診察し、良好なコミュニケーションがとれる。
4. 担当患者の主訴、検査結果、身体所見、問題点、評価、治療計画をまとめることができる。
5. 脳卒中の見逃してはいけない頭部 CT・MRI 所見を読影できる。

《一般目標》

一般医として必要な脳神経外科領域の臨床手技・実技・知識や考え方を学び、将来の臨床医としての基本的能力を学ぶ。

《行動目標》 (G-1-1)

- ① 礼節をもって患者に接することができる。
- ② 患者の病歴を適確に聴取できる。
- ③ 患者の疾病の診断に必要な神経学的診察ができる。
- ④ 患者の診断・治療手技について理解できる。
- ⑤ 基本的な神経放射線学的読影ができる。
- ⑥ 基本的な神経生理学的診断ができる。
- ⑦ 的確な患者・画像プレゼンテーションができる。
- ⑧ 基本的な臨床手技ができる。(採血、点滴、穿刺など)
- ⑨ 基本的な手術手技ができる。(切開、縫合、糸結び)
- ⑩ 脳神経外科疾患の基本的な知識がある。
- ⑪ PBL(Problem Based Learning)方式にのっとり、患者の問題点を診察録に適切に列挙・記載し、その問題の解決ができる。
- ⑫ 患者の社会的な背景まで考慮することができる
- ⑬ 以下の症候について病態生理を理解し、鑑別診断を挙げ、適切なアセスメントを行って、プランを立てることができる。

(G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-19, G-2-32, G-2-21, G-2-32, G-2-33, G-2-34, G-2-37)

<症候>

- 1) 意識障害・失神
- 2) 頭痛
- 3) 運動麻痺・筋力低下
- 4) けいれん
- 5) めまい
- 6) 運動失調と不随意運動
- 7) 歩行障害
- 8) 言語障害
- 9) 頭蓋内圧亢進

- 10) 四肢のしびれ
- 11) 脳神経症状
- 12) 高次脳機能障害
- 13) 神経内分泌学的徴候
- ⑭ 以下の疾患・病態の概要(疫学、原因、病態生理、症状、検査、診断、治療、予後)について理解し、指導医のもとでマネジメントができる。

<疾患・病態>

- 1) 脳・脊髄血管障害
- 2) 脳・脊髄腫瘍
- 3) 頭部外傷
- 4) 脊髄・脊椎疾患
- 5) 末梢神経疾患
- 6) 中枢神経先天奇形・周産期脳障害
- 7) 機能的疾患

《経験できる医行為》 (G-3-1, G-3-2)

- ① 一般手技
 - 1. 皮膚消毒
 - 2. 静脈採血
 - 3. 末梢静脈確保
 - 4. 胃管挿入
 - 5. 尿道カテーテル挿入抜去
 - 6. 診療記録
- ② 外科手技
 - 1. 清潔操作
 - 2. 手洗い
 - 3. ガウンテクニック
 - 4. 縫合・糸結び
 - 5. 抜糸
 - 6. 消毒・ガーゼ交換

- ③ 検査手技
 - 1. 経皮的酸素飽和度モニター
- ④ 診察手技
 - 1. 医療面接
 - 2. 診察法
 - 3. バイタルサイン
 - 4. 高齢者の診察 (ADL 評価, CGA)
- ⑤ 救急
 - 1. 一次救命処置

《介助・見学できる医行為》 (G-3-1, G-3-2)

- ① 一般手技
 - 1. 中心静脈カテ挿入
 - 2. 動脈採血・ライン確保
 - 3. 腰椎穿刺
 - 4. ドレーン挿入・抜去
 - 5. 全身麻酔、局所麻酔、輸血
 - 6. 各種診断書・検案書・証明書作成
- ② 外科手技
 - 1. 手術、術前・術中・術後管理
- ③ 検査手技
 - 1. 脳波検査 (判読)
 - 2. 頭部 CT / MRI
 - 3. 核医学
 - 4. 脳血管造影検査
- ④ 救急
 - 1. 救命治療 (二次救命処置等)
 - 2. 神経救急病態の初期治療
 - 3. 頭部外傷処置

6. 評価基準

実習への出席、態度、意欲、及び知識、技能を総合的に評価する。

上記到達目標の達成度を鑑みて評価をする。

医学生の段階で深い知識、修練された技能を求めることはない。主に臨床現場への参加姿勢を評価する。意欲を持ち、積極的に知識・技能を求める学生にはそのサポートを惜しまない。実習期間に興味ある領域の理解を深め、実践的な実力をつけて頂きたい。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:00 脳内科合同カンファレンス、 自己紹介 8:30 オリエンテーション 9:00 回診・病棟業務参加 9:00 脳血管造影、 脳血管内治療参加 12:00 午前実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 脳神経外科概要及び 外来見学、脳血管内治 療参加 14:30 オープンリハビリカンファ 17:00 実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当
火	7:45 カンファレンス、抄読会 8:30 回診随行 9:30 手術参加 12:00 午前実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 手術・脳血管内治療参加 16:00 画像診断 17:00 実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当
水	8:00 脳内科合同カンファレンス 9:00 病棟業務参加、手術参加 12:00 午前実習終了	永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 脳血管造影検査 14:00 リハビリカンファレンス 17:00 実習終了	永石雅也 高野一成 脳外科担当
木	8:00 カンファレンス 8:30 回診随行 10:00 手術参加 12:00 午前実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 手術・脳血管内手術参加 16:00 研究について 17:00 実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当
金	8:00 カンファレンス (プレゼンテーション) 8:30 回診随行 10:30 病棟業務参加 12:00 午前実習終了	鈴木謙介 滝川知司 脳外科担当	13:00 脳血管造影検査参加 15:00 口頭試問 17:00 実習終了	鈴木謙介 滝川知司 脳外科担当

指導担当教員

脳神経外科教授 鈴木謙介

指導計画：一般脳神経外科外来診療を知る

脳神経外科准教授 滝川知司
(血管内センター兼任)

指導計画：脳血管障害、脳神経血管内治療を知る

脳神経外科准教授 永石雅也

指導計画：脳腫瘍治療を知る

脳神経外科学内講師 高野一成

指導計画：脳血管障害の外科治療を知る

☆期間により、学会・研究会・懇親会などがある場合には参加を勧める。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

泌尿器科

1. 目的

泌尿器科のACCを通じて、これまで講義にて得た知識を臨床の現場で体験することにより更に理解を深めることとする。

泌尿器科の扱う臓器は副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺・陰茎・精巣と広範囲であり、対象疾患も排尿機能障害・尿路性器悪性腫瘍・感染症・先天奇形・男性不妊症・男性更年期障害・女性泌尿器疾患・腎移植と多岐に及ぶ。

当科は埼玉県の基幹病院として、患者数が極めて多い。多くの症例を経験することにより泌尿器科学の基本的思考法・方法論を学び、さらに自己解決能力を養うとともにコミュニケーションスキルを上達させることを目的とする。

2. 指導教員名

教授：齋藤 一隆

学内教授：宋 成浩（小児疾患外科治療センター）

徳本 直彦（移植センター）

井手 久満（低侵襲治療センター）

学内講師：瀬戸口 誠（CC 実行委員） 岩端 威之 中山 哲成

学内助教：井上 泰之 泉 敬太 大阪 晃由 福田 悠一

安田 友佳

3. 実習内容及び実習方法

○外来実習

- 1) 初診患者の問診聴取（泌尿器科学的に必要な情報を得る）、基本的理学的診察。
- 2) 泌尿器科的検査（超音波、膀胱鏡、レントゲン撮影、urodynamic study）の見学。
- 3) 体外衝撃波結石治療の見学

○病棟および手術実習

- 1) 指導教官とともに診断・治療プランを立てる。
- 2) 指導教官の informed consent を見学する。
- 3) 受け持ち患者の手術に参加する。

○クリニカルカンファレンスへの参加

入院患者様の病態把握および治療計画の検討

○ACC に対するレポートの提出

病態およびそれに対する治療への総合的理解

○課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

4. 到達目標

- 1) 泌尿器科学的な問診・診察・検査を体験し、確定診断を得るための方法論の概要を理解する。
- 2) 泌尿器科学的画像診断のポイントを理解し、正常像と異常像の違いを判別できる。
- 3) 排尿障害（前立腺肥大症を含む）、前立腺癌、膀胱癌、尿路結石、尿路性器感染症、腎移植等の診断・治療法を理解する。

5. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 医療チームの一員であることを自覚し、患者様に接する際には身だしなみ・言葉遣いに留意し、相手に不快感を与えないようにする。
- 2) 泌尿器科の特性として、外陰部の診断・治療を行うことが多いため、患者様の心理面には特に配慮が必要である。
- 3) 医療とりわけ外科診療科はチーム医療が大事である。指導教官のみならずパラメディカルとの間のコミュニケーションを十分とるように心がける。

医学教育モデル・コア・カリキュラム：

- G-1-1) — (1) 医師として求められる基本的な資質・能力
- G-1-1) — (2) 診療の基本 (F 参照)
- G-1-1) — (3) 学生を信頼し任せられる役割
- G-2-20) 腹痛
- G-2-28) 尿量・排尿の異常
- G-2-29) 血尿・タンパク尿
- G-2-35) 腰背部痛
- G-3-1) 一般手技
- G-3-2) 検査手技
- G-3-3) 外科手技
- G-3-4) 救命処置
- G-4-2) 上記以外の診療科

6. 評価基準

実習に対する積極性、態度、患者様への接遇、泌尿器科疾患および診療の流れの理解の程度より総合的に判断する。

7. 週間予定表 × 4

時間 曜日	午 前 ～12:00	担当者	午 後 ～17:00	担当者
月	8:00～オリエンテーション カンファレンス 9:00～手術	齋藤一隆 瀬戸口 誠	14:00～手術 腫瘍外来, 腎移植外来	井手久満 徳本直彦
火	8:00～回診 9:00～手術	兵頭洋二	14:00～手術または ESWL	瀬戸口 誠
水	8:00～回診, カンファレンス 9:00～外来実習	瀬戸口 誠	14:00～腫瘍外来 手術	中山哲成
木	8:00～回診 9:00～手術	宋 成浩	14:00～男性不妊外来	岩端威之
金	8:00～回診 9:00～手術	徳本直彦	14:00～小児泌尿器科外来	宋 成浩

実習初日の集合場所 泌尿器科 医局 午前8時

付記1.

実習前までに CC で学んだ学習内容を復習, 改めて腎, 尿路, 男性生殖器の解剖, 清潔操作, 泌尿器科手技, 術式について事前に予習しておくこと (予習に必要な時間: 5時間, 復習に必要な時間: 10時間)。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

形成外科

1. 目的

形成外科が診療対象としている疾患・病態について理解を深める。スタッフと共に行動することにより、診断・治療の実践の結果のみならず、その診断・治療にいたる過程を学ぶ。創傷処置、縫合、組織移植術など、外科の基本的な手技と考え方を理解する。

2. 指導教員名

学内教授：鈴木 康俊（ACC 実行委員）

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ・患者様と接するのにふさわしい、清潔で清楚な身だしなみに気をつけ、白衣、ネームプレートを着用する。
- ・患者様側からは、学生ではなく、医療従事者側として認識されること忘れないようにする。
- ・患者様と直接接する時だけでなく、病院内にいる間は、常に医療従事者としての態度・振る舞いをする。
- ・患者様のプライバシーに配慮し、診療情報などの取扱いを遵守する。
- ・患者様の症状や治療についての質問等は、患者様の前で直接行わないように注意する。
- ・遅刻・欠席については、必ずCC 実行委員や他のスタッフに連絡する。
- ・実習をより充実するために、大学での講義内容を予習・復習することが望ましい（最低1時間）。
- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-1, G-2-37), G-3-1)①～③, ⑤, ⑥, ⑬, ⑭, ⑯, ⑰, G-3-3), G-4-1)-(2), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

実習日のスケジュールに従って、担当者と共に、外来診療、外来手術、中央手術、病棟処置などに従事する。外来手術、中央手術では、手術に助手として参加することを優先する。外来診療、病棟処置では、疾患に関することを学ぶだけではなく、医療人としての振る舞いを学ぶ。診療の流れ、診療態度、他科との協力、他の医療スタッフとの連携などを幅広く見学する。ACC では、実習期間中に手術患者を1人以上受け

持つ。1人の患者が入院して退院するまでの経過中に、担当医が行う業務（入院時の全身・手術局所の状態を把握、複数の治療方針および手術術式の策定と選択、創部の状態判断と適切な処置・対処など）を把握し、担当医と共に実践し、治療全般に関する理解を深める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックは行っていないが、下記6. 評価にあたり、レポートの再提出などを求めることもある。また卒業認定および学位授与に実習内容が関与することはない。

5. 到達目標

- 1) 形成外科が診療対象としている疾患・病態について理解を深める。
- 2) 形態と機能を両立した治療について考える。
- 3) 創傷の取扱い、組織移植などの外科基本手技を学ぶ。
- 4) 乳房再建、他科再建手術を通じ、再建外科を学ぶ。
- 5) 入院患者を受け持ち、病棟業務を通じて、患者治療における医師としての役割を理解し実践する。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、レポートなどにより総合的に判断する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容)	担当者	午 後 (内容)	担当者
月	8:45~12:00 朝病棟回診 受け持ち患者業務 外来・外来手術	鈴木康俊	13:30~17:00 受け持ち患者業務 外来手術・病棟処置 カンファランス	鈴木康俊
火	8:45~12:00 朝病棟回診 中央手術	鈴木康俊	13:30~17:00 中央手術	鈴木康俊
水	8:45~12:00 朝病棟回診 外来		13:30~17:00 病棟処置 受け持ち患者業務	
木	8:45~12:00 朝病棟回診 外来・外来手術	鈴木康俊	13:30~17:00 外来・外来手術 受け持ち患者業務	鈴木康俊
金	8:45~12:00 朝病棟回診 外来	鈴木康俊	13:30~17:00 病棟処置 総括	鈴木康俊

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

救 急 医 療 科

1. 目 的

救急患者の診察・アセスメントと初期治療の基本スキルをシミュレーション・実地トレーニングにより獲得する。学習するカテゴリーは心肺蘇生、クリティカルな内科系病態、外傷、中毒。

2. 指導教員名（※¹救命救急センター出向 ※²CC 実行委員）

教 授 松島 久雄

講 師 杉木 大輔 杉本 一郎※¹ 鈴木 光洋※²

五明佐也香 上笹貫俊郎

助 教 上原 克樹 鈴木 達彦 畠山 稔弘

加藤万由子

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ・救急医療を十分に経験するため、週 1～2 回の当直を行います。
- ・外履き以外の上履き（サンダルは不可）を持参してください。
- ・救急搬送があった場合は予定表よりも初療室での実習を優先します。
- ・臨床基本実習サブノート（救急・医療面接・外科手技）をよく復習（最低 1 時間）してから CC に臨んでください。
- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-2-5), G-2-6), G-3-4), G-4-1)-(7), G-4-4)

4. 実習内容及び実習方法

- ・臨床研修医に準じた実習
- ・初療室、ER-ICU での診療への参加、症例プレゼンテーション
- ・BLS・ACLS など基本的スキルのシミュレーション学習
- ・毎日ポートフォリオを提出
- ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- ・心肺蘇生チームのメンバーとして治療に参加できる。
- ・内科系救急患者の診察・アセスメントの手順を理解し、初期治療の基本スキルを獲得する。
- ・外傷患者の診察・アセスメントの手順を理解し、初期診療の基本スキルを獲得する。
- ・初期治療後の全身管理、とくに呼吸・循環管理の基本スキルを獲得する。
- ・担当患者のプレゼンテーションができる。

6. 評価基準

- ・実習時の態度・マナー
- ・ポートフォリオ
- ・担当患者のプレゼンテーション

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00～12:00 朝カンファレンス 病棟回診 指導医による回診総括 オリエンテーション	鈴木光洋	13:00～17:00 スタッフミーティング M&M カンファレンス トータルケアカンファレンス	松島久雄
火	8:00～ 朝カンファレンス 病棟回診・病棟処置	加藤万由子	13:00～16:00 シミュレーション (救急患者の初期診断)	上笹貫俊郎
水	8:00～ 朝カンファレンス 症例プレゼンテーション 病棟回診・病棟処置	畠山稔弘	13:00～16:00 シミュレーション (外傷初期診療)	五明佐也香
木	8:00～ 朝カンファレンス 処置・手術への参加・見学	杉本一郎	13:00～16:00 シミュレーション (不安定な患者の見方)	杉木大輔
金	8:00～朝カンファレンス 症例プレゼンテーション 病棟回診・病棟処置	上原克樹	13:00～16:00 総括	松島久雄

*当直時は 16:00～夕回診 21:00～当直回診

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

麻 醉 科

1. 目 的

手術室における麻酔実習を通して循環，呼吸など患者の全身状態を把握する。またペインクリニック外来を通して疼痛関連疾患に対する理解を深める。

2. 指導教員

教 授：奥田 泰久 浅井 隆 新井 丈郎

講 師：橋本 雄一（CC 実行委員） 齋藤 朋之 齊間 俊介
鈴木 博明

助 教：河津 裕美 遠藤 聖子 高橋 慧

非常勤講師：加瀬 幸子 久野裕一郎

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ・青い布がかかった清潔なもの，機械等にむやみに触れないこと。
- ・手術室内では私語を慎むこと。
- ・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し，最低各 1 時間の予習および復習を行うこと。

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)，G-1-1)-(3)，G-2-5)，G-2-6)，G-3-1)①～⑯

4. 実習内容及び実習方法

- ・実習予定表は別記の通りである。
- ・集合時間は 8：00 とし術前カンファレンスに参加する。
- ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・提出されたレポートを添削し，返却する。

5. 到達目標

- ・術前患者のリスク，問題点などを把握できる。
- ・術中使用するモニターを理解し説明できる。
- ・術中使用薬剤を理解できる。
- ・術後疼痛法を理解できる。
- ・急性疼痛と慢性疼痛の違いを理解できる。
- ・慢性疼痛患者に対する神経ブロック療法を理解できる。

6. 評価基準

- ・ 出席日数
- ・ 実習態度
- ・ 質問に対する回答など

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 8:00~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	オリエンテーション 術前回診	新 井 (1882)	手術室実習 術前・術後鎮痛について	新 井 橋 本 (1898)
火	手術室実習 気道確保について	浅井教授 (1887)	手術室実習 術中使用薬剤について	橋 本
水	手術室実習 モニターについて	浅井教授 久 野 齋 藤 (1911)	手術室実習 中心静脈穿刺法	浅井教授 鈴 木 (1901)
木	ペインクリニック外来 神経ブロックについて	加 瀬 齋 間 (1896)	手術室実習 硬膜外・脊髄クモ膜下麻酔	橋 本 齋 藤
金	手術室実習 小児麻酔	新 井 鈴 木	口頭試問	新 井

都合により変更の可能性がある。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

総合がん診療センター

1. 目的

悪性腫瘍の治療の大きな柱である（１）化学療法、（２）放射線療法、（３）緩和ケアについて、臨床の現場を体験することにより、今まで学んできた悪性腫瘍診療についての知識を深める。

病理診断に基づく「がん登録」の重要性についても理解する。

2. 指導教員名

学内教授：新井 学（CC 実行委員）

准教授：古田 雅也

学内准教授：小島 誠人

学内助教：草野 祐実 中根えりな

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

（１）当センターの教員は、他の診療科と兼任しており、兼任している診療科でも、ACCの実習を担当することもある。そのため、当センターでのACC実習の受け入れ人数は、年間2-3名までとし、当センターでの実習を強く希望する学生のみを受け入れたい。

（２）患者様と接するときは、身だしなみに十分留意し常識ある言動をとること。守秘義務を厳守すること。特に、当センターの患者様は全員が悪性腫瘍であり、進行がんの患者様も治療中です。疼痛・嘔気などの身体的苦痛・精神的や社会的苦痛を全患者様・ご家族が抱えていらっしゃるの、十分に言動に注意すること。（がんが非告知の患者様もいます）

（３）指導医とコンタクトを密にし、医療行為は単独では行わないこと。

（４）時間を厳守し、常に所在を明らかにすること。

（５）当センターでは、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・診療記録士・事務職員など、多くの職種でチーム医療を行っている。他の職種の方々の立場を尊重すること。

（６）実習前までに、主な悪性腫瘍についてのみ、病理学で学んだ知識を復習しておくこと（最低1時間）。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

(1) 化学療法：通院治療センターで実習する。同室の設備を見学する。主な悪性腫瘍の診断・治療などの知識を復習しながら、化学療法の適応・レジメンの選択法・化学療法の手順・アレルギーや血管外漏出等の副作用対策を学ぶ。抗がん剤の無菌調剤を見学する。

数名の外来患者様を担当する。カルテにより担当患者様の状態を十分に把握してから、問診を行い、現在の問題点をピックアップし指導教官とともに解決策を考える。

(2) 放射線治療：火曜日に放射線治療の見学を行う。

(3) 緩和ケア：毎週月曜日に行なわれる緩和ケアチームのラウンドに参加する。

(4) 病理診断法・がん登録：がん登録に必要な病理診断・がん登録の実際を学ぶ。

(5) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

5. 到達目標

(1) 患者様とのコミュニケーションが円滑にとれ、問診や現病歴の聴取がスムーズにでき、患者様の抱えている問題点を把握できる。

(2) 主な悪性腫瘍について、化学療法の適応・レジメン選択法、化学療法の手順と副作用対策等を理解する。

(3) 放射線治療の現場を体験し知識を深める。

(4) がん登録の重要性を理解する。

(5) 緩和ケアの実際を体験する。

6. 評価基準

出席状況・実習態度・悪性腫瘍診療の理解度などを総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容)	担当者	午 後 (内容)	担当者
月	9:00-10:00 オリエンテーション 10:00-12:00 緩和ケアチームのラウンド に参加	新井 草野 中根	13:00-17:00 緩和ケアチームのラウンド に参加 外来化学療法室設備の説明 外来化学療法の手順の理解 抗がん剤の無菌調剤の見学	中根
火	9:00-12:00 放射線治療見学	古田	13:30-17:00 放射線治療見学	古田
水	9:00-12:00 外来診療の見学	草野	13:00-17:00 がんゲノム医療について	新井
木	9:00-12:00 外来診療の見学	小島	13:00-17:00 外来化学療法患者の診察	小島
金	9:00-12:00 TMN 分類とがん登録について	新井	13:00-17:00 まとめ、質疑応答	新井

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

乳 腺 科

1. 目 的

増加しつつある乳癌に対して、学生のうちから診断や治療の重要性を認識していただく。

乳癌、甲状腺癌の発生、疫学、診断、治療を臨床実習、小講義を通して学習する。

2. 指導教員名

特 任 教 授：小川 利久

学内准教授：丹羽 隆善

学 内 講 師：辻 英一（CC 実行委員）

学 内 講 師：林原 紀明

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

外科系診療科であるので、手術参加は必須である。疾患の治療は手術を通して担当教官より指導する。診断は外来診療に参加することで学習する。

乳癌の疫学や発生、化学療法を含む治療の総論各論は小講義の時間を設定するため、ここで学習されたい。事前学習は、標準外科学の内分泌、乳腺疾患を読んで置くこと（最低1時間）。事後学習は実習中に教えた内容をノートにまとめ、これは復習されたい（最低1時間）。

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-1-1)-(3), G-2-29), G-3-3)

4. 実習内容及び実習方法

- 1、手術実習：手術は週に5-6件あるので、可能な限り参加する。
- 2、手術日以外の日は、レポート課題を作製し指導教官に提出すること。
- 3、カンファランスは必ず参加すること。
- 4、担当医とともに病棟を回診し、入院患者の疾患を学習する。
- 5、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1、乳癌の診断、治療の概要を理解する。
- 2、化学療法剤の性質、効果、副作用を把握する。
- 3、甲状腺癌の診断、治療の概要を理解する。
- 4、副甲状腺腺腫の診断、治療の概要を理解する。

6. 評価基準

- 1、実習最終日に教授により、レポート課題が出される。作製されたレポート内容をみて学習到達度を評価する。
- 2、実習中の学習態度は各教官により評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容) 9 : 00~12 : 00	担当者	午 後 (内容) 13 : 00~17 : 00	担当者
月	病棟回診 手術参加	辻 英一	手術見学 カンファランス	辻 英一
火	レポート作製	丹羽隆善	レポート作製	丹羽隆善
水	レポート作製	小川利久	レポート作製	林原紀明
木	病棟回診 手術参加	辻 英一	カンファランス (月) が休日の場合	辻 英一
金	レポート作製	丹羽隆善	レポート作製	丹羽隆善

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

臨床検査部

1. 目的

実習とクルズスを通じ、基本的な臨床検査法と検査結果の解釈を理解し、緊急検査としての検体検査が実施できるようにする。

2. 指導教員名

教 授：春木 宏介 連絡先（内線 2022, 2630, PHS1930）

学内准教授：党 雅子（CC 実行委員） 連絡先（内線 2631, PHS1931）

講 師：本田 なつ絵（CC 実行委員） 連絡先（内線 2631, PHS1934）

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 検査室内は白衣を着用すること。
- 2) 決められている時間は厳守し、病気などで休むときは連絡すること。
- 3) 実習での検査試料の取り扱いと後始末は指示に従うこと。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各 1 時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1), G-2-1), G-3-2), G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 採血実習を学生による医療面接形式で行い、採血手技と抗凝固剤の使用法を習得する。
- 2) 各自の血液を用いて汎用される項目について検査を行い、結果の解釈について学ぶ。
- 3) 尿一般・沈渣の検査：〈尿定性〉試験紙の原理，試験紙の検査方法。
〈尿沈渣〉採取方法，調整法，沈渣の観察。
- 4) 糞便検査：便潜血の免疫学的検出法。
- 5) 髄液検査：細胞数算定。
- 6) 血球算定検査：白血球の算定，赤血球の算定。
- 7) 血液像検査：〈末梢血液像〉末梢血液塗抹標本の作成，染色標本の観察。
〈骨髓像〉正常骨髓像と異常骨髓像の観察。
- 8) 凝固・線溶検査：出血時間（Duke 法），活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）。

- 9) 免疫血清検査：梅毒血清反応（RPR（Rapid Plasma Reagin）テスト）、免疫気泳動図の観察。
- 10) 輸血検査：A B O式とR h式の血液型判定，交差適合試験。
- 11) 微生物検査（細菌検査）：〈1日目〉塗抹検査，分離培養，同定検査および薬剤感受性検査。〈2日目〉塗抹・培養の判定，同定検査と薬剤感受性検査の判定。
- 12) 緊急検査：血糖測定，妊娠反応（尿中hCGイムノクロマト法）。
- 13) 薬物モニタリング（Therapeutic Drug Monitoring）：TDMの目的，方法，解釈。
- 14) 生理機能検査：循環機能（心電図），呼吸機能，超音波，脳波，神経・筋検査などの概略を視聴覚学習（ビデオ）にて理解する。
- 15) チーム医療に参加し，その意義と各スタッフの役割を理解する。
- 16) 海外渡航前に必要なワクチン接種についての基本を理解する。
- 17) 海外渡航帰りの患者の病歴聴取，検査計画と治療
- 18) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 検査試料の取り扱い，検査成績に及ぼす変動因子を理解し，異常結果の有無を判別できる。
- 2) 基準値・基準範囲の概要を説明できる。
- 3) 尿定性試験の試験紙法を実施でき，説明できる。尿沈渣検査を実施でき，血球系，上皮系，円柱，結晶，微生物など代表的異常例の説明ができる。
- 4) 便の潜血反応検査を実施でき，結果を解釈できる。
- 5) 髄液の細胞数を算定し，結果を解釈できる。
- 6) 白血球数と赤血球数を算定でき，血算の結果を説明できる。
- 7) 末梢血液像，骨髓像の概略を説明でき，代表的疾患の異常を指摘できる。
- 8) 凝固・線溶系の概略を説明できる。
- 9) 梅毒血清反応の RPR テストを実施でき，梅毒血清について説明できる。免疫電気泳動像で免疫グロブリン異常症における沈降線パターンを判定できる。
- 10) 血液型判定と交差適合試験を実施し，解釈することができる。成分輸血を解釈し，目的に対応した血液製剤を選択できる。輸血に対する副作用を述べる。

- 11) 細菌学的検査用の検体を採取し、提出する際の注意を挙げる。グラム染色を実施し、結果を解釈できる。起炎菌の感受性検査結果を正しく解釈し、抗生物質を選択できる。
- 12) 埼玉医療センターにおける緊急検査項目、パニック値を列挙し、POCT (point of care testing) を説明できる。
- 13) 特定薬剤治療管理料の対象薬剤を列挙し、薬物モニタリング (TDM) に関する検査結果を解釈できる。
- 14) 各種生理機能検査の概略を説明できる。
- 15) 臨床検査における精度管理の基本事項を説明できる。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、検査手技、質問に対する回答などにより総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 9:00~12:00	担当者	午 後 13:00~17:00	担当者
月	オリエンテーション	春 木	採血実習 簡易検査 POCT	本 田
火	腹部エコー	春 木	微生物 (院内感染対策) その他	春 木
水	腹部エコー	党	微生物 その他	本 田
木	心エコー	党	血球算定検査 尿一般 沈渣 免疫血清検査 緊急検査	党
金	選択 (希望の分野)	党	輸血検査 まとめ	党

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

病 理 診 断 科

1. 目的

病理診断業務（組織診断，細胞診，剖検）に関して，検体の扱い方，病理標本の作製法，病理診断とそれを踏まえた臨床医への対応といった一連のプロセスの基本を理解し，医療の場での病理診断の役割・意義を体得する。

2. 指導教員名

主任教授：伴 慎一	連絡先（内線 3300, PHS 1942）
講 師：藤井 晶子	連絡先（内線 3300, PHS 1945）
講 師：松嶋 惇	連絡先（内線 3300, PHS 1939）
講 師：佐藤 泰樹	連絡先（内線 3300, PHS 1949）
学内助教：明石 慶子	連絡先（内線 3300, PHS 1953）
学内助教：椎名 愛優	連絡先（内線 3300, PHS 1954）

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 感染の危険を有する検体の扱い等があるため，白衣・手袋・マスクなどの着用や検体に触れる際の行動に注意し，常に指導者の指示に従うこと。
- 2) 指導医と同様に技師・事務スタッフとの協調に留意し，その指示に従うこと。
- 3) 指示された実習時間を厳守し，やむを得ない事情で欠席する場合は必ず連絡すること。
- 4) 病理検体・標本，病理診断書や関連する文書は患者の個人情報であり，いずれに関しても病理診断科外への勝手な持ち出しは厳禁とする。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し，最低各 1 時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)1, 2, 4~9, G-1-1)-(3)2, 3, 6, 7, 9, 13, G-4-2)学修目標：②, ⑤

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 検体として提出された生検組織，切除臓器の切り出しへの立ち合い，および実際に切り出しを体験することを通じて，検体の固定状態の適否の評価や切り出しの基本とその重要性を学ぶ。

- 2) 検体の固定・切り出し後から脱水・置換，包埋，薄切，染色といった病理組織標本作製過程について説明を受け作製現場の見学を行うとともに，薄切および最も基本的な染色であるヘマトキシリン・エオジン（HE）染色を実際に体験する。
- 3) 免疫組織化学染色（免疫染色）の原理，染色過程について説明・見学を通じて理解し，実際の免疫染色標本を体験する。
- 4) 代表的な病理検体の組織標本を鏡検し，実際の病理組織診断の過程や病理診断書に記載すべき内容について体験する。また，HE 染色以外の特殊染色標本や免疫組織化学染色標本もあわせて鏡検することにより，それらの病理診断過程での必要性・有用性を理解する。
- 5) 細胞診検体の処理，固定，染色といった標本作製過程について，説明・見学を通じて理解する。
- 6) 代表的な細胞診標本を鏡検し，細胞診断の過程や細胞診断書に記載すべき内容について体験・理解する。
- 7) 病理解剖依頼があった場合には病理解剖を見学し，その実施過程を体験するとともに，病理解剖の意義について理解する（実習期間中に病理解剖依頼が無かった場合には，指導医より病理解剖の概要について説明を受ける）
- 8) 以上の実習過程を通じて，病理診断科における病理医および技師スタッフの，それぞれの役割を理解する。
- 9) 病理診断の過程において，病理医と臨床医とが，どのようにコミュニケーションをとっているか，両者の間のコミュニケーションの必要性・重要性を経験する。
- 10) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後，担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 生検組織や切除臓器の固定の方法・意義を説明でき，固定状況の適不適を判別できる。
- 2) 検体の切り出しについて，切り出すべき項目を，例を挙げて説明できる。
- 3) 病理組織標本の作製過程を説明できる。
- 4) 免疫組織化学染色の原理・染色過程を説明できる。

- 5) 主な細胞診検体の処理・標本作製過程を説明できる。
- 6) 病理組織標本と細胞診標本の違いを説明できる。
- 7) 病理組織診断における特殊染色標本や免疫組織化学染色標本の必要性・有用性について、例を挙げて説明できる。
- 8) 病理組織診断書に記載されるべき内容について、例を挙げて説明できる。
- 9) 細胞診断書に記載されるべき内容について、例を挙げて説明できる。
- 10) 病理解剖の意義について説明できる。
- 11) 病理診断科における病理医および技師スタッフそれぞれの役割を説明できる。
- 12) 病理診断における病理医と臨床医とのコミュニケーションの重要性について、例を挙げて説明できる。

6. 評価基準

出席状況，全般的な実習態度，実習中の口頭試問に対する返答状況，技師スタッフの評価などから総合的に評価判定を行う。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前 (内容) (9 : 00～12 : 30)	担当者	午 後 (内容) (13 : 30～17 : 00)	担当者
月	オリエンテーション	伴 慎一	組織標本作製説明・見学	伴 慎一
火	切り出し見学・体験	佐藤泰樹	細胞診検体処理・標本作製説明・見学	佐藤泰樹
水	免疫組織化学染色説明・見学	松嶋 惇	薄切・染色体験	松嶋 惇
木	病理組織標本鏡検， 病理診断書作成の体験	椎名愛優	病理組織標本鏡検， 病理診断書作成の体験	椎名愛優
金	細胞診標本鏡検・説明	藤井晶子	予備・まとめ	藤井晶子

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

リハビリテーション科

1. 目的

急性期病院における日常診療の場でリハビリテーション医学に関する医療者としての活動を体験する。患者の“全身を診る”ことにより患者の日々の活動性を妨げる問題を挙げこれらに対してリハビリテーション処方を行うことを体得する。また、リハビリテーション医療は医師だけでなく療法士，看護師，ソーシャルワーカー等多職種とのチーム医療であることを理解する。これまでに講義で学んできたことを臨床の場で肉づけし，実際に諸問題に取り組み解決する能力に結びつくように，自ら考え実際に役立つ知識・技能にすることを目的とする。

2. 指導教員名

主任教授：上條 義一郎

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 患者等に接する時は，常に常識ある行動をとり，親切で丁寧な対応に努める。
- 2) 病院内で得た情報は決して他に漏らしてはならない（守秘義務を遵守する）。
- 3) 清潔な服装と白衣を着用する。女性はズボンを着用すること。
- 4) 指導医および担当者のもとで患者を受け持ち，診察，訓練に当たる。患者・家族から病状の説明を求められたときは，担当者を通じて返答してもらいできる限りその場に同席する。
- 5) 受け持ち患者の各種機能訓練，諸検査，処置には必ず同席して，どのように行われるかを学び，それら医療行為に参加するよう努める。毎日1回は受け持ち患者を診察するよう努める。分からないところは遠慮なく質問し，受け持ち患者について気づいたことは随時主治医等に報告する。
- 6) 原則として実習終了のサインを，指導医または担当者から，毎日その日のうちにもらう。
- 7) やむを得ず欠席する場合には必ず届け出ること。無断欠席の場合には再実習を課すこともある。

事前学習：講義各種資料を再確認しておく。所要時間の目安・（45分）

事後学習：実習担当さしていただいた症例を再整理し、学習した重点を確認し、不明点は広く検索とう実施して自己解決する。所要時間の目安・（45分）

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1)～(3), G-2-1)～G-2-37), G-3-1), G-3-2), G-4-2), G-4-3)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 診療システムの概要説明ならびに施設紹介などのオリエンテーションを月曜日午前8時50分より病院リハビリテーション室にて行う。
- 2) 各人数名の患者様を受け持ち、訓練担当者とともに医療チームの準一員として各種医療行為に参加する。
 - a 医療情報を確認し適時診察する。患者対応は、訓練室または病棟にて行う。
 - b 理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）の治療場面に同席し、介入方法を学習する。
 - c 受け持ち患者の疾患に伴う障害を把握し問題点を抽出してリハビリ処方しその処方に基づくリハビリテーション治療を毎日見学し経過を追跡し報告するとともにプレゼンテーションする。それに対し試問を行う。
- 3) 補装具等を実際に体験する。
- 4) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・提出されたレポートを添削し、返却する。
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 患者の有する障害により、日常、家庭、社会での活動がどの程度妨げられているのか、問題点を抽出できる。
- 2) 問題点と運動に伴うリスクの評価に基づいてリハビリ治療の計画を立て理学療法、作業療法、言語聴覚療法を処方できる。
- 3) 徒手筋力テストが実施できる。
- 4) 基本的なADLの評価ができる。
- 5) 中枢性麻痺の評価ができる。
- 6) リハビリテーション科医の仕事や役割を理解する。
- 7) 理学療法並びに理学療法職種の役割を理解する。

- 8) 作業療法並びに作業療法職種の役割を理解する。
- 9) 言語療法並びに言語療法職種の役割を理解する。
- 10) 補装具，車椅子，義肢の適応を理解する。

6. 評価基準

- 1) 出席率：日数
 - 2) 受け持ち症例について：プレゼンテーション，報告書作成並びに試問
 - 3) 担当指導医による評価：診察技術とマナー，医学一般知識など
- 以上に基づき総合評価を行う（100点満点）。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:50 リハビリテーション室集合 9:00 オリエンテーション 10:00 病棟患者診療（リハ医と伴に） 12:00 午前実習終了（月-金）	上條	13:30 神経内科リハカンファ 14:00 病棟患者診療（リハ医と伴に） 16:30 クルズス 17:00 午後実習終了（月-金）	上條
火	8:50 朝ミーティング 9:30 受け持ち患者1 決定 10:00 病棟患者診療 11:30 リハビリ処方実践	上條	13:00 受け持ちリハ見学 16:00 受け持ち患者プレゼン 16:30 クルズス 17:00-18:00 心臓リハカンファ	上條
水	8:50 朝ミーティング 9:30 受け持ち患者2 決定 （火に決まらない場合） 10:00 病棟患者診療 11:30 リハビリ処方実践	上條	13:00 受け持ちリハ見学 14:00 脳外科リハカンファ 16:30 クルズス	上條
木	8:50 朝ミーティング 9:00 受け持ち患者リハ見学	上條	13:00 心臓リハビリ見学（CPX も） 14:00 全受持患者リハ見学 16:00 小児リハビリ見学（NICU, 外来）	上條
金	8:50 朝ミーティング 9:00 全受持患者リハ経過報告書作成	上條	15:00 受け持ち患者プレゼンテー ション（経過報告）と試問 最終評価	上條

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

血管内治療センター

1. 目的

急性期を中心とした脳神経外科疾患の診療を通し、臨床的な知識・技術・見識を身につける。

(ACC では最先端技術のクルズスを加える)

2. 指導教員名

センター長：奥田 泰久

准 教授：滝川 知司 (CC 実行委員)

3. 注意事項, 事前・事後学習

1. 時間厳守 (G-1-1) -(1))

2. 医療スタッフとして信頼される着装で参加 (G-1-1) -(1))

香水はつけないこと。

清潔感のある頭髪、服装で参加すること。

常識の範囲を超えた化粧及びアクセサリーは不要である。

3. 誠実かつ謙虚な姿勢で患者さんと接すること (G-1-1) -(1))

正しい言葉づかい、プライバシー保護に留意。

4. 事前学習 (G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-19, G-2-32, G-2-21, G-2-32, G-2-33, G-2-34, G-2-37, G-3-1, G-3-2, G-4-2)

4年生時までの講義内容を再学習しておくこと (最低1時間)。

特に脳卒中 (脳梗塞・脳出血・くも膜下出血) の初期症状・治療、その他の脳血管障害 (未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、脳動静脈奇形、脳硬膜動静脈瘻など) について予習しておくこと。

4. 実習内容 及び 実習方法

実習内容

獨協医科大学埼玉医療センターは地域の三次救急医療を担当しており、重症脳卒中及び外傷患者を多く搬送される施設である。また全国でも有数の脳卒中、血管内治療専門医が在籍する施設であり、埼玉東部地域で急性期脳卒中治療の中核を担っている。一次から三次救急まで幅広い救急患者が毎日搬送されており、急性期の診療に参加し実際の臨床現場での診断・治療について学習することを第一の目的とする。

また血管内治療センターおよび脳神経外科では、その疾患の特性上、創部処置、腰椎穿刺、中心静脈カテーテル・動脈留置カテーテル挿入、気管内挿管、気管切開、胃管・尿道カテーテル挿入など病棟での基本手技が多い。処置に積極的に参加し、救命処置・基本手技の理解及び習得を目指す。重症患者の診療における、呼吸・循環を含めた全身管理を学習する。

実習方法

1. 毎朝のカンファレンス・病棟回診に参加し、画像所見・身体所見について学ぶ
2. 血管内治療センターは、脳神経外科と併設されており、脳血管障害について、外科的手術と血管内治療の両観点から学ぶ
3. 担当医と共に病棟処置に参加し、基本手技を練習し**実践する**
4. 手術・血管内治療・血管造影検査に参加し、検査・手術手技を学ぶ
5. 脳卒中及びリハビリカンファレンスにて他診療科との discussion に参加する
6. 各自 1 名の患者を受け持ち、指導医と共に毎日診療に参加する
7. 最終日に受け持ち患者のプレゼンテーションを行う

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。

5. 到達目標

1. 急性期の医療現場を体感し、これまでの知識に reality を付加する
2. 担当患者の身体診察法、診断プロセス、検査法、治療法を理解し説明できる
3. 担当患者を毎日診察し、良好なコミュニケーションがとれる
4. 担当患者の主訴、検査結果、身体所見、問題点、評価、治療計画をまとめることができる
5. 脳卒中の見逃してはいけない頭部 CT・MRI 所見を読影できる

《一般目標》

一般医として必要な脳神経外科領域の臨床手技・実技・知識や考え方を学び、将来の臨床医としての基本的能力を学ぶ。

《行動目標》（G-1-1）

- ① 礼節をもって患者に接することができる。
- ② 患者の病歴を適確に聴取できる。

- ③ 患者の疾病の診断に必要な神経学的診察ができる。
- ④ 患者の診断・治療手技について理解できる。
- ⑤ 基本的な神経放射線学的読影ができる。
- ⑥ 基本的な神経生理学的診断ができる。
- ⑦ 的確な患者・画像プレゼンテーションができる。
- ⑧ 基本的な臨床手技ができる（採血、点滴、穿刺など）。
- ⑨ 基本的な手術手技ができる（切開、縫合、糸結び）。
- ⑩ 脳神経外科疾患の基本的な知識がある。
- ⑪ PBL(Problem Based Learning)方式にのっとり、患者の問題点を診察録に適切に列挙・記載し、その問題の解決ができる。
- ⑫ 患者の社会的な背景まで考慮することができる。
- ⑬ 以下の症候について病態生理を理解し、鑑別診断を挙げ、適切なアセスメントを行って、プランを立てることができる。

(G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-19, G-2-32, G-2-21, G-2-32, G-2-33, G-2-34, G-2-37)

<症候>

- 1) 意識障害・失神
 - 2) 頭痛
 - 3) 運動麻痺・筋力低下
 - 4) けいれん
 - 5) めまい
 - 6) 運動失調と不随意運動
 - 7) 歩行障害
 - 8) 言語障害
 - 9) 頭蓋内圧亢進
 - 10) 四肢のしびれ
 - 11) 脳神経症状
 - 12) 高次脳機能障害
 - 13) 神経内分泌学的徴候
- ⑭ 以下の疾患・病態の概要(疫学、原因、病態生理、症状、検査、診断、治療、予後)について理解し、指導医のもとでマネジメントができる。

<疾患・病態>

- 1) 脳・脊髄血管障害
- 2) 脳・脊髄腫瘍
- 3) 頭部外傷
- 4) 脊髄・脊椎疾患
- 5) 末梢神経疾患
- 6) 中枢神経先天奇形・周産期脳障害
- 7) 機能的疾患

《経験できる医行為》（G-3-1, G-3-2）

① 一般手技

1. 皮膚消毒
2. 静脈採血
3. 末梢静脈確保
4. 胃管挿入
5. 尿道カテーテル挿入抜去
6. 診療記録

② 外科手技

1. 清潔操作
2. 手洗い
3. ガウンテクニック
4. 縫合・糸結び
5. 抜糸
6. 消毒・ガーゼ交換

③ 検査手技

1. 経皮的酸素飽和度モニター

④ 診察手技

1. 医療面接
2. 診察法
3. バイタルサイン
4. 高齢者の診察(ADL 評価, CGA)

⑤ 救急

1. 一次救命処置

《介助・見学できる医行為》 (G-3-1, G-3-2)

① 一般手技

1. 中心静脈カテ挿入
2. 動脈採血・ライン確保
3. 腰椎穿刺
4. ドレーン挿入・抜去
5. 全身麻酔、局所麻酔、輸血
6. 各種診断書・検案書・証明書を作成

② 外科手技

1. 手術、術前・術中・術後管理

③ 検査手技

1. 脳波検査 (判読)
2. 頭部 CT / MRI
3. 核医学
4. 脳血管造影検査

④ 救急

1. 救命治療 (二次救命処置等)
2. 神経救急病態の初期治療
3. 頭部外傷処置

6. 評価基準

実習への出席、態度、**意欲**、及び知識、技能を総合的に評価する。

上記到達目標の達成度を鑑みて評価をする。

医学生の段階で深い知識、修練された技能を求めることはない。主に臨床現場への参加姿勢を評価する。しかしながら、意欲を持ち、積極的に知識・技能を求める学生にはそのサポートを惜しまない。実習期間に興味ある領域の理解を深め、実践的な実力をつけて頂きたい。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:00 脳内科合同カンファレンス、 抄読会、自己紹介 8:30 オリエンテーション 9:00 回診・病棟業務参加 9:00 脳血管造影、 脳血管内治療参加 12:00 午前実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 脳神経外科概要及び 外来見学、脳血管内治 療参加 17:00 実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当
火	7:45 カンファレンス 8:30 回診随行 9:30 手術参加 12:00 午前実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 手術・脳血管内治療参加 16:00 画像診断 17:00 実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当
水	8:00 脳内科合同カンファレンス 9:00 病棟業務参加、 手術参加 12:00 午前実習終了	永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 脳血管造影検査 14:00 リハビリカンファレンス 17:00 実習終了	永石雅也 高野一成 脳外科担当
木	8:00 カンファレンス 8:30 回診随行 10:00 手術参加 12:00 午前実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当	13:00 手術・脳血管内手術参加 16:00 研究について 17:00 実習終了	滝川知司 永石雅也 高野一成 脳外科担当
金	8:00 脳卒中カンファレンス (プレゼンテーション) 8:30 回診随行 10:30 病棟業務参加 12:00 午前実習終了	鈴木謙介 滝川知司 脳外科担当	13:00 脳血管造影検査参加 15:00 口頭試問 17:00 実習終了	鈴木謙介 滝川知司 脳外科担当

指導担当教員

脳神経外科教授 鈴木謙介

指導計画：一般脳神経外科外来診療を知る

脳神経外科准教授 滝川知司

(血管内センター兼任)

指導計画：脳血管障害、脳神経血管内治療を知る

脳神経外科准教授 永石雅也

指導計画：脳腫瘍治療を知る

脳神経外科学内講師 高野一成

指導計画：脳血管障害の外科治療を知る

☆期間により、学会・研究会・懇親会などがある場合には参加（無料）

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

移植センター

1. 目的

移植センターの CC を通じて、これまで講義にて得た知識を移植臨床の現場で体験することにより理解を深めることとする。移植センターにて現在実際に施行している臓器移植は、腎移植および肝移植である。各学生は既に学んだ基礎医学及び臨床医学の知識を基に、腎移植では主に慢性腎臓病（CKD）・末期腎不全を中心に腎臓の基本的知識から原疾患からの慢性腎不全に対し本実習で割り当てられた受持ち患者の画像診断及び臨床検査所見を通して病態をまずは把握する。そして指導医師とともに腎代替療法（RRT）が治療選択となった患者さんに適切なインフォームドコンセント（IC）を行い、組織適合性検査の結果から個々に対し適切な免疫抑制療法を選択する。次に実際に免疫抑制剤を投与しながら免疫抑制療法療法のコントロール方法や各種日和見感染症に対する予防なども行うなど腎移植前後における基本を徹底して学ぶ。とくにハイリスクの移植前の患者にはより綿密な免疫抑制療法や脱感作療法などを加えた治療計画を立てることが求められる。実際に腎移植前と後ではこれらをチーム内・移植カンファレンスで討論する事により、腎移植患者に対して適切に診療し治療計画を立てる能力を養う。この過程において、学生は常に患者の人格尊重とプライバシー保護を最優先し、指導医の監督、指導のもとに医学生として診療活動に責任ある態度で行動する。特に、移植診療では移植コーディネーターなど医師以外の医療スタッフを含めたチーム医療が大変重要であり、その一員として参加型臨床実習を体験する。

2. 指導教員名

学内教授：徳本 直彦

学内講師：瀬戸口 誠（CC 実行委員）

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 実習前までに CKD を中心に腎臓の基本的知識、RRT における透析療法、腎移植について事前に予習しておくこと（最低 1 時間）。小講義では積極的に質問する。

- 2) 本実習期間中、学生はすべての部署（病棟、検査室、手術室、医局内）において移植センタースタッフとして扱われる。従って、常にその自覚を持って、患者及びその家族をはじめ、連携各科医師、各部署と対応する。
 - 3) 患者の情報は、決して他人には漏らしてはならない原則を遵守する。
 - 4) 各指導医・担当医は、病棟管理、検査、手術、外来、緊急処置等をこなしているため、常に学生各位から密に連絡をとり指導医、担当医と共に行動する。
 - 5) 医療行為は断じて単独で行ってはいけない。（許可された行為に関しては必ず指導医あるいは他の担当医立会いのもとで行うこと。）
 - 6) 患者及び家族への疾患の説明に関しても、単独で行わない。（予め指導医あるいは他の担当医と協議の上、医師同席のもとで行う。患者の側から意識的に医学部生に質問されることがあるので、特に注意する）
 - 7) 担当患者の症例検討、担当患者について質問や疑問がある場合は、積極的に主治医や指導教員とディスカッションする。
 - 8) CC で実習した内容をよく復習（最低1時間）してから ACC に臨むこと。
 - 9) 原則として欠席は認めない。やむを得ず出席できない場合は、必ず ACC 担当医及び所属グループの指導医に連絡する。後日、欠席分の ACC 実習を課す。
- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
- G-1-1)-(1)～(3), G-2-1), G-2-4), G-2-11), G-2-12), G-2-20), G-2-26), G-2-28), G-2-29), G-2-31), G-3-1)～3), G-4-1)-(2)学修目標, G-4-2)

4. 実習内容及び実習方法

- 1) 学生各位はその割り当てられた患者を毎日診察し、日々変化する身体所見、検査所見を電子カルテに記載する。指導教員によるカルテ記載の有無チェックを毎日行う。
- 2) 注意深く診察・観察し事から診療過程を理解し、指導医と現状の問題点や今後の治療指針等に関して活発な討論を行う。これにより個々の疾患に対して系統的に知識を整理し、基本的な診療体系の修得を目指す。
- 3) 担当患者の検査、処置や治療の際には、可能な限り積極的に参加する。
- 4) 担当患者について、責任指導教員と相談の上で適切なテーマを決めて、文献的な考察を行う。論文の要旨は最終レポートに記載し、評価の対象となる。

- 5) ブラッドアクセス関連手術（内シャント設置術など）、移植腎生検を見学し、質疑応答を行う。
- 6) レポート提出：担当症例発表時に提出：受け持ち患者様の疾患について画像診断および臨床検査所見を通して病態を把握し、腎移植における術前・術後管理、免疫抑制法などを整理し、レポートを作成し、考察を含め10分以内で発表する。実習全体の評価は参加意欲とレポートでおこなう。レポートは、金曜日の担当症例発表時までには作成する。
- 7) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
 - ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 入院患者との間に良好な関係、コミュニケーションを持つことができる。
- 2) 患者の医療面接と身体診察を適切に行うことができる。
- 3) 担当疾患の病態、診断と腎代替療法に対する治療の進め方を説明できる。
- 4) 腎移植について免疫抑制療法、拒絶反応など文献的な検索を含め考察できる。
- 5) 割り当てられた時間内に、簡潔・明瞭に症例を呈示することができる。
- 6) 主な腎疾患の病態や診断・治療に関する基本的知識を説明できる。
- 7) 移植腎生検の適応、禁忌、合併症、前処置、手順、検査後の注意などを説明できる。
- 8) 腎移植ドナーとレシピエントの適応、合併症、基本的な手術手技を説明できる。
- 9) 移植医療の要となるチーム医療の重要性と、その一員としての役割を理解する。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、レポート等などより点数化し総合的に評価する。

評価方法：A：80-100， B：70-79， C：60-69， D：60>

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:00-カンファレンス 8:50-患者紹介 9:00-病棟/手術実習	徳本直彦 瀬戸口誠	13:00-病棟/手術実習 18:00-19:00 泌尿器科・腎移植合同カンファレンス	瀬戸口誠
火	8:30-病棟カンファレンス 9:00-透析センター見学 10:00-腎移植外来陪席	徳本直彦	13:00-病棟/移植腎生検見学 17:00-18:00 腎移植カンファレンス (第1、3のみ)	徳本直彦
水	9:00-病棟/手術実習/透析センター見学	瀬戸口誠	13:00-17:00 病棟/移植腎生検見学/手術実習	瀬戸口誠
木	9:00-病棟/手術実習/透析センター見学	瀬戸口誠	13:00-17:00 病棟実習	瀬戸口誠
金	8:30-腎移植カンファレンス 9:00-手術実習：生体腎移植など	徳本直彦 瀬戸口誠	手術実習終了後、 16:00-17:00 担当症例発表、	徳本直彦

実習初日の集合場所 泌尿器科 医局 午前 8:00

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

子どものこころ診療センター

1. 目的

小児科領域の中で、特に神経発達症（発達障害）および小児心身症の実際の患者に応用し、患者から種々の情報を得るための基本的技能を身につける。患児を診察して診断計画を立てて診断し、治療方針を立てる能力を獲得し、それと共に患児および保護者の心理を理解し診療を円滑に進める基本的態度を身につける。

2. 指導教員名

教授：作田 亮一

助教：大谷 良子、井上 建、松島 奈穂、
北島 翼、椎橋 文子、森下 菖子

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- 1) 時間を遵守する。
- 2) 実習前に、発達障害、小児心身症領域の疾患について、知識を整理しておく（事前学習として最低1時間）。
- 3) 指導医または主治医の指導のもとに診療に参加する。
- 4) 子どものこころ診療センター、小児科の回診、勉強会等に参加する。
- 5) 保護者に対する態度に配慮する。
- 6) 体調不良の際は、指導医に申し出で対応に関する指示を待つこと。
 - ・医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-2-2)～G-2-4), G-2-8), G-2-9), G-2-20), G-2-21), G-2-23),
G-2-31), G-2-33), G-2-34)

4. 実習内容及び実習方法

小児病棟および小児科外来において、主治医の診療について以下の項目を学ぶ。

発達障害の診断ガイドライン、診察法、知能検査等を実習する。

心身症のガイドライン、診察法、心理検査等を実習する。

摂食障害患者の診察、身体管理について病棟で実習する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
- ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 1) 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の診断基準を理解する。
- 2) 療育の基本を理解する。
- 3) 心理社会的要因に注目し心身症における心身相関を理解する。
- 4) 心身症と器質的疾患の鑑別を理解する。
- 5) 基本的な面接方法を理解する。
- 6) 児童精神領域の薬物療法を理解する。
- 7) 摂食障害における身体管理を理解する。

6. 評価基準

出席状況、実習態度、基本的知識に関して総合的に評価する。

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 病棟・陪席	作田、大谷 井上、松島	15:00 小児科回診	作田、大谷 井上、松島
火	9:00 病棟・陪席	松島、北島	13:00 病棟・外来陪席	松島、北島 森下
水	9:00 病棟	作田、大谷 井上、松島 北島、椎橋	12:30 ランチカンファレンス 14:00 勉強会・抄読会	作田、大谷 井上、松島 北島、椎橋
木	9:00 外来・陪席	作田、大谷 井上、松島 北島	13:00 病棟 15:00 小児科教授回診	作田、大谷 井上、松島 北島
金	9:00 外来・陪席 病棟	作田、大谷 井上、松島 北島	13:00 病棟 16:00 総括（作田）	作田、大谷 井上、松島 北島

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

集中治療科

1. 目的

- 医師として必要な基本的臨床能力を習得する
- 集中治療医学の特徴を理解する
- 高度なチーム医療の実践を経験する

2. 指導教員名

教授：長谷川 隆一

助教：高井 千尋

3. 注意事項, 事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

- ICUには高度な医療機器が多くあり、患者の生命維持に不可欠な機器も日常的に用いられているため十分に気をつけて観察・診療などを行うこと。
- 患者はその病態や鎮静薬の投与により意識レベルが低下している場合があるが、診療にあたっては患者の人間としての尊厳を守ることを第一に振る舞うこと（声掛けや周りへの配慮など）。
- 院内感染が致命的になる場合があり、手洗いや手袋の装着など感染予防を徹底すること。
- 事前・事後学習
実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。
- 医学教育モデル・コア・カリキュラム
G-1-1)-(1), G-1-1)-(3), G-2-1), G-2-5), G-2-7), G-2-10), G-2-15)

4. 実習内容及び実習方法

- 重症患者の診療を通じて、患者の医学的データの収集とそれに基づく論理的な根拠により患者に最適な診断や治療を指導医とともに行う。→G-1-1)-(3)
- 生体情報モニターの見方、ベッドサイドでの超音波診断装置による検査手技、採血や診察手技の訓練を行う。→G-1-1)-(3)
- 多職種カンファレンスに参加し、高度なチーム医療のあり方について観察し体験する。→G-1-1)-(1)
- 集中治療医学の領域における最新の医学研究について、英文論文の抄読会を通じて自らまとめて発表し、知識を整理する。
- なお当科における実習の課題は、実習期間中に適宜付与し、主に対面によって解答を評価する。また抄読会については、作成した資料を評価対象とする。試験あるいはレポートなどを改めて付与することはせず、実習期間中に評価し、必要に応じて進級・卒業の判定に用いるものとする。

- 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
 - ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- 系統的な身体診察ができる。→G-1-1)-(3)
→ICUで行う『from head to toe』の身体診察
- 診療録へ適切な記載ができる。→G-1-1)-(3)
→SOAP形式に則った記載。
- 各種生体モニタリングの評価ができる。
→脈拍，血圧，呼吸数，酸素飽和度（SpO₂）などの意義，正常値を覚える。
→バイタルサイン，Glasgow Coma Scale（GCS），Japan Coma Scale（JCS）を用いた意識レベルの評価ができる。→G-2-1)，G-2-5)，G-2-7)，G-2-10)，G-2-15)
- 多職種チームの中でコーディネーターとしての役割を發揮できる。

6. 評価基準

実習中の姿勢・態度，指導医とのコミュニケーションなどにより総合的に評価する。

7. 週間予定表

- 集合時間：8:30
- 集合場所：埼玉医療センター4号館3F ICU

時間 曜日	午前 (9:00~12:00)	担当者	午後 (13:00~17:00)	担当者
月	初日オリエンテーション (8:30~) 多職種カンファレンス	長谷川 または 多田	患者診察，カルテカンファレンス，新入室患者受入，当直医への引き継ぎ	多田
火	多職種カンファレンス 退室患者支援 ハンズオントレーニング	長谷川	患者診察，カルテカンファレンス，新入室患者受入，当直医への引き継ぎ	長谷川
水	多職種カンファレンス 退室患者支援 ハンズオントレーニング	多田	患者診察，カルテカンファレンス，新入室患者受入，当直医への引き継ぎ	多田
木	多職種カンファレンス 退室患者支援 ハンズオントレーニング	長谷川 または 多田	患者診察，カルテカンファレンス，新入室患者受入，当直医への引き継ぎ	長谷川 または 多田
金	多職種カンファレンス 退室患者支援 ハンズオントレーニング	多田	患者診察，カルテカンファレンス，新入室患者受入，当直医への引き継ぎ	多田 長谷川 (総括)

- * 1ヶ月間の実習期間中に英文論文1篇を批判的に読み，抄読会で発表する。
- * 実習期間中に長谷川が4回面接を行い，学習の進捗および計画について確認，最終的に総括・フィードバックする。

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

超音波センター

1. 目的

超音波検査は循環器、消化器のみならず、内分泌、神経、腎・泌尿器、婦人科など、ほぼ全ての診療科で日常的に行われる検査である。非侵襲的かつ簡便な一方、その守備範囲の広さから、必要十分な技術を習得し、病態と関連付けて理解するのは容易ではない。

本実習では実臨床における超音波診断、超音波を用いた治療などを経験することによって領域横断的に種々の病態生理を学ぶことを目標とする。

2. 指導教員名

教授：玉野 正也
 准教授：小林 さゆき，板橋 裕史
 講師：
 助教：
 非常勤講師：

3. 注意事項，事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

診療の現場にいる自覚を持ち、医療チームの一員としての自覚を持ち責任ある態度で行動する。悪性腫瘍や心不全などの重篤な患者の検査も少なくないので、実習に際しては担当医と十分なコミュニケーションをとって言動に注意を払うこと。

患者様の誤解を受けないように私語を慎むこと。

実際に検査装置や患者に触れることがあるので手指を清潔にし爪を切ってくること。

・事前・事後学習

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

・医学教育モデル・コア・カリキュラム

G-1-1)-(1), G-1-1)-(3)2, 3, G-3-2)⑩

4. 実習内容 及び 実習方法

- ・当センターにて行われる超音波診断、および超音波を用いた治療の見学
- ・シミュレーターを用いた超音波診断学実習
- ・カンファレンス等における超音波所見を中心としたプレゼンテーション技術の習得
- ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
 - ・クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

5. 到達目標

- ・超音波診断の原理・基礎知識を理解できる
- ・超音波診断上の common disease の所見を理解できる。

6. 評価基準

- ・超音波診断と各種病態との関連についての理解度
- ・患者、および医療従事者とのコミュニケーション能力

7. 週間予定表

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9：00～12：00 超音波検査の基本 心臓超音波 腹部超音波	小林, 板橋 (循環器) 玉野 (消化器)	13：00～17：00 心臓、体表。その他の超音波	小林, 板橋 (循環器)
火	9：00～12：00 腹部超音波 心臓、体表、その他	玉野 (消化器) 戸出, 木村 (循環器)	14：00～16：00 心臓・血管超音波 16：30～17：30 エコーカンファレンス	戸出 木村 (超センター) 板橋 (循環器)
水	9：00～12：00 心臓・血管超音波	戸出 木村 (超センター)	13：00～17：00 心臓・血管超音波	辻本 本多 (超センター)
木	9：00～12：00 心臓超音波 腹部超音波	小林 稲垣, 他 (臨床検査部)	13：00～17：00 心臓・血管超音波	小林, 板橋 (循環器)
金	9：00～12：00 心臓・血管超音波	辻本 本多 (超センター)	14：00～15:00 超音波の基礎 16：00～17:00 まとめと試問	須田 (消内) 板橋

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術 (ICT) などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

日光医療センター

1. 目的

日光医療センターにおける呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、膠原病・アレルギー内科、心臓・血管・腎臓内科、皮膚科、放射線科の内科系と外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、麻酔科の外科系を含めた総合医療に対する理解を深める。

2. 指導教員名

教授：安 隆則 長田 伝重
学内教授：川本 進也 (CC 実行委員) 山口 悟
杉村 浩之 堀江 康人 南出 晃人
准教授：大谷 直由
学内准教授：渡邊 由佳 中谷 祐己 佐藤 愛
幸 英夫 藤井 宏一 知花 和行
学内講師：尾形 英生
特任教授：緑川由紀夫 伴場 信之 原澤 寛

3. 注意事項、事前・事後学習・教育課程内の位置づけや水準（医学教育モデル・コア・カリキュラム記号・番号）

日光医療センターの診療システムは電子カルテシステムであり、全ての医療従事者がカルテを共有出来るものである。従って患者様の個人情報への漏洩には細心の注意を払い、これを防止すること。医療機器の取り扱いには専門的知識と技術を要するため、装置にむやみに手を触れたりしないこと。大型装置のある部屋に入る時は必ず許可を得ること。

患者様の対応は、医学生らしくどのような患者様にも尊厳をもって丁寧に接し、言動には細心の注意を払うこと。

実習期間中は翌日の予定を確認し、最低各1時間の予習および復習を行うこと。

医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応

【循環器/心臓・血管・腎臓内科】

G-1-1) - (1) 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

G-1-1) - (3) 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 12

G-2-3) 循環器 4) 急性 5) 循環血液量減少性, 心原性 6) 心血管
7) 全身性 9) 失神性 14) 心血管系 15) 循環器

16) 呼吸器・循環器 17) 循環器・二次性 18) 循環器

G-3-1) ①②⑬ 4) ①②

【呼吸器/膠原病アレルギー内科】

G-1-1) - (1)

G-1-1) - (2)

G-3-2) ⑫

4. 実習内容及び実習方法

可能な限り希望する診療科の一員となり、診断・治療に参加する。

(実習受入可能診療科)

循環器内科/心臓・血管・腎臓内科、呼吸器内科/膠原病・アレルギー内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、外科、整形外科、麻酔科

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 試問後、担当教員から評価についてフィードバックを行う。
- ・ 症例プレゼンテーション時に担当教員よりフィードバックを行う。
- ・ 日々のカルテ記載に対するコメント・添削等によりフィードバックを行う。
- ・ クルズス時に課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行う。

※その他の診療科を希望する場合は、教務課へご相談ください。

5. 到達目標

4週間の実習で、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、膠原病・アレルギー内科、心臓・血管・腎臓内科、皮膚科、放射線科の内科系と外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、麻酔科の外科系も含めた総合医療の診断と治療を出来るだけ効率的に理解する。

さらに、医師、看護師、コメディカル等を含めたチーム医療の重要性を体験する。

6. 評価基準

日光医療センターにおける総合的診療についての理解度。

7. 週間予定表

○ACC 実習予定表

【循環器/心臓・血管・腎臓内科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 - 9:30 オリエンテーション 9:30 - 12:00 心臓カテーテル検査の見学、 心臓カテーテル学のミニレクチャー	安 隆則 安 隆則	13:00 - 17:00 外来実習	杉山 拓史
火	9:00 - 12:00 腎臓内科実習 (透析)	川本 進也	13:00 - 17:00 心エコー検査 外来実習	大谷 直由
水	9:00 - 12:00 EPS, ペースメーカー	堀江 康人	13:00 - 17:00 外来実習	安 隆則
木	9:00 - 12:00 心臓カテーテル検査の見学、 心臓カテーテル学のミニレクチャー	大谷 直由	13:00 - 17:00 腎臓内科実習 透析 (血液・腹膜) 腎生検	川本 進也
金	9:00 - 12:00 心臓カテーテル検査の見学、 心臓カテーテル学のミニレクチャー	杉村 浩之	13:00 - 17:00 心臓カテーテル検査の見学、 心臓カテーテル学のミニレクチャー	杉村 浩之

【呼吸器/膠原病・アレルギー-内科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 - 9:30 オリエンテーション 9:30 - 12:00 外来実習	知花和行	13:00 - 17:00 病棟実習	担当医
火	9:00 - 12:00 病棟実習	担当医	13:00 - 17:00 病棟実習	担当医
水	9:00 - 12:00 病棟実習	担当医	13:00 - 17:00 病棟実習	担当医
木	9:00 - 12:00 病棟実習	担当医	13:00 - 17:00 病棟実習	担当医
金	9:00 - 12:00 外来実習	知花和行	13:00 - 16:00 呼吸器内視鏡 15:00 - 17:00 気管内視鏡実習 カンファレンス	知花和行

担当医：知花和行、吉田亘輝、伊藤 紘、原澤 寛

【脳神経内科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 - 9:30 オリエンテーション 9:30 - 12:00 外来実習(もの忘れ外来) 神経学的所見の取り方	渡邊由佳 渡邊由佳	13:00 - 17:00 病棟実習 問題症例カンファレンス	渡邊由佳
火	9:00 - 12:00 外来実習 神経学的所見の取り方	外来担当医	13:00 - 17:00 脳卒中カンファレンス NIHSS、脳卒中治療	神経内科医師
水	9:00 - 12:00 病棟実習 髄液検査/脳波読影	病棟担当医	13:00 - 17:00 変性疾患カンファレンス パーキンソン病治療	神経内科医師
木	9:00 - 12:00 病棟実習 けいれん治療法	病棟担当医	13:00 - 17:00 画像カンファレンス MRI, 頸動脈エコー検査	神経内科医師
金	9:00 - 12:00 外来実習 神経学的所見の取り方	外来担当医	13:00 - 16:00 リハビリカンファレンス ボツリヌス療法	神経内科医師

糖尿病・内分泌内科

実習内容及び実習方法

- 1) 受け持ち患者を設定し、主治医と共に入院患者の診療に参加する。
 - 2) 外来診察の見学・補助を経験する。
 - 3) エコー検査、負荷試験検査などの見学・補助を経験する。
- 週1回受け持ち患者の診断・治療について発表し検討を行う。
実習を通じて個々の疾患だけではなく、医療人として実際の臨床を経験する。

到達目標

実際の診療において疾患に関する病歴聴取・理学所見の取り方・所見・検査法、検査結果の適切な評価とその基本的治療（食事療法・運動療法・薬物療法）などについて理解する。医療人として心・技・体を理解する。

評価基準

総合的診療についての理解度を実習を通じて評価する。

【糖尿病・内分泌内科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 - 9:30 オリエンテーション 9:30 - 12:00 病棟・外来実習	中谷祐己 伴場信之	13:30 - 17:00 病棟・外来実習	伴場信之 中谷祐己
火	9:00 - 12:00 病棟実習	伴場信之	13:00 - 14:30 甲状腺エコー・吸引細胞診 14:30 - 15:00 病棟実習	伴場信之 中谷祐己 中谷祐己
水	9:00 - 12:00 病棟・外来実習	伴場信之	13:00 - 15:00 病棟・外来実習	伴場信之 中谷祐己
木	9:00 - 12:00 病棟・外来実習 9:00 - 12:00 ※第4週目 三依診療所実習	伴場信之 伴場信之	13:00 - 15:00 病棟・外来実習 13:00 - 16:00 ※第4週目 三依診療所実習	伴場信之 伴場信之
金	9:00 - 12:00 病棟・外来実習	伴場信之 中谷祐己	13:00 - 16:00 第1週 症例検討 病棟実習 第2週 総括	伴場信之 中谷祐己

【外科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00 - 10:00 病棟実習 10:00 - 12:00 内視鏡検査	病棟担当医 山口 悟	13:30 - 17:00 手術実習	尾形英生
火	9:00 - 12:00 病棟実習 (検査処置)	病棟担当医	13:30 - 17:00 病棟実習	病棟担当医
水	9:00 - 12:00 病棟実習	尾形英生	13:30 - 17:00 手術実習	山口 悟
木	9:00 - 12:00 病棟実習	尾形英生	13:30 - 17:00 手術実習	山口 悟
金	9:00 - 12:00 病棟実習	尾形英生	13:00 - 17:00 手術実習	山口 悟

【整形外科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	8:30 - 9:00 リエンテーション、外来実習 9:00 - 12:00 手術実習	長田伝重 大高遼太郎	13:00 - 17:00 手術実習	長田伝重 大高遼太郎
火	8:30 - 9:00 外来・手術カフアレシ 9:00 - 12:00 手術実習	長田伝重 南出晃人 大江	13:00 - 17:00 手術実習	長田伝重 南出晃人
水	8:00 - 8:30 外来・手術カフアレシ 8:30 - 9:00 病棟回診 9:00 - 12:00 手術実習	長田伝重 長田伝重 長田伝重	13:00 - 17:00 手術実習	長田伝重 押久保岳人
木	9:00 - 12:00 外来実習 手術実習	長田伝重 南出晃人	13:00 - 17:00 病棟・手術実習	南出晃人 押久保岳人
金	8:30 - 9:00 外来・手術カフアレシ 9:00 - 12:00 手術実習	南出晃人 押久保岳人	13:00 - 16:00 手術実習 16:00 - 17:00 総括	長田伝重 押久保岳人

【麻酔科】

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
月	9:00～9:30 (集合：手術室) オリエンテーション 9:30～12:00 手術室： 麻酔方法実習	緑川 由紀夫	13:00～15:00 各科手術麻酔実習 15:00～17:00 麻酔科病棟実習	緑川 由紀夫
火	9:00～12:00 声門上器具を用いた 気道確保の実習	藤井 宏一	13:30～16:00 各科手術麻酔実習 16:00～17:00 CV 挿入に関する実習	藤井 宏一
水	9:00～12:00 各科手術麻酔実習 腕神経叢ブロック法	緑川 由紀夫 藤井 宏一	13:30～16:00 手術室： 各科手術麻酔実習 16:00～17:00 麻酔科クルズス	緑川 由紀夫 藤井 宏一
木	9:00～12:00 麻酔科外来： 神経ブロックの見学 病棟： 麻酔科入院患者の治療・ 見学	緑川 由紀夫	13:00～16:00 手術室： 各科手術の麻酔実習 気道確保の実習 16:00～17:00 手術室： クルズス	緑川 由紀夫 藤井 宏一
金	9:00～12:00 麻酔科外来： 神経ブロック治療の見 学・実習	緑川 由紀夫	13:30～15:00 手術室： 各科手術の麻酔導入 15:00～17:00 総括	緑川 由紀夫 藤井 宏一

【各科共通】

実習中 1 回、木曜日の地域医療実習〈日光市立三依診療所〉に参加してください。

時間 曜日	午 前	担当者	午 後	担当者
木	8:30 日光医療センター集合 9:30～12:00 日光市立三依診療所	渡邊 由佳	13:00～15:00 日光市立三依診療所 16:20 頃 日光医療センター到着	渡邊 由佳

8. 卒業認定・学位授与の方針と当該実習科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

氏 名